

茨城県教育財団文化財調査報告第352集

积水新田遺跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書1

平成24年3月

国土交通省利根川上流河川事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第352集

し ゃ か し ん で ん
积迦新田遺跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書1

平成24年3月

国土交通省利根川上流河川事務所
財団法人茨城県教育財団

序

国土交通省では、安全・環境・活力の三つを基本方針に、「信頼感ある安全で安心できる国土の形成」「自然と調和した健康な暮らしと健全な環境の創出」「個性あふれる活力ある地域社会の形成」を目指し、各種施策を展開しています。

その一環として、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所は、猿島郡五霞町において、首都圏並びに地域住民の生命と財産を守ることを目的として、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業を計画しました。しかしながら、この事業予定地内には、埋蔵文化財包蔵地である釧廻新田遺跡が所在することから、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成22年1月から3月までと平成23年1月から3月までの6か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、釧廻新田遺跡の調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、五霞町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木欣一

例　　言

1 本書は、国土交通省の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成 21・22 年度に発掘調査を実施した、

茨城県猿島郡五霞町大字釈迦字地蔵前 2421 の 3 番地ほかに所在する釈迦新田遺跡の発掘調査報告書である。

2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調査 平成 22 年 1 月 4 日～3 月 31 日

平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日

整理 平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

3 当遺跡の発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

平成 21 年度

首席調査員兼班長 成島 一也

主任調査員 小林 和彦

調査員 大久保隆史

平成 22 年度

首席調査員兼班長 皆川 修

主任調査員 小林 和彦

主任調査員 坂本 勝彦

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、主任調査員坂本勝彦が担当した。

5 本書の作成にあたり、「赤堀川切広場所並川筋絵図」と「川辺領・嶋中領・関宿領村々囲い堤絵図」を、
五霞町在住の小澤佳男氏及び五霞町教育委員会に資料として提供いただいた。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X = + 14,160 m, Y = - 8,240 mの交点

を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」「B 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3 … 0 とし、名称は大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」「B 2 b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

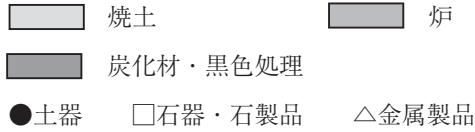
遺構	SD - 溝跡	SE - 井戸跡	SH - 方形竪穴遺構	SI - 竪穴住居跡	SK - 土坑
PG - ピット群					
遺物	DP - 土製品	M - 金属製品	Q - 石器・石製品	TP - 拓本記録土器	W - 木製品
土層	K - 搅乱				

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1, 遺構実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。

(2) 遺物実測図は原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについて個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物の実測図中の表示は次のとおりである。



4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

5 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、土器の現存率及び写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 竪穴住居跡の「主軸」は炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

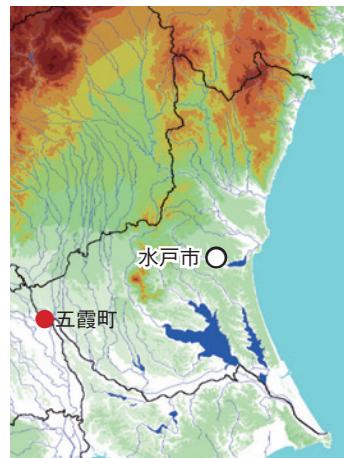
目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 縄文時代の遺構と遺物	10
(1) 壺穴住居跡	10
(2) 土坑	15
2 中世の遺構と遺物	17
(1) 井戸跡	17
(2) 火葬土坑	28
(3) 方形壙穴遺構	31
(4) 土坑	38
3 近世の遺構と遺物	49
(1) 土坑	49
(2) 堀跡	59
4 その他の遺構と遺物	61
(1) 井戸跡	61
(2) 土坑	65
(3) 溝跡	77
(4) ピット群	79
(5) 遺構外出土遺物	82
第4節 まとめ	89
写真図版	PL 1～PL14
抄 錄	

しゃかしんでん 积迦新田遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

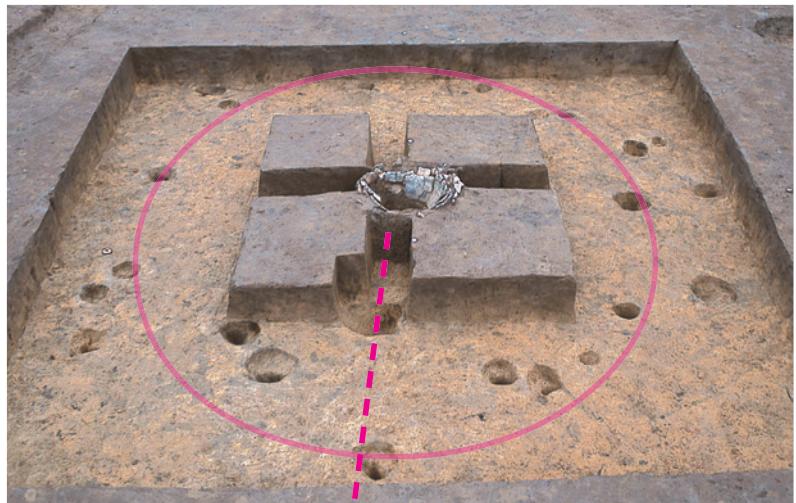
积迦新田遺跡は、五霞町の北部に位置し、東に向かつて流れる利根川右岸の標高約10mの台地上に立地しています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業工事とともに、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成21年度と22年度に発掘調査を行いました。



南西上空から見た22年度調査区 利根川沿いに位置していることが分かります。

調査の内容

堤防を広げる部分になる4,397m²を調査しました。調査の結果、縄文時代中期後葉（約4,500年前）の竪穴住居跡、中世（約700～400年前）の火葬土坑、近世（約300年前）の堀跡などを確認しました。主な出土遺物は、縄文土器や陶器、磁器、石器、銅製品（錢貨）などです。これらの遺構や遺物から、縄文時代は集落として、中世では亡くなった人を火葬した場所として、近世以降は堀があったことから、舟で行き来をしたり、川へ水を流したりする場所であったことが分かりました。



土器を埋めて使われていた
炉跡が見つかった住居跡です。
左の写真の○の線は、住居の柱を立てるための穴が炉跡の周りにあることを示しています。



炉に埋められた土器をよく見てみると、三重に囲まれている様子がわかります。
内側の土器は色が黒くなっていることから、火を受けていると思われます。

頭がすっぽり入るくらいのとても大きな土器です。
形や文様から、どれも今から4,500年くらい前の縄文土器とわかりました。

調査の結果

縄文時代の2軒の住居跡からは、煮炊きをするための炉のあとが見つかりました。そのうち1軒の炉には、縄文土器が埋められていました。煮炊きをする時に食べ物を入れた土器が倒れないようにするために、支えとして使っていたと考えられています。この時代に土器を埋めた炉は珍しくはありませんが、その土器の破片を元の形になるように接合すると、右上の写真のように、何と3つの土器が使われていたことが分かりました。

このように炉を頑丈にした理由は、一体なんだったのでしょうか？縄文人に話を聞いてみたいですね。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成16年12月15日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、平成17年2月28日に現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成20年7月30日、8月6日、茨城県教育委員会は試掘調査を実施した。平成21年1月27日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、事業地内に釧廻新田遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成21年1月28日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成21年2月27日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成21年3月18日及び平成22年3月24日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成21年3月24日及び平成22年3月26日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、釧廻新田遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成22年1月4日から3月31日までと平成23年1月1日から3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

釧廻新田遺跡の調査は、平成22年1月4日から3月31日までの3か月間と平成23年1月1日から3月31日の3か月間にわたって実施した。その概要を表で記載する。

工程	平成22年			平成23年		
	1月	2月	3月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認	■				■	
遺構調査	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注記 写真整理	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収				■		■

第2章 位 置 と 環 境

第1節 地理的環境

釧迦新田遺跡は、猿島郡五霞町大字釧迦字地蔵前 2421 の 3 番地ほかに所在している。

五霞町は、茨城県の南西部の利根川以南に位置しており、北を利根川、東を江戸川、西から南にかけて権現堂川によって区画されている。町域の地形は、利根川及び中・小河川によって開析された低地（谷底平野、自然堤防、三角州平野）と、五霞台地と呼ばれる低位段丘群によって構成されており、町内の最高標高は 17.5 m、最低標高は 9 m で、平均標高は約 12 m である。この利根川流域に広がる低台地は、地質的には新生代第四紀沖積統が中心で、約 1 万年以降までの新しい時代の堆積層によって形成されている。また、この沖積統の下には第四紀洪積統（奥東京湾時代）後期に形成された洪積統が堆積しており、下層から竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層（武藏野ローム層、立川ローム層）に分層される。

釧迦新田遺跡は、五霞町北部の利根川沿いに位置し、標高 10 ~ 11 m の低台地上に位置している。遺跡周辺の土地利用状況は主として耕作地であり、遺跡の状況は水田及び陸田であった。

第2節 歴史的環境

釧迦新田遺跡が所在する現在の利根川流域には、沖積統の低地と洪積統の台地が広がっている。利根川の北側では、利根川の支流によって開析された谷津が広がり、谷津から洪積統の台地にかけて遺跡が存在している。また、利根川の南側は、広大な沖積統が広がり、奥東京湾に面した標高 10 ~ 13 m ほどの低地に遺跡が確認されている。ここでは、釧迦新田遺跡周辺に確認されている遺跡を中心に概要を述べる。

縄文時代の遺跡は、冬木 A 貝塚¹⁾ (10) で後期の竪穴住居跡 29 軒や人骨 18 体、冬木 B 貝塚²⁾ (9) でも後期から晩期にかけての竪穴住居跡 10 軒が調査されている¹⁾。石畑遺跡³⁾ (15)、土塔貝塚³⁾ (5) では、前期と後期の竪穴住居跡などが確認されており、冬木貝塚との関連が想定されている。また、本田遺跡⁴⁾ (32) では、後期から晩期の住居群や遺物包含層が形成されていたことが確認されるなど、当期における拠点的集落としての様相の一部が明らかになっている。さらには五霞町と隣接する埼玉県幸手市、千葉県野田市においても集落跡や貝塚などが数多く分布しており、釧迦新田遺跡周辺は古くから人々の生活の場であったことを示している。

古墳時代の遺跡は、利根川以北の台地上に多く確認されている。前期の遺跡では、集落跡である羽黒遺跡⁵⁾ (23)、かわい山遺跡⁶⁾ (34) のほか、方形周溝墓が 6 基確認されている釧迦才仏遺跡⁶⁾ (25) などがある。中期の遺跡は、竪穴住居跡 1 軒が検出された清水遺跡⁷⁾ (33)、祭祀遺構と考えられている土坑や、滑石製模造品の未製品が多量に出土した香取西遺跡²⁹⁾ や、住居跡から子持勾玉をはじめとする滑石製品の祭祀関連遺物が多量に出土した向坪 B 遺跡⁽³⁰⁾ などがある。後期の遺跡は、集落遺跡である末広遺跡、羽黒遺跡、久能西原遺跡⁽²⁸⁾、駒羽根遺跡⁽²⁷⁾ などが確認されている。

律令期における五霞町域は下総国に含まれており、葛飾郡と猿島郡の両説が唱えられている。しかし、旧総和町水海地区に猿島郡衙が比定されていることや、当時は両地域を現在の利根川が分断しておらず、同じ猿島台地であることから、五霞町域は猿島郡に属していた可能性が高いと考えられている。

奈良・平安時代の遺跡は、かわい山遺跡、羽黒遺跡など古墳時代から継続する遺跡がみられるほか、10 世

紀代の堅穴住居跡 1 軒と掘立柱建物跡 2 棟が検出された日下部遺跡²⁴⁾ や水海城跡²²⁾ などがある。また、複合遺跡である香取西遺跡からは、鉄製品の生産に関連する遺構や遺物が確認されている。

中世になると、古河公方足利氏と関連がある城館跡が分布している。河川に囲まれたこの地域を治める重要性は高く、旧総和町には築田氏一族の城下である水海城跡、五霞町には野田氏の居城である城山城跡⁽¹³⁾、埼玉県幸手市には、一色氏の陣屋跡と考えられている陣屋（幸手市No.3 遺跡）⁽³⁹⁾、千葉県野田市には築田氏嫡流家の居城として発展した関宿城跡⁸⁾⁽³⁶⁾ などが知られている。羽黒遺跡や向坪B遺跡のほか、中世から近世初頭の土坑墓が確認されている香取東遺跡⁹⁾⁽²⁶⁾ や瀬沼遺跡⁽⁸⁾、火葬土坑や地下式坑などが検出された桜井前遺跡¹⁰⁾⁽⁶⁾ など、中世の集落跡や墓域が近年の調査で明らかになってきている。

近世初頭に「利根川東渡」と呼ばれる大規模な河川改修工事が行われたことにより、奥州から鬼怒川を下り、さらに利根川や江戸川を下って江戸へと至る輸送ルートが成立した。その交通・流通機能を大きく担うようになる境河岸⁽³⁵⁾ は、正保期（1644～1647年）に関宿城の城下町として機能するようになった。当該期の遺跡としては、前述した千葉県野田市に位置する関宿城のほか、五霞町に位置し、近世の溝跡 1 条が確認された石畠遺跡、埼玉県幸手市に位置し、陶磁器や木製品が多量に出土した千塚柴原遺跡（幸手市No.4 遺跡）⁽⁴²⁾ などがある。江戸時代後期では、同所新田遺跡¹¹⁾⁽³⁾において製鉄関連遺構が確認され、製鉄もしくは鉄製品の再加工を行っていた工人集団の存在が推測される。さらに瀬沼遺跡からは江戸時代後期の船着場が確認され、水上交通が日常生活や経済活動の中で重要な位置を占めていたであろうことは想像に難くない。

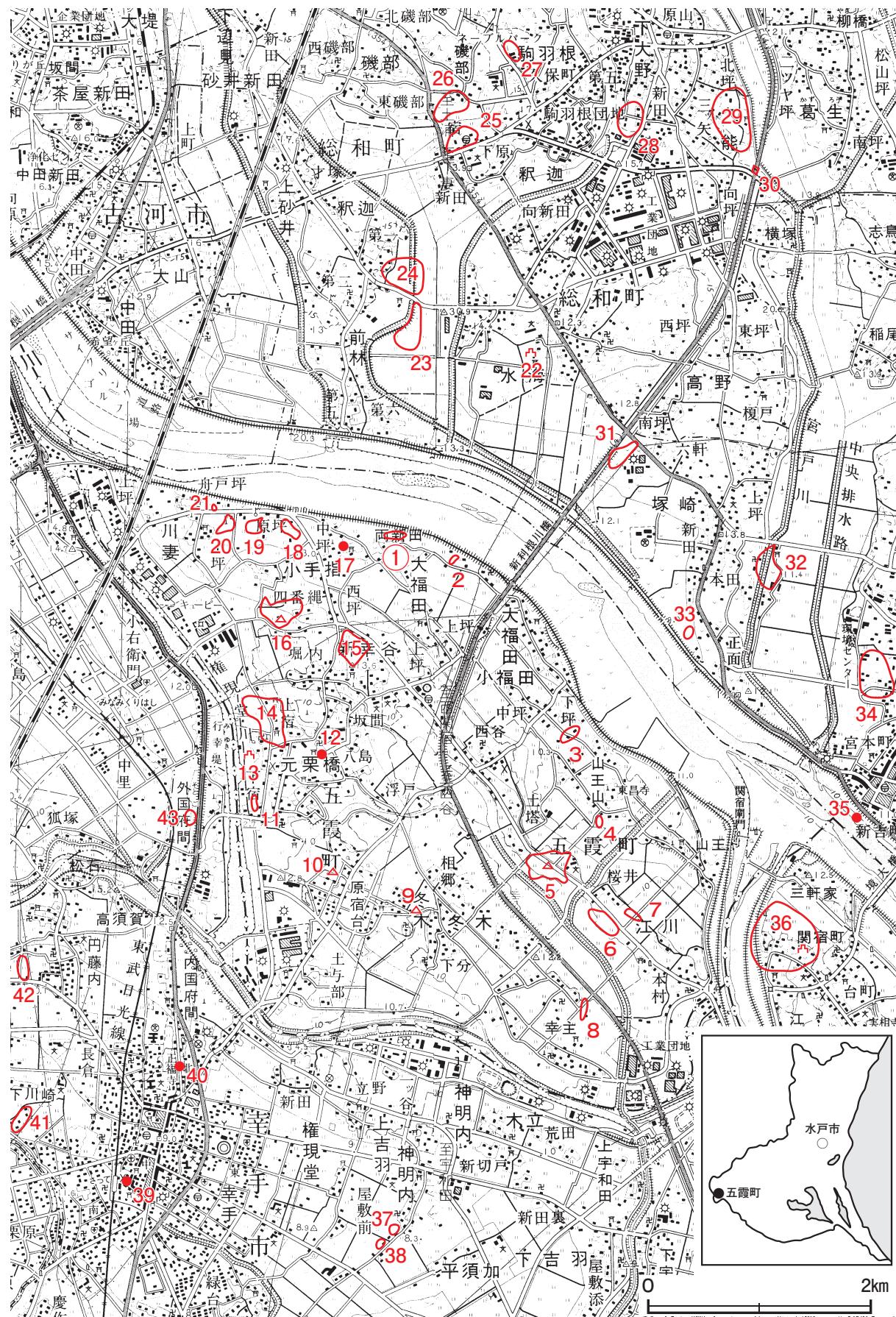
※文中の（ ）内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は、財団報告第312集を基にし、若干加筆したものである。

註

- 1) 高村勇・根本康弘「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書 冬木A貝塚・冬木B貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告』IX 1981年3月
- 2) a 瓦吹堅『石畠遺跡』猿島郡五霞村教育委員会 1977年3月
b 成島一也「石畠遺跡 12県単道改第12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第192集 2002年3月
- 3) 須藤正美「土塔貝塚 瀬沼遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第289集 2008年3月
- 4) 江原美奈子 大関武「本田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第313集 2009年3月
- 5) 石川義信「羽黒遺跡2 一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第262集 2006年3月
- 6) 川津法伸「主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋B遺跡 釈迦才仏遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第131集 1998年3月
- 7) 桑村裕「清水遺跡 同所新田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第290集 2008年3月
- 8) 内山俊身「戦国期築田氏城下水海の歴史的位置－関東の二大河川流通路の結節点を考える－」『そうわの文化財』4号 総和町教育委員会 1995年
- 9) 郡山雅友ほか『茨城県総和町 都市計画道路東牛谷・釈迦線道路（町道9号線）改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 香取東遺跡 釈迦才仏遺跡』総和町教育委員会 2001年3月
- 10) 桑村裕「桜井前遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第288集 2008年3月
- 11) 本橋弘巳「同所新田遺跡2 瀬沼遺跡2 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第312集 2009年3月

参考文献

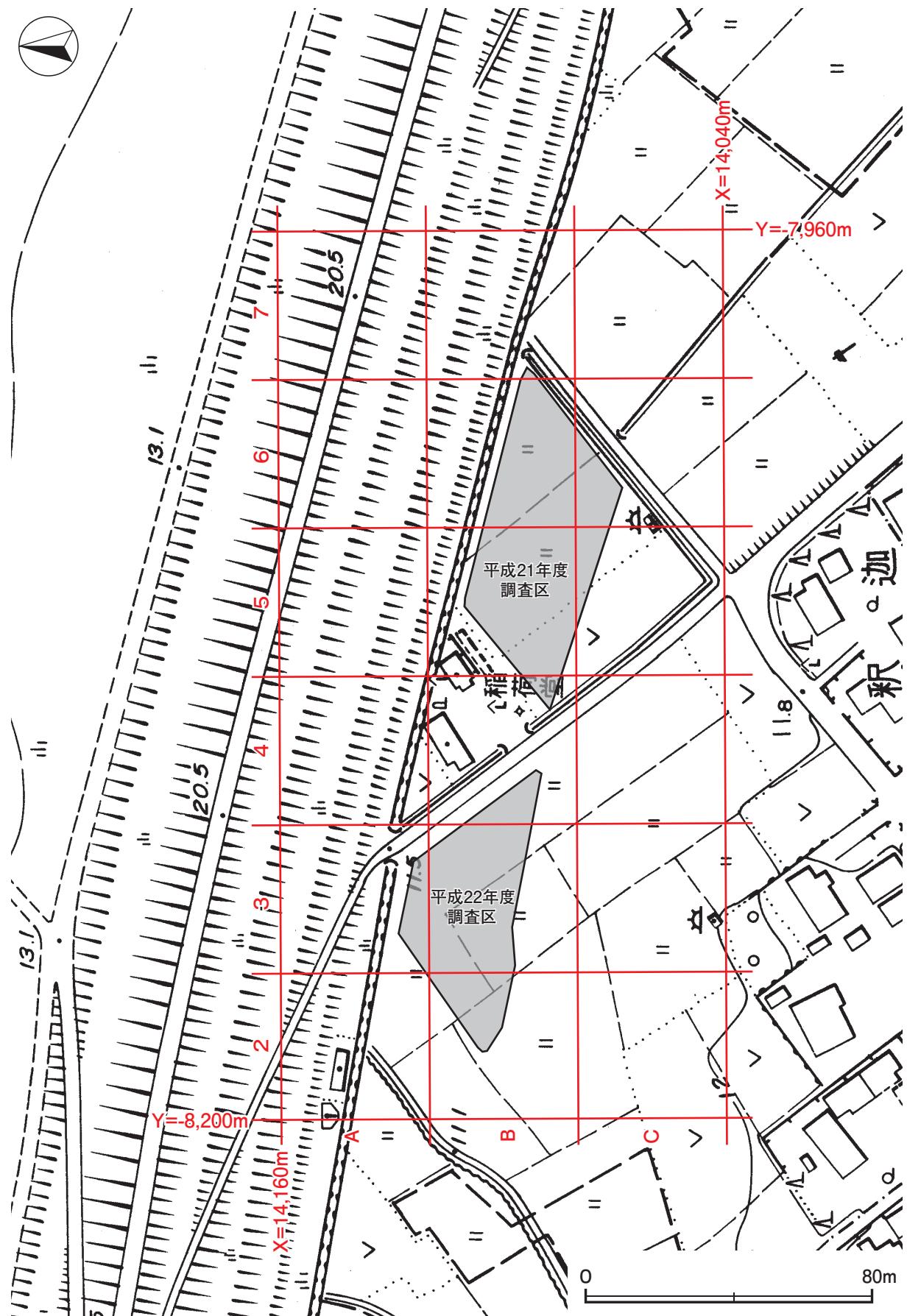
- ・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図（地名表編・地図編）』 2001年3月
- ・総和町史編さん委員会『総和町史 資料編 原始・古代・中世』総和町 2002年3月
- ・総和町史編さん委員会『総和町史 通史編 原始・古代・中世』総和町 2005年7月
- ・幸手市生涯学習課市史編さん室『幸手市史 考古資料編』幸手市教育委員会 2002年3月
- ・幸手市生涯学習課市史編さん室『幸手市史 通史編I 自然 原始・古代・中世・近世』幸手市教育委員会 2002年6月
- ・野田市史編さん委員会『野田市史 資料編 考古』野田市 2005年3月
- ・五霞町史編さん委員会『町史 五霞の生活史 水と五霞』五霞町 2010年3月



第1図 積迦新田遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 50,000 分の 1 「水海道」「鴻巣」）

表1 釧迦新田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	釧迦新田遺跡		○				○	○	23	羽黒遺跡	○	○	○	○	○	○	○
2	殿山遺跡		○		○			○	24	日下部遺跡	○	○	○	○	○	○	○
3	同所新田遺跡				○	○	○	○	25	釧迦才仏遺跡	○	○		○			○
4	西新畠遺跡	○	○					○	26	香取東遺跡	○	○		○		○	○
5	土塔貝塚	○	○		○				27	駒羽根遺跡		○		○		○	○
6	桜井前遺跡		○		○	○	○	○	28	久能西原遺跡		○	○	○			
7	桜井浦遺跡		○					○	29	香取西遺跡	○	○	○	○	○		
8	瀬沼遺跡		○		○		○	○	30	向坪B遺跡			○		○	○	○
9	冬木B貝塚		○		○	○			31	南坪遺跡		○		○	○		
10	冬木A貝塚		○						32	本田遺跡	○	○		○		○	○
11	元栗橋下宿遺跡		○		○	○		○	33	清水遺跡	○	○	○	○			
12	三島神社古墳		○		○		○		34	かわい山遺跡		○		○	○		
13	城山城跡						○	○	35	境河岸							○
14	上舟戸遺跡	○	○		○	○	○		36	関宿城跡							○
15	石畠遺跡		○		○	○	○	○	37	幸手市No.19遺跡							○
16	小手指貝塚		○			○	○		38	幸手市No.20遺跡				○		○	
17	伊勢塚古墳				○				39	陣屋						○	
18	寺山遺跡		○					○	40	幸手義賑窮餓之碑							○
19	大崎遺跡		○					○	41	幸手市No.10遺跡						○	○
20	大崎穴薬師遺跡		○					○	42	千塚柴原遺跡					○		○
21	宿北遺跡		○					○	43	幸手市No.8遺跡				○			○
22	水海城跡					○	○										



第2図 釧迦新田遺跡調査区設定図（五霞町都市計画図 2,500 分の 1）

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

釧路新田遺跡は、五霞町北部を東流する利根川右岸の標高10～11mの台地上に立地している。調査面積は4,397m²で、調査前の現況は水田及び陸田である。

調査の結果、竪穴住居跡2軒（縄文時代）、井戸跡21基（中世12・不明9）、火葬土坑4基（中世）、方形竪穴構造8基（中世）、土坑224基（縄文時代2・中世47・近世55・不明120）、堀跡1条（近世）、溝跡20条（不明）、ピット群5か所（不明）を検出した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に23箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢）、土師質土器（小皿）、瓦質土器（焙烙・火鉢）、陶器（皿・鉢・擂鉢・片口鉢・甕）、磁器（碗・皿）、石器（石錐・石鎌・打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石・砥石）、鉄製品（鎌）、銅製品（錢貨・笄）などである。

第2節 基本層序

調査区東端のB6h0区北壁にテストピットを設定し、深さ22mまで掘り下げて基本土層の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

第1層は、現在の耕作土で水田の床土である。層厚は60～76cmである。

第2層は、黒褐色を呈する旧表土である。ローム粒子と炭化粒子をわずかに含み、粘性・締まりともに強く、層厚は5～13cmである。

第3層は、暗褐色を呈するロームへの漸移層である。ローム粒子を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は10～26cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。

粘性・締まりともに極めて強く、層厚は8～33cmである。

第5層は、暗褐色を呈するハードローム層である。

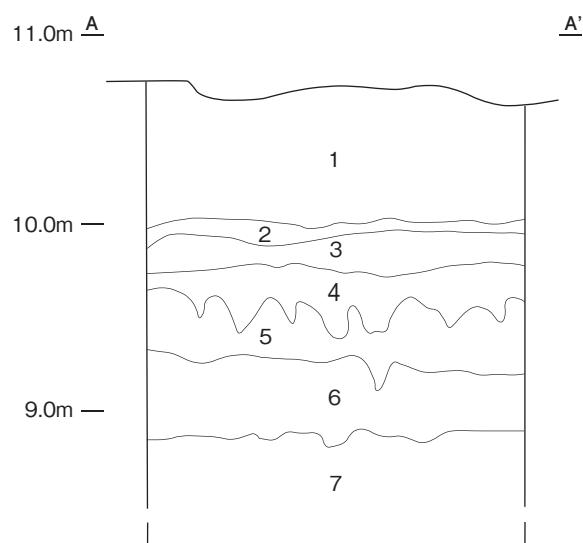
粘性・締まりともに極めて強く、層厚は11～40cmである。第Ⅱ黑色帯と考えられる。

第6層は、極暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は23～47cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。

粘性・締まりともに極めて強い。層厚は39cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

なお、住居跡などの遺構は、第3層上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

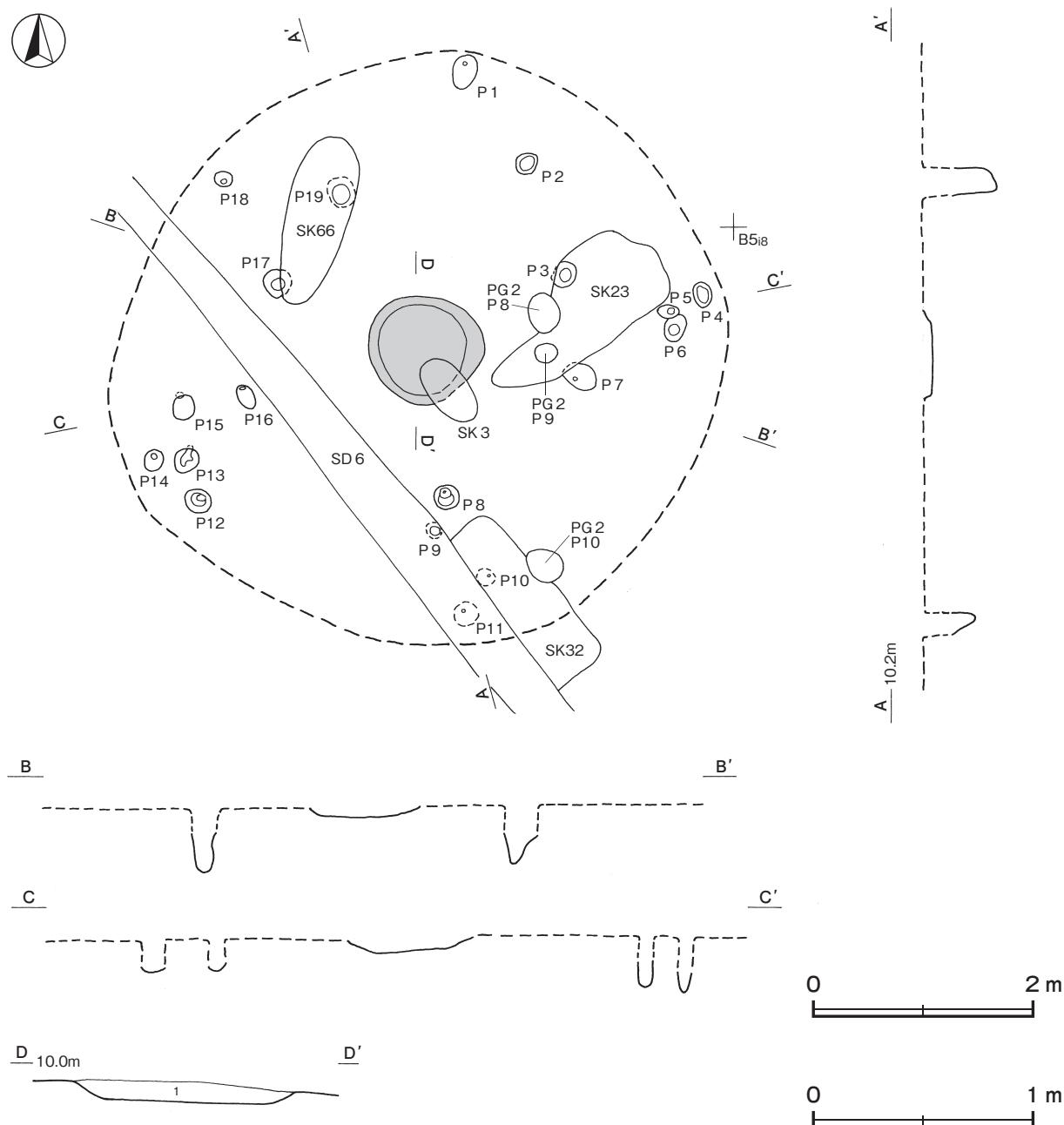
当時代の遺構は、竪穴住居跡2軒、土坑2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第4・5図）

位置 調査区東部のB 5 i7 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作地として利用されていたことから床面まで削平されており、炉床が露出した状態で確認された。



第4図 第1号住居跡実測図

重複関係 第3・23・32・66号土坑、第6号溝、第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 炉と柱穴の配置から長径5.70m、短径5.30mの円形と推定される。

炉 中央部に付設された地床炉である。炉床部の大半が削平されており、掘方への埋土のみが確認された。規模は、上部が削平されており、確認面での掘方の範囲は長径107cm、短径99cmの楕円形である。深さは17cmで、壁は緩やかに傾斜している。底面はほぼ平坦で、確認面の赤変硬化は弱い。

炉土層解説

1 暗褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

ピット 19か所。P1～P6は深さ28～38cmで、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P7～P11は深さ18～22cmで、壁柱穴と考えられる。P12～P19は深さ3～14cmで、性格不明である。

遺物出土状況 繩文土器片23点(深鉢)が出土している。TP1～TP3はいずれも確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から中期後葉と考えられる。



第5図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表(第5図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	斜位方向の単節縄文RLを施文	確認面	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	単節縄文RLを施文	確認面	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	浅黄橙	斜位方向の無節縄文Lを施文	確認面	

第2号住居跡(第6～8図)

位置 調査区東部のB5i8区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作地として利用されていたことから床面まで削平されており、炉に使用されている土器が露出した状態で確認された。

規模と形状 炉と柱穴の配置から長径5.02m、短径4.40mの楕円形と推定される。長径方向はN-62°-Eである。

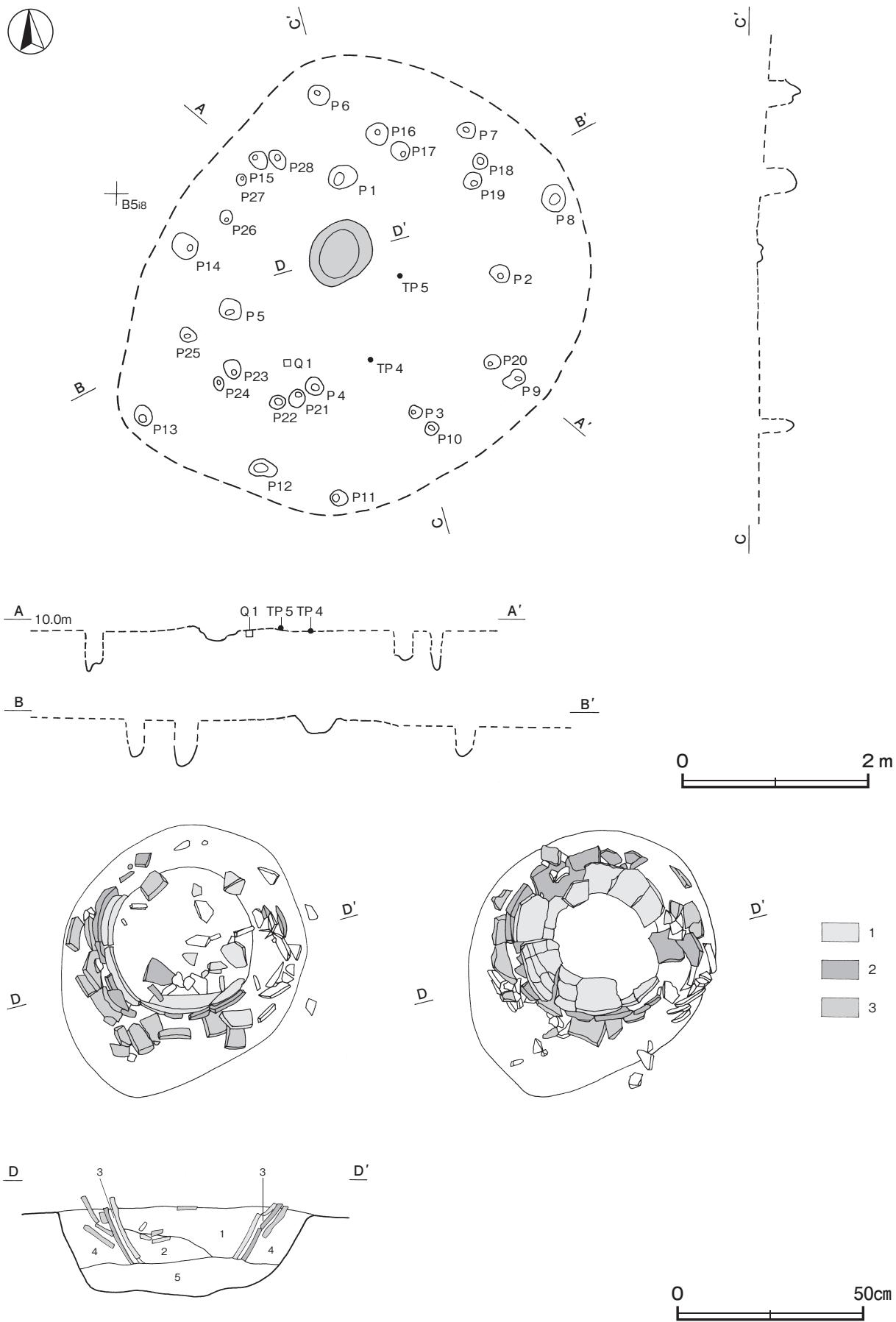
炉 中央部に付設された土器埋設炉である。炉は深鉢を三重に埋設しており、内側と中側の土器は、隣接する土器片とそれぞれ接合関係にある。外側の土器片は、破片同士が隣接せずやや離れた位置で確認されているが、そのほとんどが一個体として接合できた破片である。内側の土器片には火を受けた痕跡が確認できている。

上部が削平されており、確認面での掘方の範囲は長径76cm、短径62cmの楕円形である。深さは44cmで、壁は緩やかに傾斜している。底面はやや起伏があり、確認面の赤変硬化は弱い。

炉土層解説

1 暗褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量

4 暗褐 色 ロームブロック少量
5 暗褐 色 ローム粒子少量

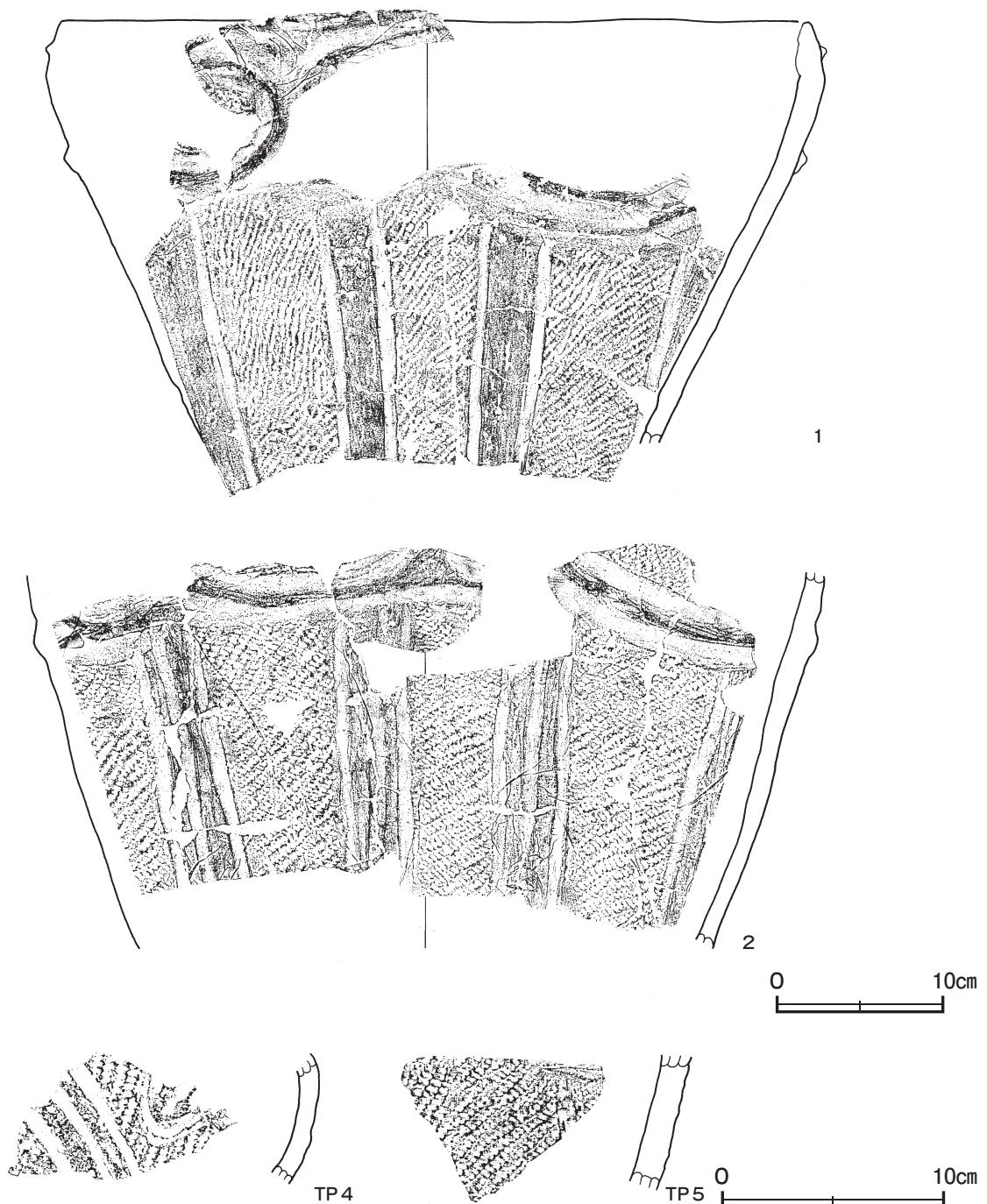


第6図 第2号住居跡・出土遺物実測図

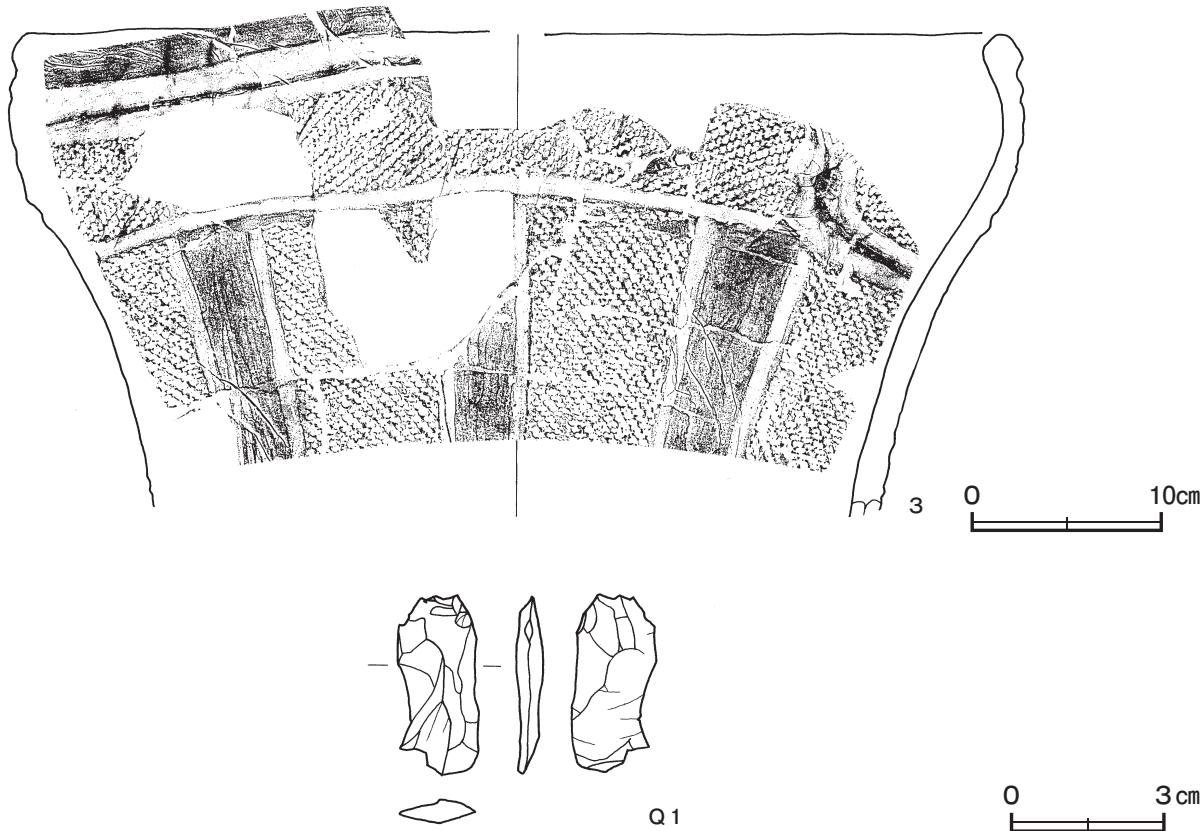
ピット 28か所。P 1～P 5は深さ40～49cmで、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P 6～P 15は深さ44～48cmで、壁柱穴と考えられる。P 16～P 28は深さ3～21cmで、性格不明である。

遺物出土状況 繩文土器片273点（深鉢）、剥片1点（頁岩）が炉の周囲を中心に出土している。TP 4・TP 5・Q 1は確認面からそれぞれ出土している。1～3は土器埋設炉を構成している繩文土器である。1は主に炉の掘方部の中心から出土した37点の破片が接合したものであり、最も内側の土器である。2は炉の掘方部を中心から出土した50点の破片が接合したものであり、中側の土器である。3は炉の掘方部を中心から出土した31点の破片が接合したものであり、外側の土器である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第7図 第2号住居跡出土遺物実測図（1）



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図（2）

第2号住居跡出土遺物観察表（第7・8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	-	(25.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文RLを地文に、口縁部に隆帯による楕円形区画文を施文 沈線間磨消	炉掘方部	30% PL9
2	縄文土器	深鉢	-	(22.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文RLを地文に、口縁部に隆帯による楕円形区画文を施文 沈線間磨消	炉掘方部	30% PL9
3	縄文土器	深鉢	[51.1]	(25.5)	-	長石・石英	橙	普通	複節縄文LRLを地文に、口縁部に隆帯による区画文を施文 沈線間磨消	炉掘方部	30% PL9

番号	種別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	単節縄文RLを地文に、3条の平行沈線と曲沈線	確認面	
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	単節縄文RLを地文に、1条の沈線	確認面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	剥片	3.5	1.6	0.5	2.4	頁岩	縦長剥片 打面は单剥離面	確認面	

表2 縄文時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	主な出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉	貯藏穴				
1	B5i7	[円形]	-	[5.70] × [5.30]	-	-	-	6	-	13	1	-	-	縄文土器	中期後葉	本跡→SK3・23・32・66, SD6, PG2
2	B5i8	[楕円形]	N - 62° - E	[5.02] × [4.40]	-	-	-	5	-	23	1	-	-	縄文土器	中期後葉	

(2) 土坑

第39号土坑（第9図）

位置 調査区東部のB 5 d7 区, 標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため, 東西径 4.14 m, 南北径 0.90 m しか確認できなかった。平面形は円形または梢円形になると推測できる。深さは 80cm で, 壁は緩やかに傾斜している。底面は凹凸がある。

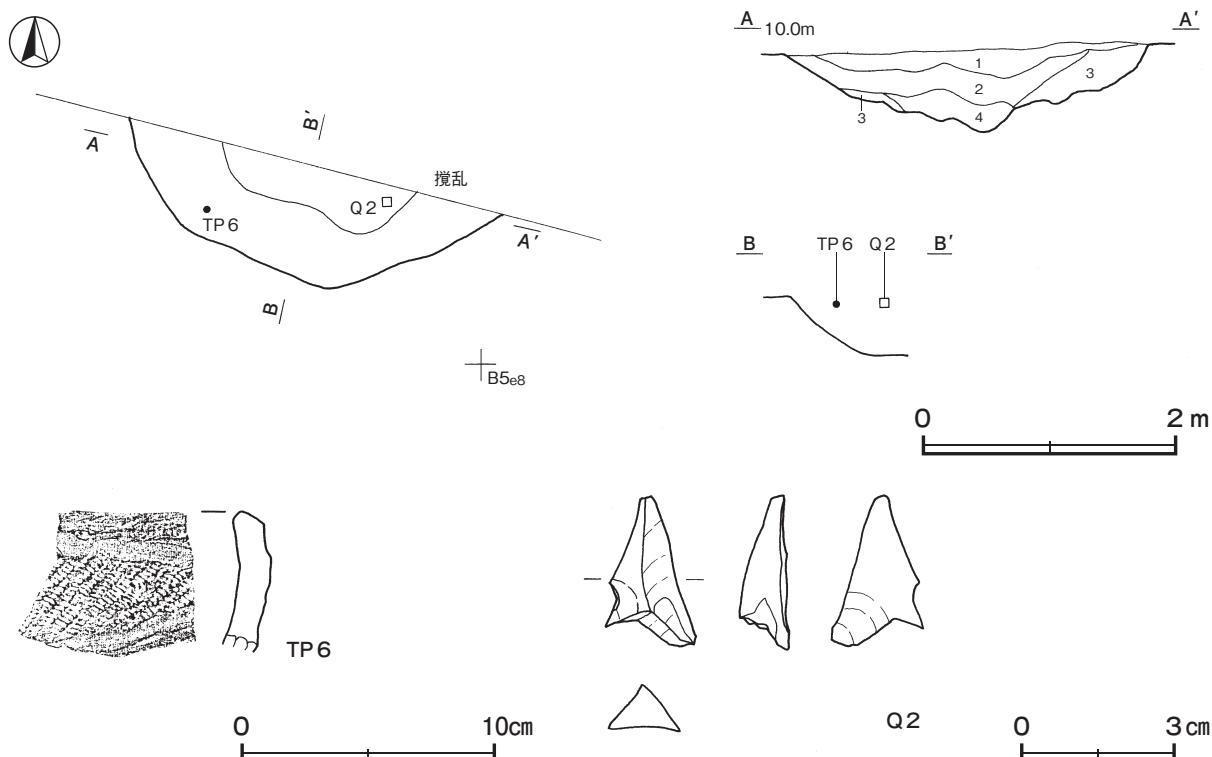
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	3 暗褐 色 ロームブロック少量
2 黒褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 42 点（深鉢）, 剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。TP 6 は西部, Q 2 は東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第9図 第39号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	0段多条のLR縄文を地文に隆帯で口縁部に梢円形区画文施文	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴
Q 2	剥片	3.1	1.8	1.0	2.2	瑪瑙	縦長剥片 打面は単剥離面
							覆土上層 PL13

第64号土坑（第10図）

位置 調査区東部のB5j7区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.94m、短径0.77mの楕円形で、長径方向はN-46°-Eである。深さは32cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

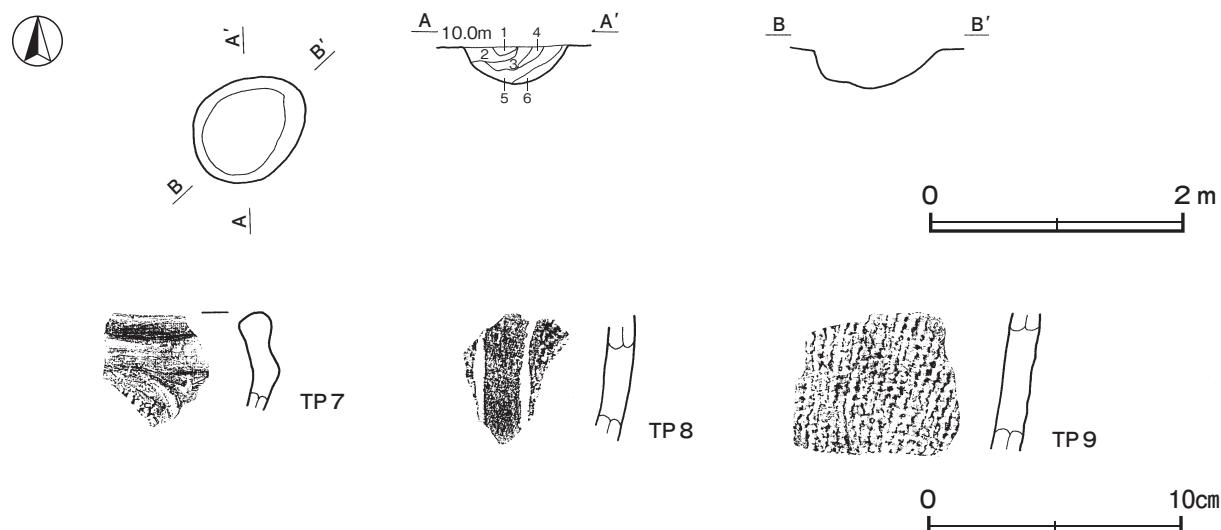
覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗 褐 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 繩文土器片19点（深鉢）が出土している。TP7・TP8・TP9はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第10図 第64号土坑・出土遺物実測図

第64号土坑出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	単節縄文R Lを地文に隆帯による区画文を施文	覆土中	
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	単節縄文R Lを地文に沈線間磨消	覆土中	
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	無節縄文Rを施文	覆土中	

表3 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
39	B5d7	-	[円形・楕円形]	(4.14) × (0.90)	80	人為	凹凸	緩斜	縄文土器	
64	B5j7	N-46°-E	楕円形	0.94 × 0.77	32	人為	皿状	外傾	縄文土器	

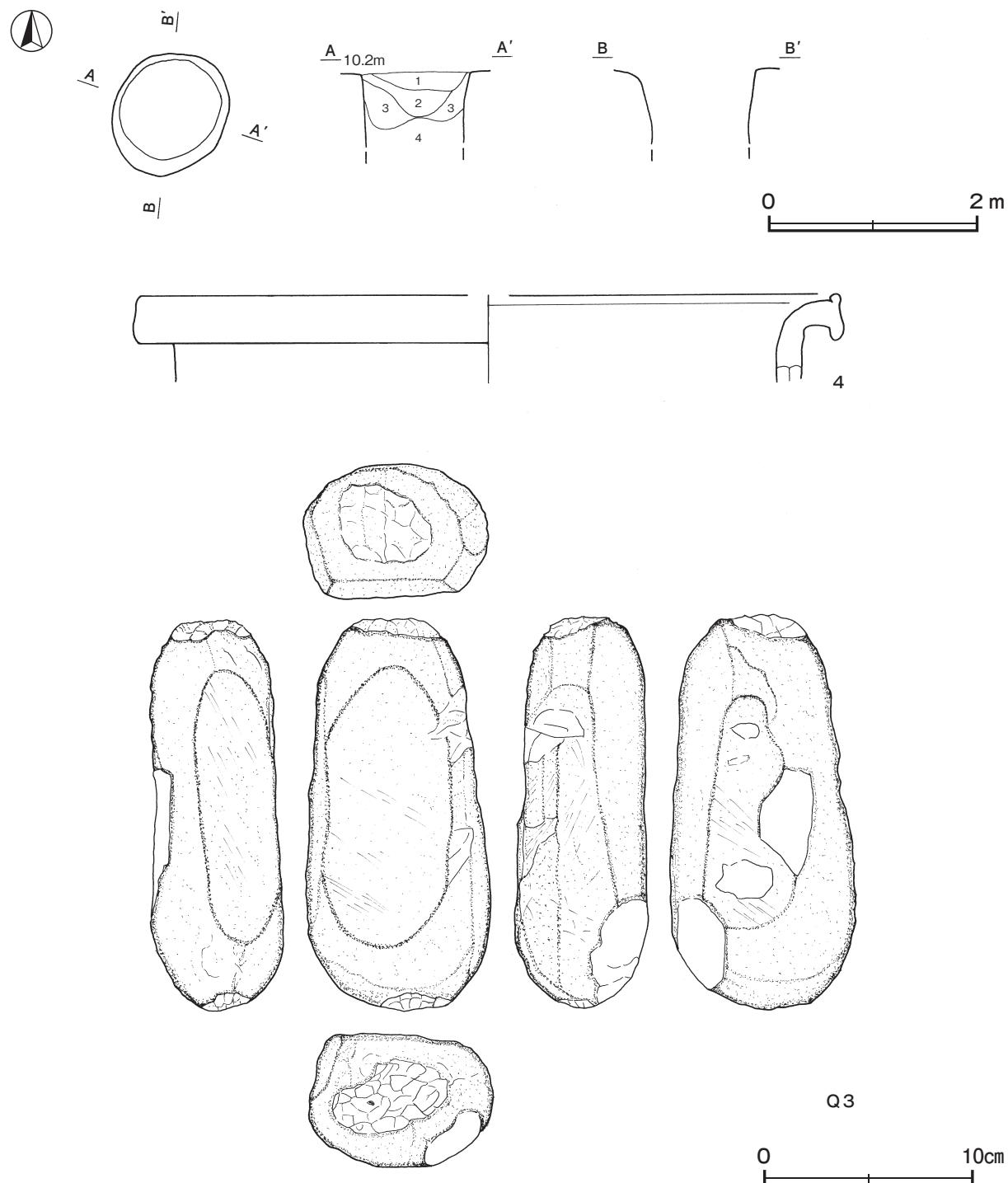
2 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、井戸跡 12 基、火葬土坑 4 基、方形堅穴遺構 8 基、土坑 47 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第4号井戸跡（第11図）

位置 調査区東部の B 4 f1 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。



第11図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 確認面は径 1.18 m の円形で、円筒状に掘り下げている。深さ 0.66 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 黒 褐 色 ローム粒子少量 | 3 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 ロームブロック少量 | 4 極 暗 褐 色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 陶器片 3 点(甕), 石器 1 点(磨石), 磁器 4 点が出土している。4・Q 3 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。

第 4 号井戸跡出土遺物観察表（第 11 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
4	陶器	甕	[33.4]	(4.3)	-	長石・石英	褐	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	常滑系 5 %

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 3	磨石	18.8	9.0	6.4	1150	凝灰岩	擦り面あり 上下に敲打痕	覆土中	PL13

第 6 号井戸跡（第 12・13 図）

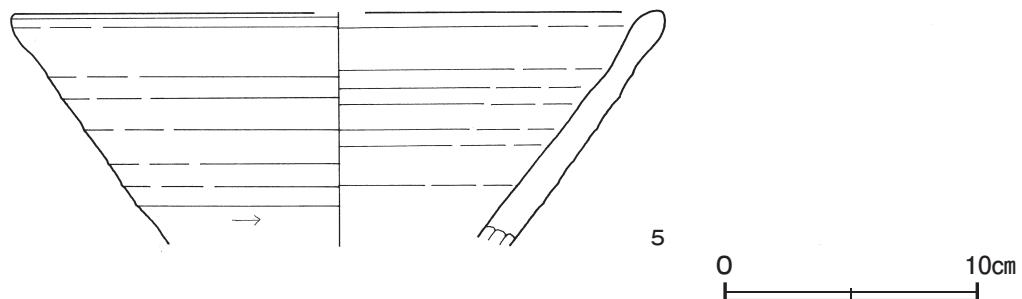
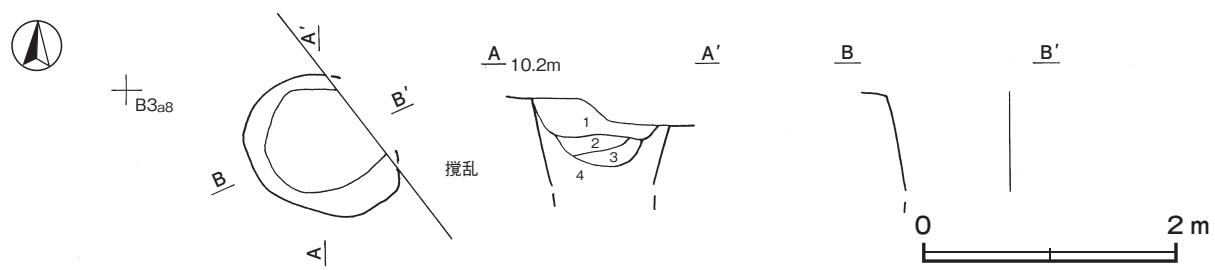
位置 調査区西部の B 3 a8 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 削平されているため確認面の長径は 1.20 m で、短径は 0.94 m までしか確認できなかったが、円形になると推定される。確認面から円筒状に掘り下げている。深さ 0.68 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

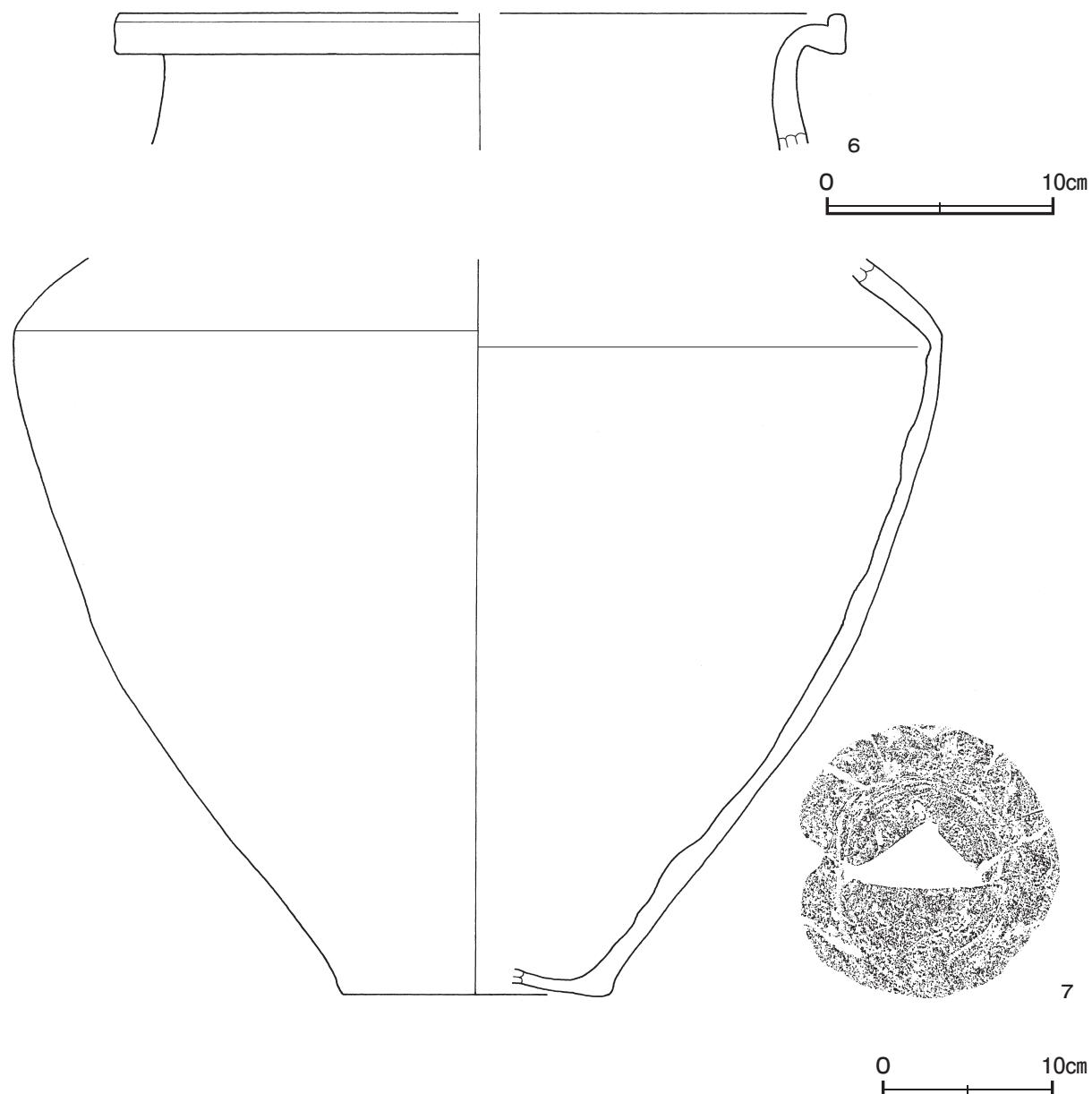
- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量 | 3 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 2 極 暗 褐 色 ロームブロック少量 | 4 黒 褐 色 ロームブロック少量 |



第 12 図 第 6 号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 陶器片 33 点（片口鉢 3, 壺 30), 磁 3 点が出土している。5~7 は、いずれも覆土中から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第 13 図 第 6 号井戸跡出土遺物実測図

第 6 号井戸跡出土遺物観察表（第 12・13 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	陶器	片口鉢	[26.0]	(9.3)	-	長石・石英・細礫	灰オリーブ	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	覆土中	常滑系 30% PL10
6	陶器	壺	[32.0]	(6.1)	-	長石・石英	灰褐	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	常滑系 5% PL10
7	陶器	壺	-	(43.5)	15.6	長石・石英	にぶい褐	良好	体部外・内面ナデ	覆土中	常滑系 30% PL9

第7号井戸跡（第14図）

位置 調査区西部のB 3 b4 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径 1.70 m の円形である。南東部は、確認面から深さ 0.57 m にテラス状の平坦面を有している。それより下部は径 1.10 m の円筒状に掘り下げている。深さ 0.70 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

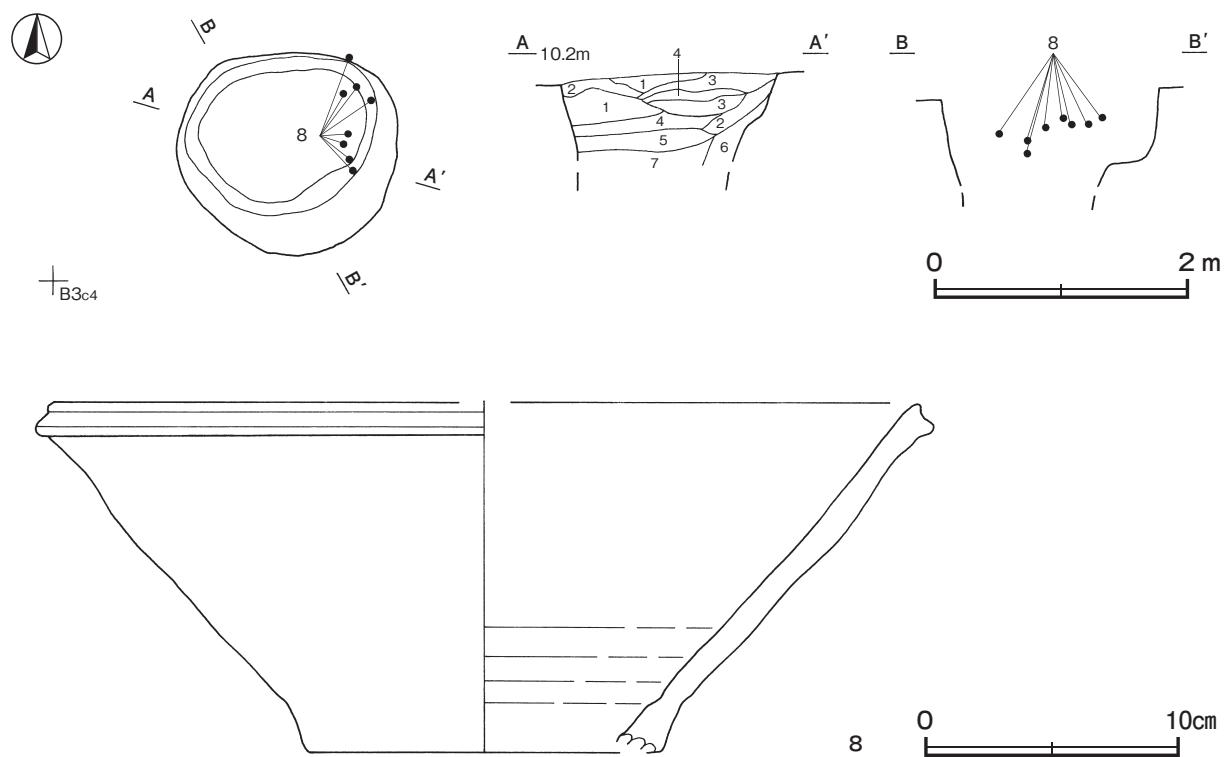
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 橙 色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量	5 褐 色 ロームブロック中量
2 にぶい褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量	6 極暗褐色 ロームブロック微量
3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	7 黒 色 ロームブロック微量
4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況 陶器片 14 点（片口鉢）、鉄滓 1 点（31.0 g）、石製品 1 点（板碑片カ）、礫 11 点のほか、縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。8 は北東部から東部の覆土上層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第14図 第7号井戸跡・出土遺物実測図

第7号井戸跡出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	陶器	片口鉢	[34.4]	14.0	[14.0]	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面クロナデ 体部外面摩滅 内面横ナデ	覆土上層 ～中層	常滑系 30% PL10

第11号井戸跡（第15図）

位置 調査区西部のB 3 d5 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第146号土坑に掘り込まれている。

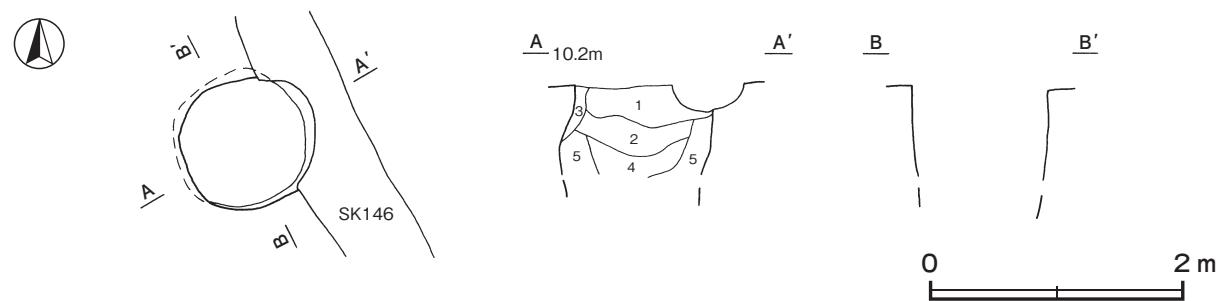
規模と形状 確認面は径1.14mの円形で、円筒状に掘り下げている。深さ0.73mまで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 黑 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量	4 黒 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量	5 暗 褐 色 ロームブロック微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量	

所見 素掘りの構造である。時期は、遺構の形状や重複関係から中世と考えられる。



第15図 第11号井戸跡実測図

第12号井戸跡（第16図）

位置 調査区西部のB3e2区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第73・152号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は径1.40mの円形である。確認面から深さ0.66m、径1.03mまで窄まり、その時点で湧水が確認されたため、下部の調査を断念した。

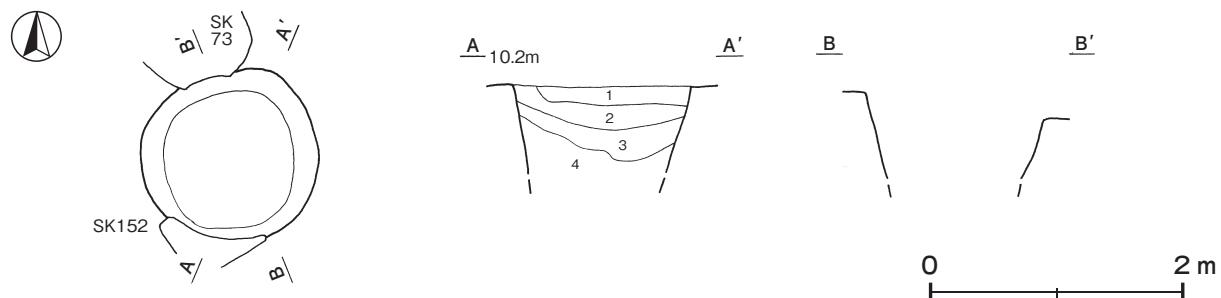
覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 極暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	3 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 黒 色 ロームブロック微量	4 黒 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片3点（小皿）、陶器片2点（甕）、礫121点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や重複関係から中世と考えられる。



第16図 第12号井戸跡実測図

第13号井戸跡（第17図）

位置 調査区西部のB3d2区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第148・149・201号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた規模は径1.26mの不整橿円形である。上部は削平のため不明で、深さ0.32mから下部は径1.03mの円筒状に掘り下げている。深さ0.60mまで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

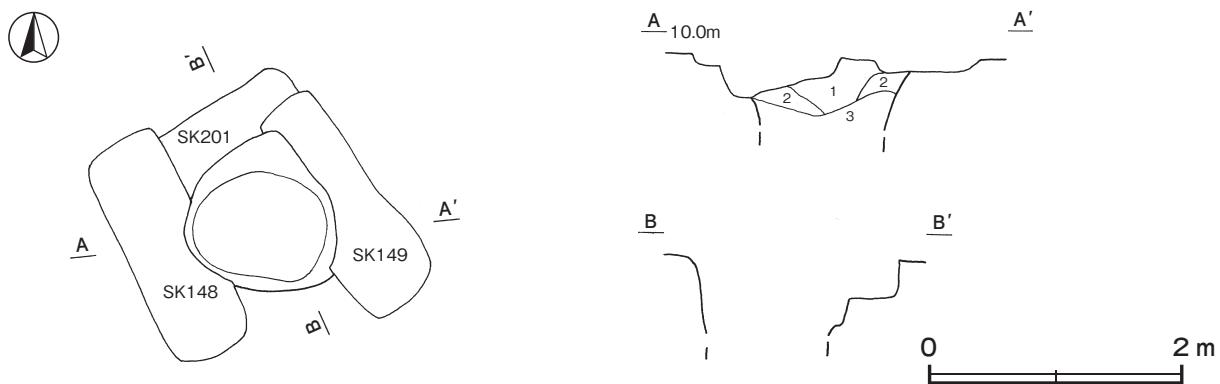
土層解説

1 黑褐色 ローム粒子少量	3 黒色 ローム粒子微量
2 極暗褐色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 陶器片1点（甕）、石器1点（磨石）、礫4点のほか、縄文土器片3点（深鉢）が出土している。

いずれも細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や重複関係から中世と考えられる。



第17図 第13号井戸跡実測図

第15号井戸跡（第18図）

位置 調査区西部のB3b3区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径0.94mの円形で、円筒状に掘り下げている。深さ0.68mまで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

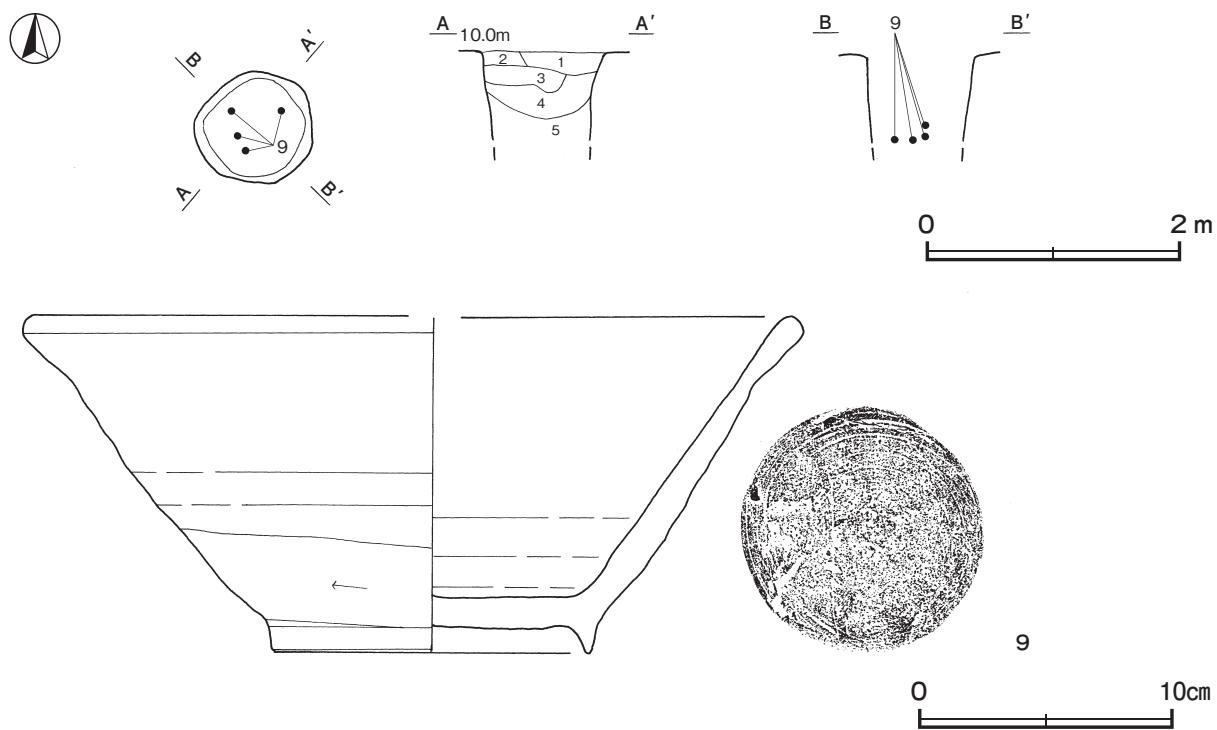
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量	4 極暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量	5 黒褐色 ロームブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量	

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）、陶器片11点（片口鉢4、甕7）、礫3点のほか、縄文土器片2点（深鉢）が出土している。9は覆土下層から出土した破片と、第17号井戸跡の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第18図 第15号井戸跡・出土遺物実測図

第15号井戸跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	陶器	片口鉢 [30.8]	13.3	12.6	長石・石英・細礫	灰	良好	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	常滑系 60% PL10	

第17号井戸跡（第19図）

位置 調査区西部のB3b4区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径1.22mの円形で、円筒状に掘り下げている。深さ0.60mまで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

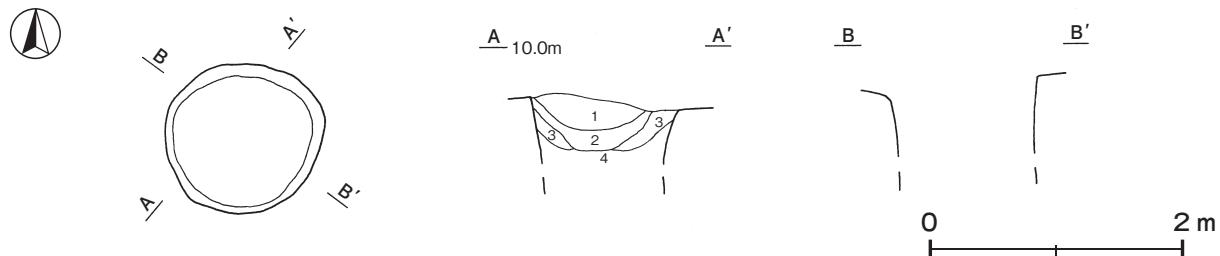
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 繩文土器片1点（深鉢）が出土している。陶器片1点（片口鉢）は中央部の覆土中から出土し、第15号井戸跡から出土した9と接合している。



第19図 第17号井戸跡実測図

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。

第 18 号井戸跡（第 20 図）

位置 調査区西部の B 3 d2 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第 169・170 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は長径 2.00 m、短径 1.66 m の橈円形で、長径方向は N - 68° - E である。確認面から深さ 0.66 m で径 1.05 m まで窄まり、その時点で湧水が確認されたため、下部の調査を断念した。

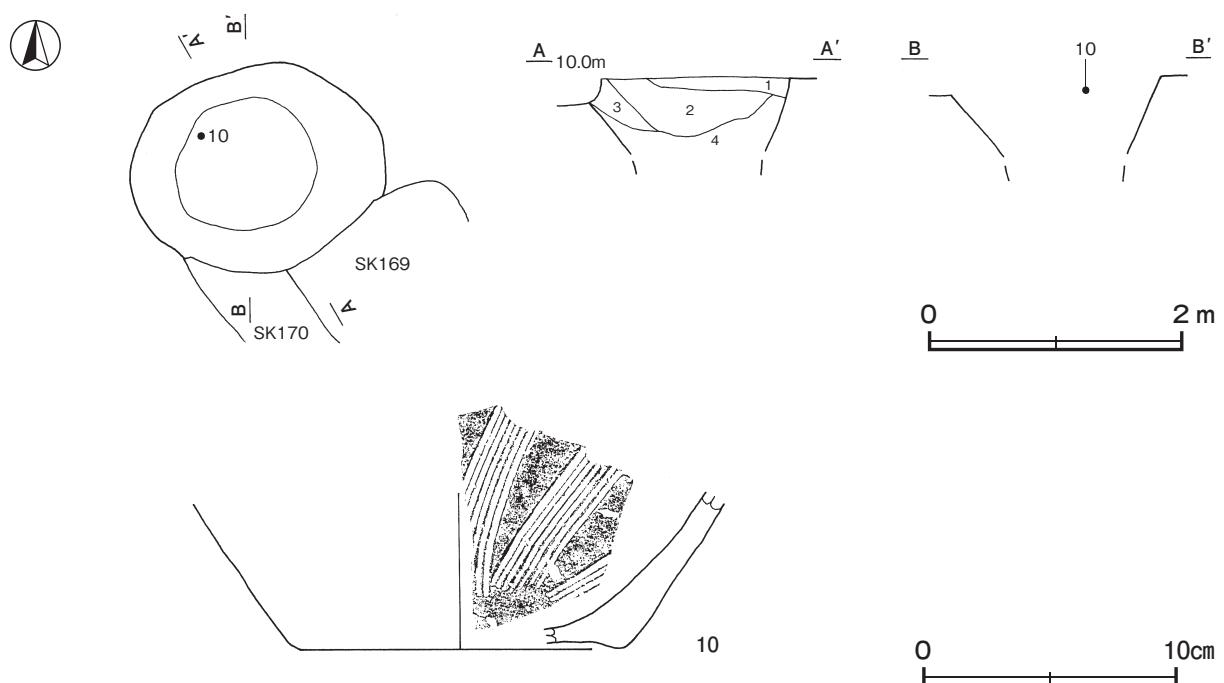
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	3 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	4 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片 1 点（擂鉢）、礫 3 点が出土している。10 は北西部の覆土上層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



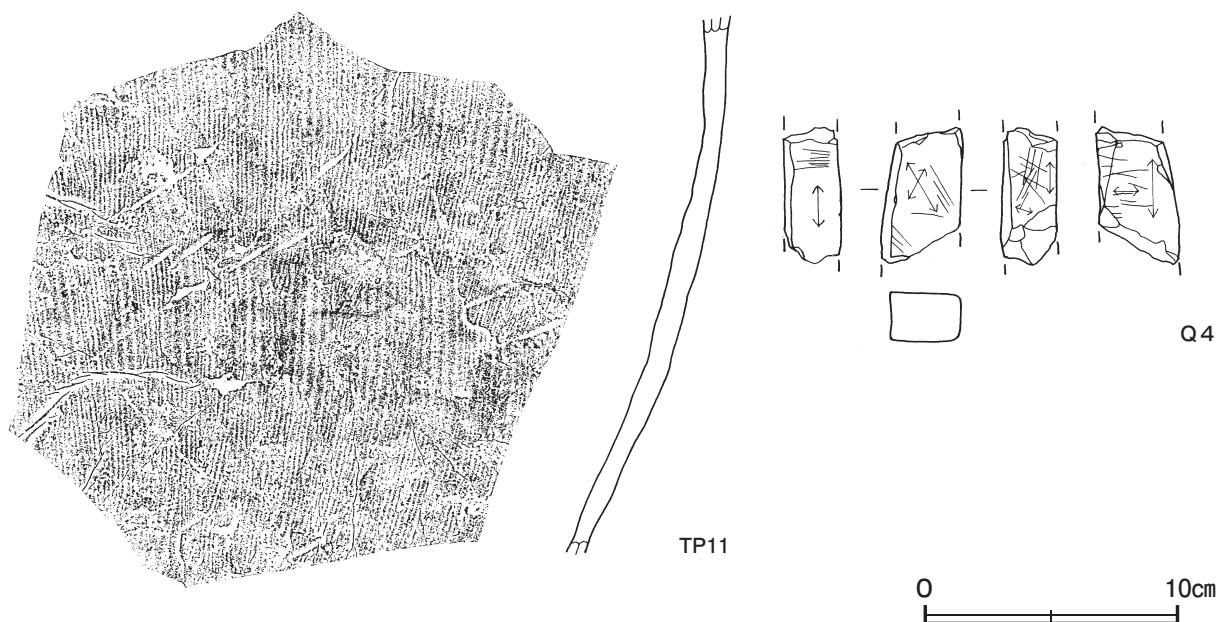
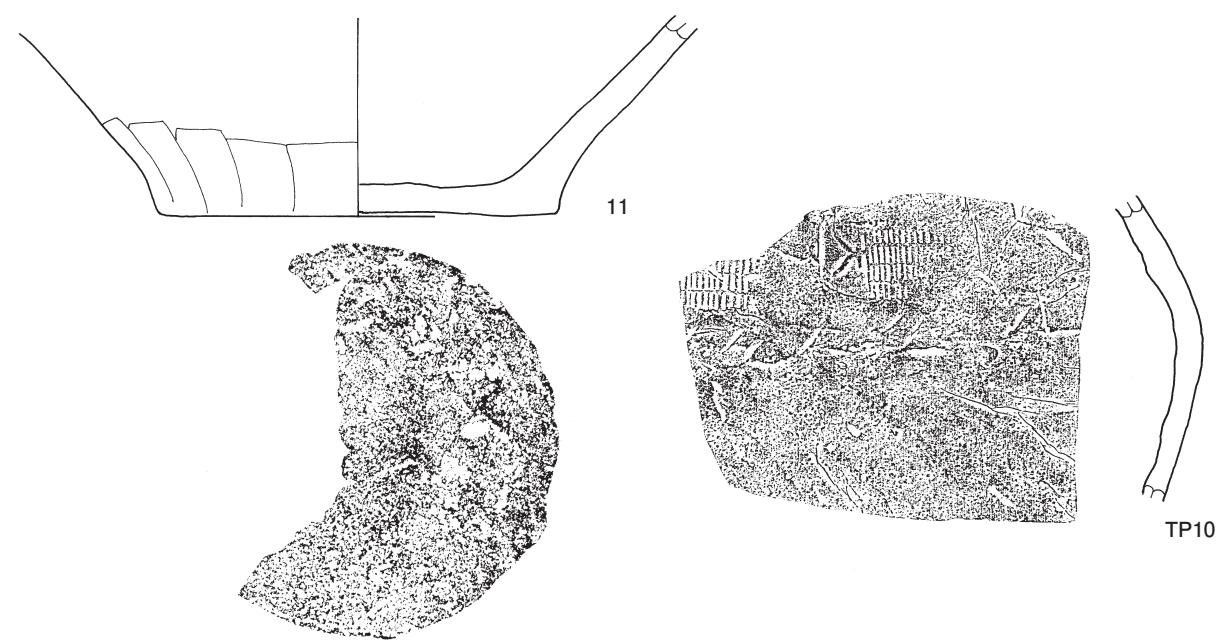
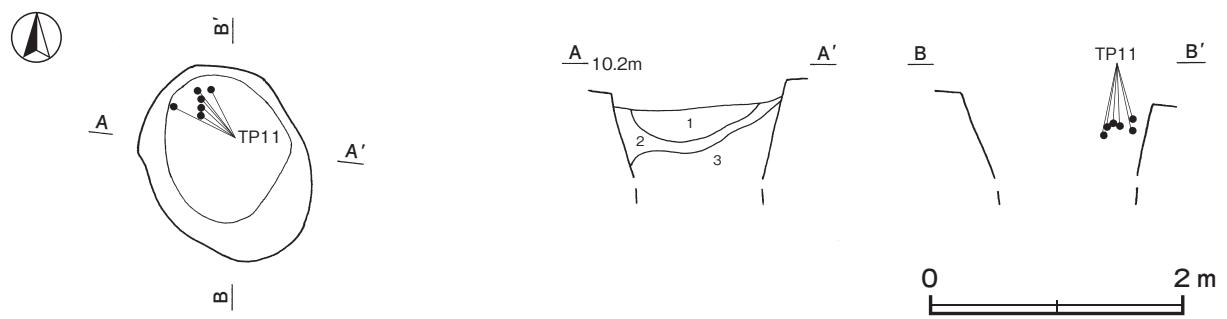
第 20 図 第 18 号井戸跡・出土遺物実測図

第 18 号井戸跡出土遺物観察表（第 20 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	陶器	擂鉢	-	(6.2)	[12.6]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面クロナナフ 内面7条1単位の擂目	覆土上層	瀬戸・美濃系 5% PL10

第 19 号井戸跡（第 21 図）

位置 調査区西部の B 3 f1 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。



第21図 第19号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 確認面は長径 1.60 m, 短径 1.23 m の楕円形で、長径方向は N - 25° - W である。確認面から深さ 0.60 m で径 1.00 m まで窄まり、その時点で湧水が確認されたため、下部の調査を断念した。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量	3 極 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 陶器片 16 点（片口鉢 3, 壺 13）、磁器片 1 点（碗）、石器 1 点（砥石）、礫 13 点のほか、縄文土器片 6 点（深鉢）が出土している。TP11 は北部の覆土上層から出土している。11 は覆土中から出土した破片が接合したものである。TP10・Q 4 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。

第 19 号井戸跡出土遺物観察表（第 21 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
11	陶器	片口鉢	-	(7.9)	15.7	長石・石英・細砂	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ 下端ヘラ削り	覆土中	常滑系 20% PL10

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP10	陶器	壺	長石・石英・細礫	灰黄	体部外面上位叩き痕を残すナデ 下位ヘラ削り後ナデ 内面輪積痕を残すナデ	覆土中	常滑系 PL12
TP11	陶器	壺	長石・細礫	黄褐	体部外へラナデ 内面輪積痕を残すナデ	覆土上層	常滑系

番号	器 種	長 さ	幅	厚 さ	重 量	材 質	特 徴	出 土 位 置	備 考
Q 4	砥石	(5.5)	3.3	2.3	(50)	凝灰岩	砥面 4 面 他は破断面	覆土中	PL14

第 20 号井戸跡（第 22・23 図）

位置 調査区西部の B 3 d1 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

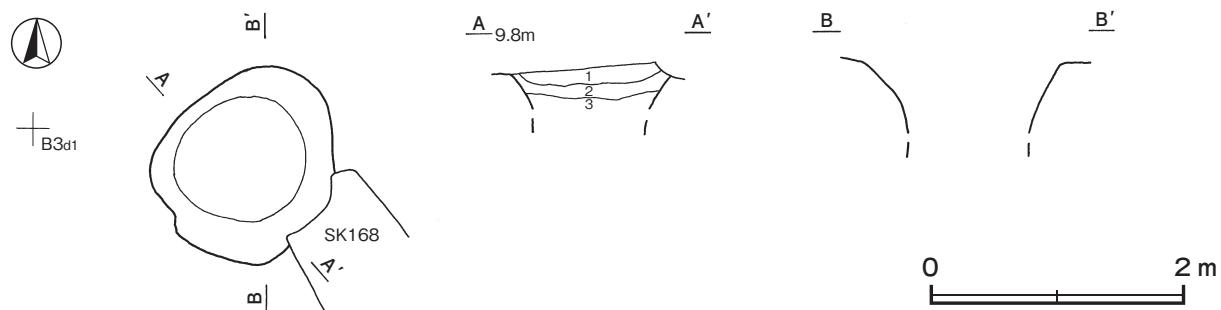
重複関係 第 168 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は長径 1.58 m, 短径 1.38 m の楕円形で、長径方向は N - 20° - E である。確認面から深さ 0.50 m で径 0.89 m まで窄まり、その時点で湧水が確認されたため、下部の調査を断念した。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

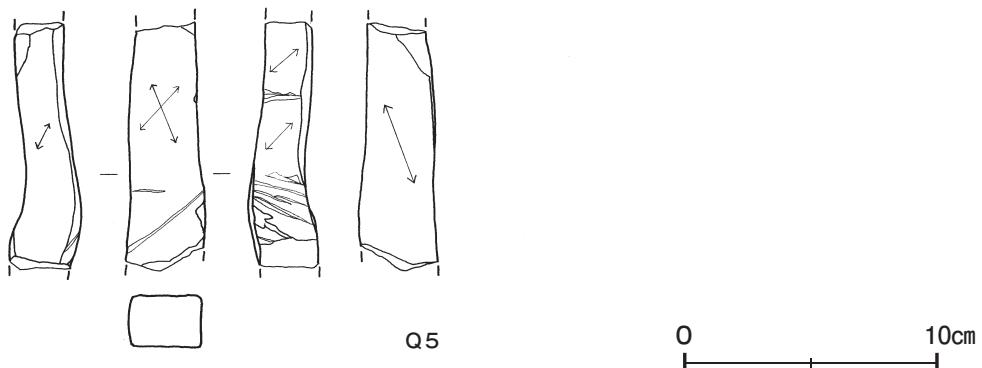
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量	3 極 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量	



第 22 図 第 20 号井戸跡実測図

遺物出土状況 石器 1 点（砥石）のほか、縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。Q 5 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、重複関係や遺構の形状から中世と考えられる。



第 23 図 第 20 号井戸跡出土遺物実測図

第 20 号井戸跡出土遺物観察表（第 23 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石	(9.9)	(3.0)	(2.6)	(115)	凝灰岩	砥面 4 面 他は破断面	覆土中	PL14

第 21 号井戸跡（第 24・25 図）

位置 調査区西部の B 2 f0 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 削平されているため確認面の長径は 1.02 m で、短径は 0.80 m までしか確認できなかったが、円形になると推定される。確認面から円筒状に掘り下げている。深さ 0.60 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

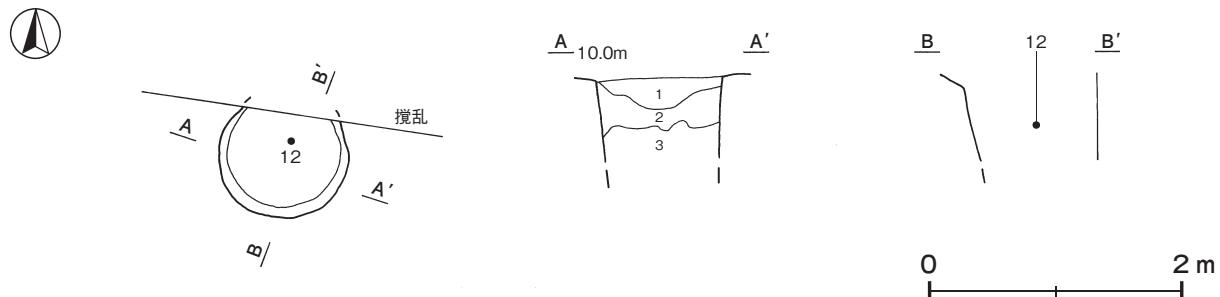
土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
2 にぶい褐色 ロームブロック少量

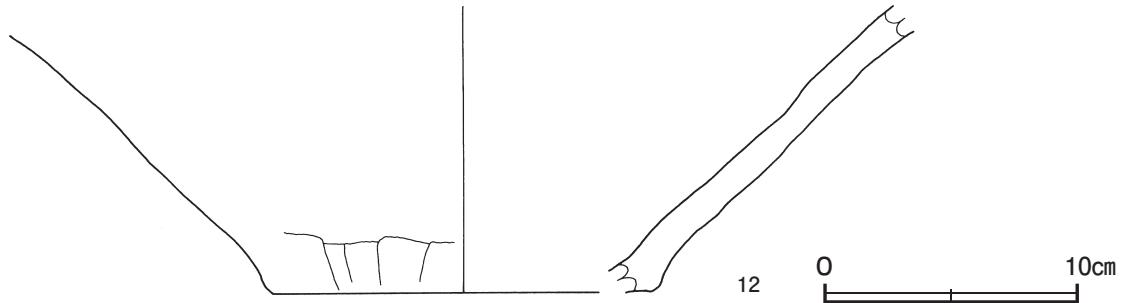
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片 4 点（片口鉢）、礫 5 点のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。12 は中央部の覆土中層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第 24 図 第 21 号井戸跡実測図



第25図 第21号井戸跡出土遺物実測図

第21号井戸跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	陶器	片口鉢	-	(11.3)	[15.0]	長石・石英・細砂	にぶい赤褐色	良好	体部下端ヘラ削り	覆土中層	常滑系 10%

表4 中世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		断面形	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
4	B4f1	-	円形	1.18 × 1.08	(66)	円筒状	-	人為	陶器, 石器	
6	B3a8	-	[円形]	1.20 × (0.94)	(68)	円筒状	-	人為	陶器	
7	B3b4	-	円形	1.70 × 1.63	(70)	段状	-	人為	陶器	
11	B3d5	-	円形	1.14 × 1.04	(73)	円筒状	-	人為		本跡→SK146
12	B3e2	-	円形	1.40 × 1.36	(66)	[漏斗状]	-	人為	陶器, 石器	本跡→SK73・152
13	B3d2	-	不整梢円形	(1.26) × (1.16)	(60)	[円筒状]	-	人為	陶器, 石器	本跡→SK148・149・201
15	B3b3	-	円形	0.94 × 0.88	(68)	円筒状	-	人為	土師質土器, 陶器	
17	B3b4	-	円形	1.22 × 1.18	(60)	円筒状	-	自然	陶器	
18	B3d2	N - 68° - E	梢円形	2.00 × 1.66	(66)	[漏斗状]	-	人為	陶器	本跡→SK169・170
19	B3f1	N - 25° - W	梢円形	1.60 × 1.23	(60)	[漏斗状]	-	人為	陶器, 石器	
20	B3d1	N - 20° - E	梢円形	1.58 × 1.38	(50)	[漏斗状]	-	人為	石器	本跡→SK168
21	B2f0	-	[円形]	1.02 × (0.80)	(60)	円筒状	-	人為	陶器	

(2) 火葬土坑

第199号土坑（第26図）

位置 調査区西部のB 2 d9 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第225号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形はT字形で、主軸方向はN - 160° - Eである。通風溝の規模は長さ 0.97 m, 上幅 0.32 m, 下幅 0.08 m である。確認面からの深さは 20cm で、底面は凹凸がある。燃焼部は横幅 1.40 m, 奥行 0.58 m の長方形で、主軸と直交している。確認面からの深さは 10cm で、壁は緩やかに傾斜している。燃焼部の北部から東部にかけてと西部の壁際、通風溝の北部で焼土と炭化材が確認された。

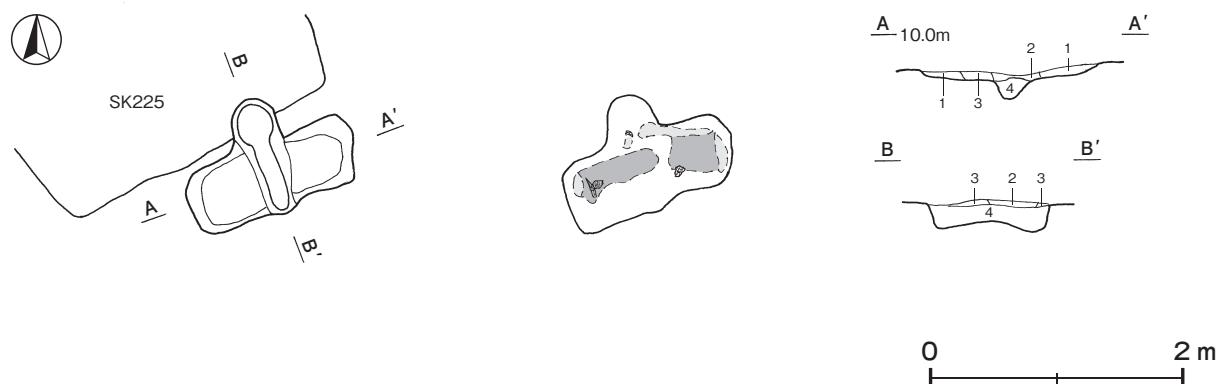
覆土 4層に分層できる。第1・2・4層から骨粉が出土していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	3 黒褐色 焃土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 燃焼部の底面から骨片と骨粉が、覆土下層から上層にかけて骨粉がそれぞれ出土している。

所見 焼土と炭化材及び骨片と骨粉が出土していることから、火葬施設と推測できる。遺骸を火葬し、収骨した後に埋め戻されている。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第26図 第199号土坑実測図

第200号土坑（第27図）

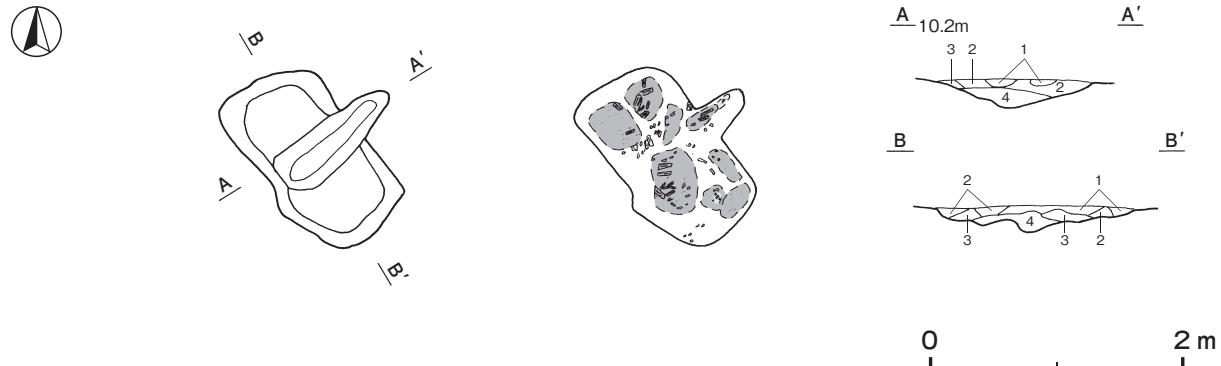
位置 調査区西部のB2d0区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 平面形はT字形で、主軸方向はN-122°-Wである。通風溝の規模は長さ1.10m、上幅0.40m、下幅0.14mである。確認面からの深さは24cmで、底面は燃焼部に向かって傾斜している。燃焼部は横幅1.50m、奥行0.90mの長方形で、主軸と直交している。確認面からの深さは16cmで、壁は緩やかに傾斜している。燃焼部南部及び通風溝で焼土が、燃焼部の北部から南部にかけて炭化材がそれぞれ確認された。

覆土 4層に分層できる。第2～4層から骨粉が出土していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	3 暗赤褐色 焃土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	4 黒褐色 焃土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量



第27図 第200号土坑実測図

遺物出土状況 燃焼部及び通風溝の底面から骨片と骨粉が、覆土下層から上層にかけて骨粉がそれぞれ出土している。

所見 焼土と炭化材及び骨片と骨粉が出土していることから、火葬施設と推測できる。遺骸を火葬し、収骨した後に埋め戻されている。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。

第 218 号土坑（第 28 図）

位置 調査区西部の B 2 c9 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は不整 T 字形で、主軸方向は N - 40° - W である。通風溝の規模は長さ 1.30 m、上幅 0.42 m、下幅 0.24 m である。確認面からの深さは 50cm で、底面は平坦である。燃焼部は横幅 1.08 m、奥行 0.50 m の不整長方形で、主軸と直交している。確認面からの深さは 10cm で、壁は緩やかに傾斜している。燃焼部の西部及び通風溝で焼土が確認された。

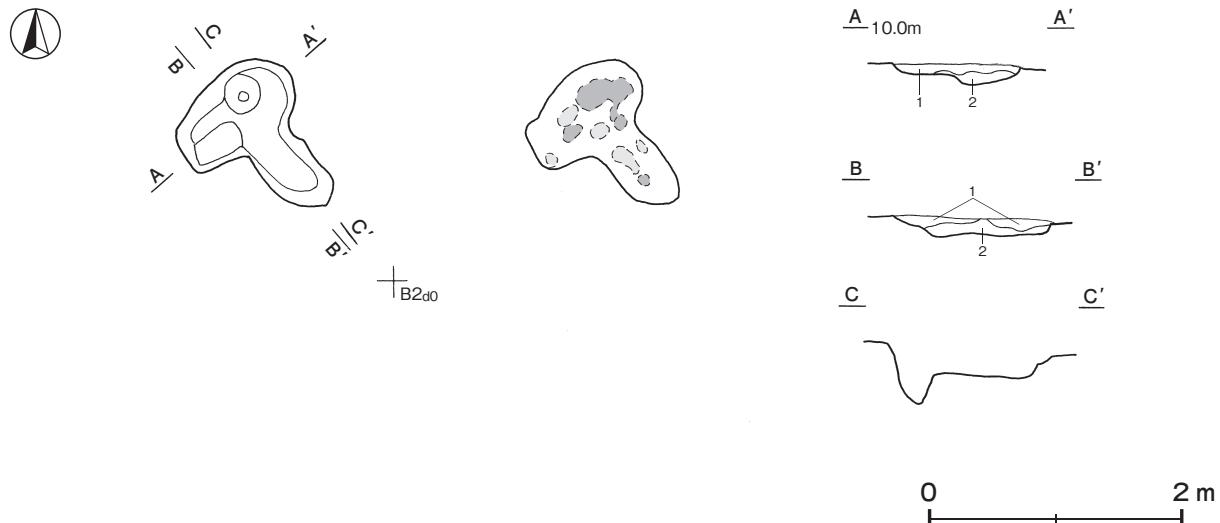
覆土 2 層に分層できる。両層から骨粉が出土していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 2 黒 褐 色 焼土ブロック少量、炭化材・ローム粒子少量

遺物出土状況 燃焼部の底面から骨片と骨粉が、覆土下層から上層にかけて骨粉がそれぞれ出土している。

所見 焼土と炭化材及び骨片と骨粉が出土していることから、火葬施設と推測できる。遺骸を火葬し、収骨した後に埋め戻されている。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第 28 図 第 218 号土坑実測図

第 239 号土坑（第 29 図）

位置 調査区西部の B 2 d8 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は T 字形で、主軸方向は N - 142° - E である。通風溝の規模は長さ 1.34 m、上幅 0.40 m、下幅 0.10 m である。確認面からの深さは 38cm で、底面は燃焼部に向かって傾斜している。燃焼部は横幅 1.14 m、奥行 0.57 m の長方形で、主軸と直交している。確認面からの深さは 32cm で、壁は外傾している。燃焼部の南部で焼土が確認された。

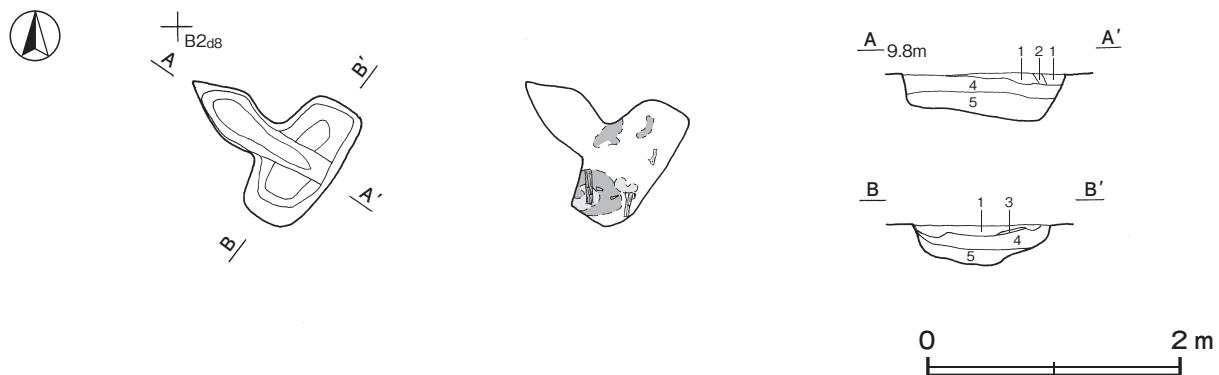
覆土 5層に分層できる。各層から骨片及び骨粉が出土していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 燃焼部の底面から覆土上層にかけて骨片及び骨粉が出土している。

所見 焼土と炭化物及び骨片と骨粉が出土していることから、火葬施設と推測できる。遺骸を火葬し、収骨した後に埋め戻されている。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第29図 第239号土坑実測図

表5 中世火葬土坑一覧表

番号	位置	軸方向	平面形	通風溝(m)				燃焼部(m)			覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ(cm)	横幅×奥行	深さ(cm)	平面形			
199	B2d9	N - 160° - E	T字形	0.97	0.32	0.08	20	1.40 × 0.58	10	長方形	人為	骨片、骨粉	SK225 → 本跡
200	B2d0	N - 122° - W	T字形	1.10	0.40	0.14	24	1.50 × 0.90	16	長方形	人為	骨片、骨粉	
218	B2c9	N - 40° - W	不整T字形	1.30	0.42	0.24	50	1.08 × 0.50	10	不整長方形	人為	骨片、骨粉	
239	B2d8	N - 142° - E	T字形	1.34	0.40	0.10	38	1.14 × 0.57	32	長方形	人為	骨片、骨粉	

(3) 方形堅穴遺構

第1号方形堅穴遺構(第30図)

位置 調査区西部のA 3 j7 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 2.83 m、短軸 1.88 m の長方形で、長軸方向は N - 49° - E である。壁高は 38 ~ 56cm で、ほぼ直立している。

床 若干起伏があり、ほぼ全面が硬化している。

ピット 2か所。P 1・P 2 は深さ 28cm・31cm で、配置から柱穴である。

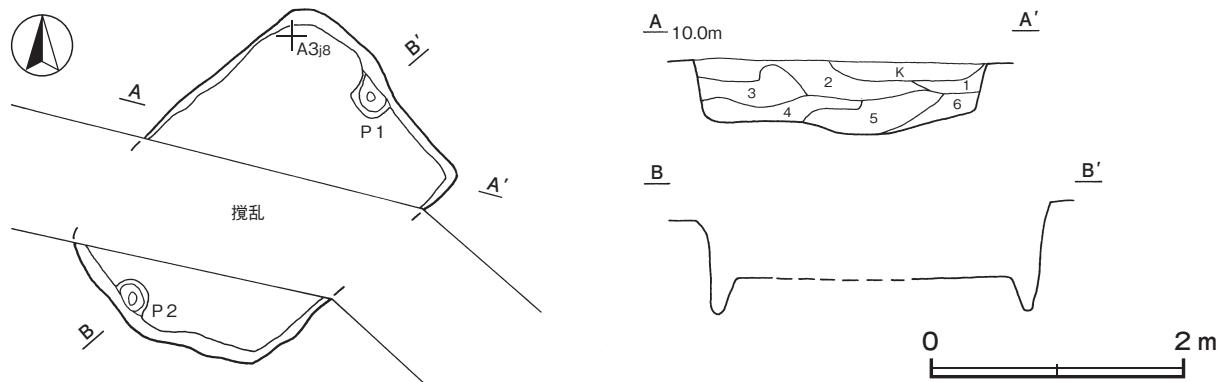
覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示し、多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 陶器片2点（不明）、磁器片1点（徳利）のほか、縄文土器片2点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から中世と考えられる。



第30図 第1号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構（第31図）

位置 調査区西部のB3a5区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 北西部が削平されているため、長軸が2.92mで、短軸は1.56mしか確認できなかった。平面形はピットの位置から長方形になるものと推定される。長軸方向はN-44°-Eである。壁高は12~22cmで、ほぼ直立している。

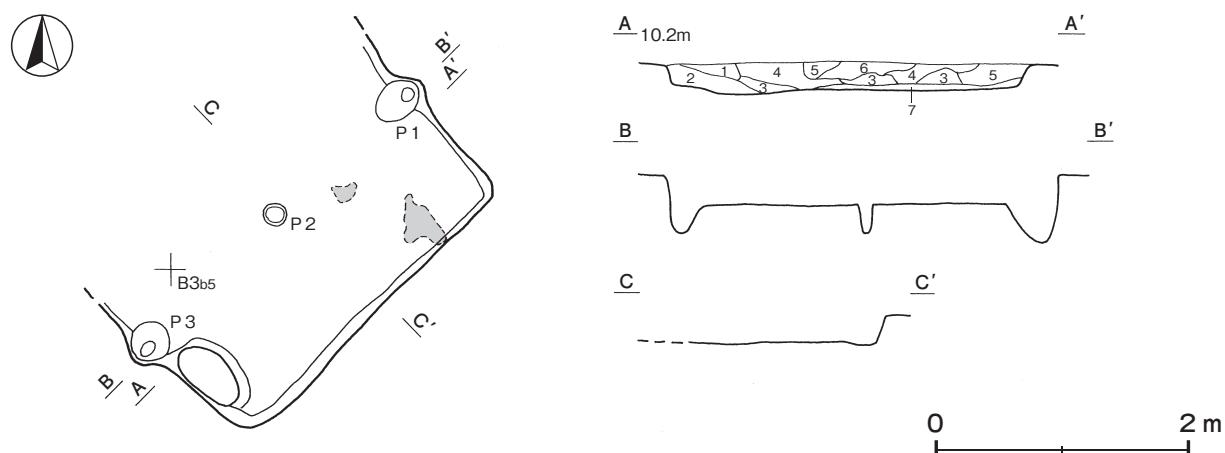
床 ほぼ平坦で、全面が踏み固められている。南コーナー一部に、幅68cm、奥行は39cmで、6cmほどの高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。

ピット 3か所。P1~P3は深さ26~34cmで、配置から柱穴である。

覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。東部の下層からは焼土塊が確認された。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量	5 極 暗 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 色 ロームブロック微量	6 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	7 明 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
4 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量	



第31図 第2号方形竪穴遺構実測図

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）、陶器片 1 点（不明）のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 東部の覆土下層で確認された焼土塊は、埋め戻しの際に混入したものである。時期は、出土土器や遺構の形状から中世と考えられる。

第3号方形竪穴遺構（第32図）

位置 調査区西部のB3b0区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 2.92 m、短軸 1.92 m の長方形である。長軸方向は N - 58° - E である。壁高は 36 ~ 45 cm で、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、全面が踏み固められている。北コーナー部に、幅は 67 cm、奥行は 31 cm で、11 cm ほどの高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。

ピット 3か所。P1 ~ P3 は深さ 27 ~ 52 cm で、配置から柱穴である。

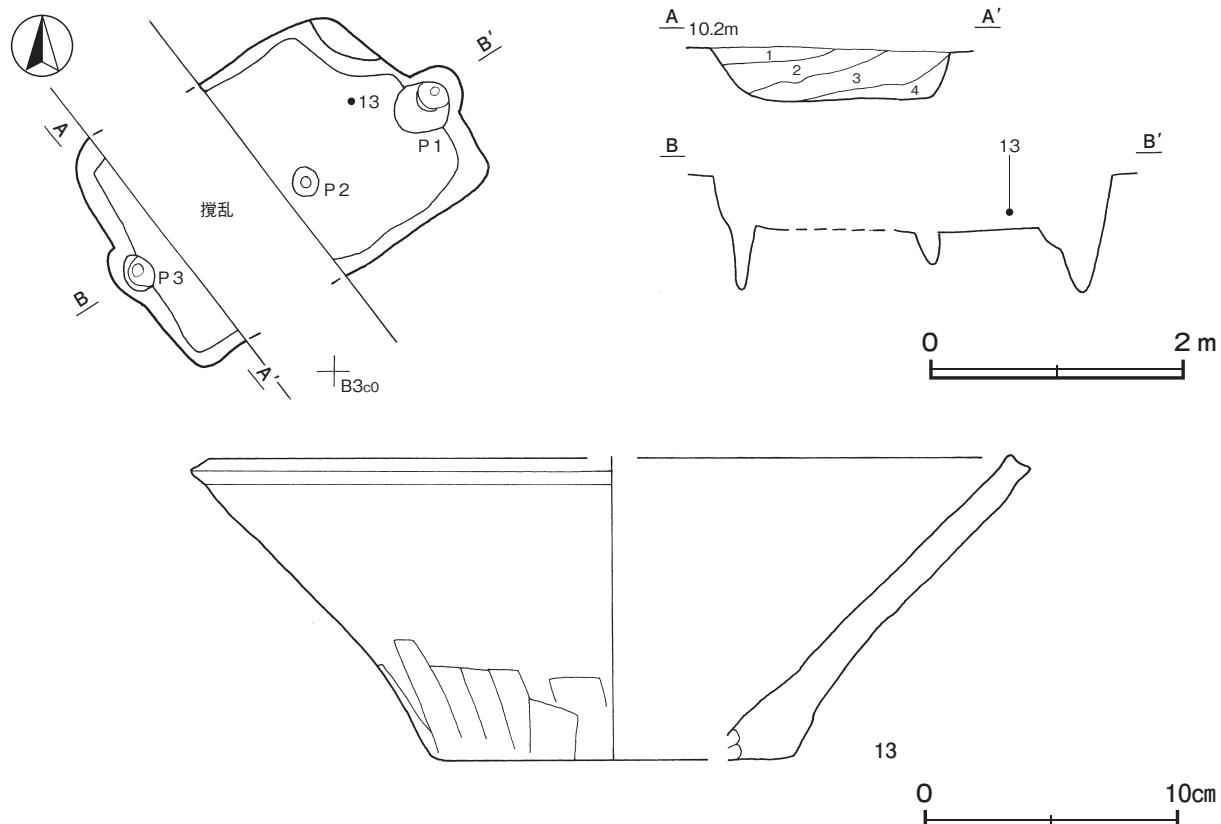
覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐 色 ローム粒子少量	3 暗褐 色 ロームブロック少量
2 黒褐 色 ロームブロック少量	4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 陶器片 5 点（碗 1、片口鉢 4）、磁器片 1 点（不明）のほか、縄文土器片 5 点（深鉢）が出土している。13 は北東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から中世と考えられる。



第32図 第3号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第3号方形堅穴遺構出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	陶器	片口鉢	[31.7]	12.0	[13.7]	長石・石英・細砂	褐色	良好	口縁部外・内面横ナデ 下端ヘラ削り 体部外・内面ナデ	覆土下層	常滑系 20% PL10

第4号方形堅穴遺構（第33図）

位置 調査区西部のB3d6区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.24m、短軸2.30mの長方形である。長軸方向はN-43°-Eである。壁高は35~46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全面が踏み固められている。南コーナー部に、幅95cm、奥行は78cmで、高さは18cmのスロープがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。南東部床面の広い範囲から焼土と炭化物が検出されている。

ピット 3か所。P1・P2は深さは不明で、配置から柱穴である。P3は深さ18cmで、性格不明である。

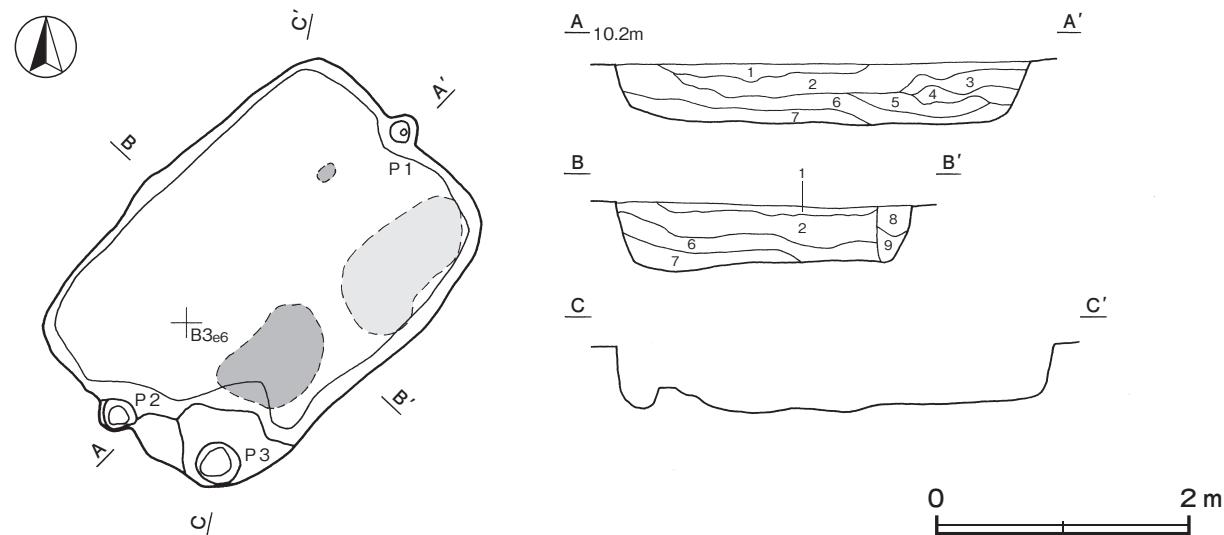
覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	7 黒色	粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量
4 黒色	炭化粒子中量、ローム粒子微量		
5 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量		
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片2点（甕）、陶器片3点（甕2、不明1）、炭化種子1点（桃）のほか、縄文土器片5点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 床面から焼土が検出されたことや、覆土に焼土や炭化物が混入していたことから、焼失遺構の可能性も考えられるが詳細は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第33図 第4号方形堅穴遺構実測図

第5号方形竪穴遺構（第34図）

位置 調査区西部のB 3c4区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.02m、短軸2.10mの長方形である。長軸方向はN-66°-Eである。壁高は27~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。東コーナー部に、幅76cm、奥行25cmで、17cmほどの高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。

ピット 6か所。P1~P3は深さ34~47cmで、配置から柱穴である。P4・P5は深さ46cm・28cmで、出入り口施設に伴う柱穴と考えられる。P6は深さ15cmで、性格不明である。

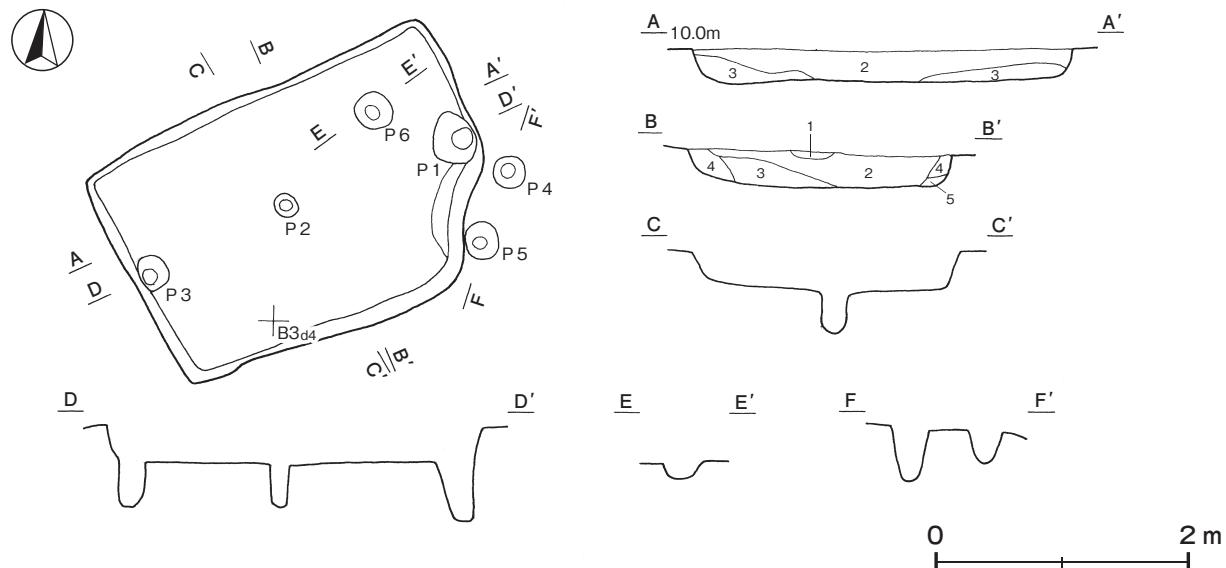
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量	4 極暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量	5 灰褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 陶器片2点(甕)のほか、土師器片2点(甕)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から中世と考えられる。



第34図 第5号方形竪穴遺構実測図

第6号方形竪穴遺構（第35図）

位置 調査区西部のB 3e2区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第183号土坑を掘り込み、第187号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m、短軸2.34mの長方形である。長軸方向はN-44°-Wである。壁高は9~32cmで、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

床 凹凸があり、ほぼ全面が踏み固められている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ48cm・44cmで、配置から柱穴である。P3は深さ38cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

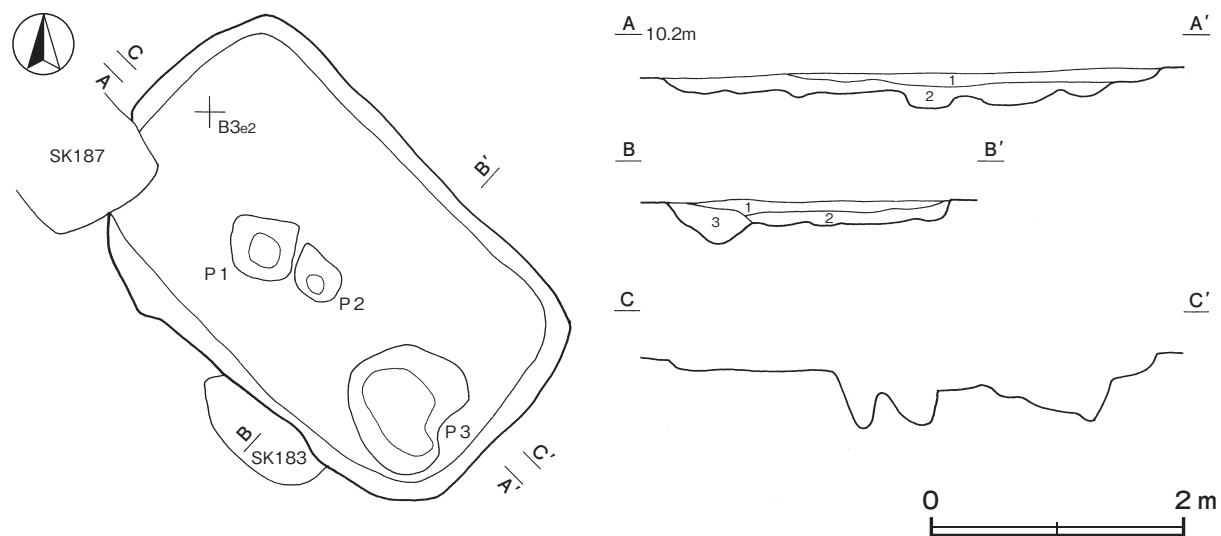
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 鉄滓2点(39.4g)のほか、縄文土器片7点(深鉢)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、周囲の遺構の形状や重複関係から中世と考えられる。

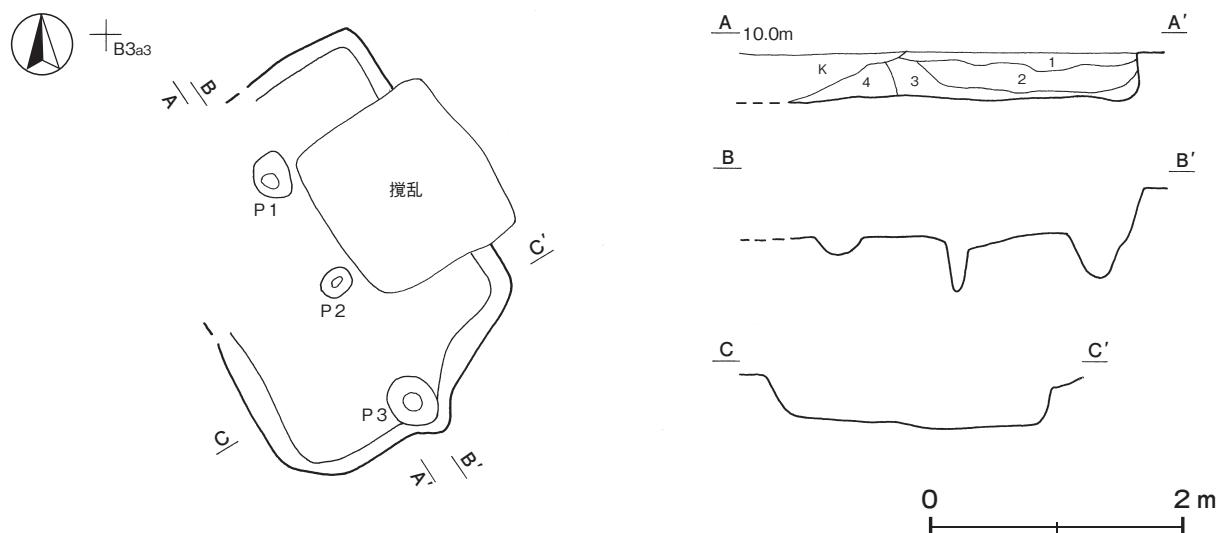


第35図 第6号方形竪穴遺構実測図

第7号方形竪穴遺構(第36図)

位置 調査区西部のB3a3区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 北東部及び北西部の一部が搅乱により削平されている。長軸2.64m、短軸2.30mの長方形と推定される。長軸方向はN-35°-Wである。壁高は30~40cmで、外傾して立ち上がっている。



第36図 第7号方形竪穴遺構実測図

床 やや起伏があり、全面が踏み固められている。

ピット 3か所。P 1～P 3は深さ14～48cmで、配置から柱穴である。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることや各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量	3 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量	4 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 磁器片1点（不明）、礫2点のほか、縄文土器片3点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から中世と考えられる。

第8号方形竪穴遺構（第37図）

位置 調査区西部のB 2e8区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第236号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.87m、短軸2.26mの長方形である。長軸方向はN-62°-Eである。壁高は36～42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、全面が踏み固められている。

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ8cm・12cmで、配置から柱穴と考えられる。

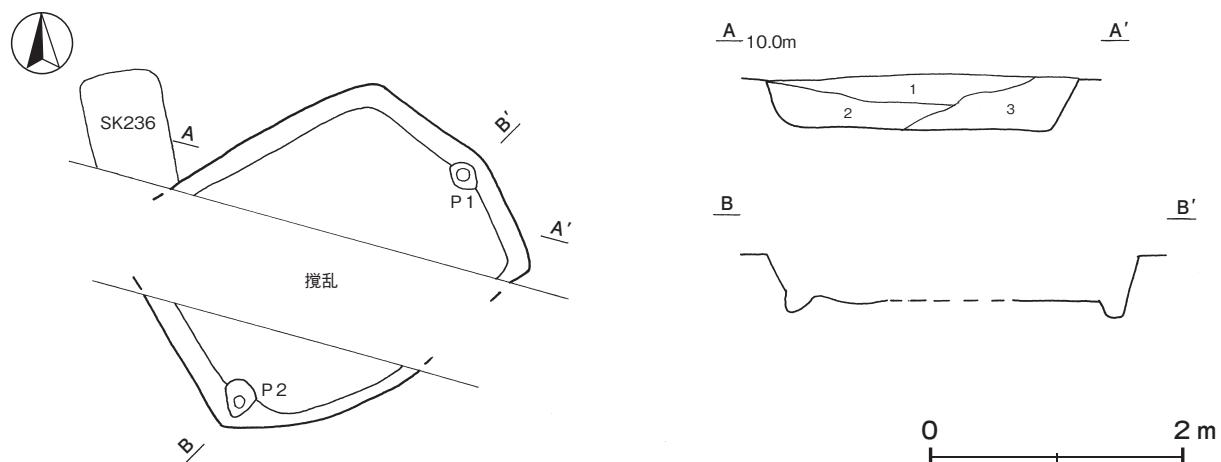
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化物微量	

遺物出土状況 陶器片4点（片口鉢2、甕2）、礫4点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から中世と考えられる。



第37図 第8号方形竪穴遺構実測図

表6 中世方形堅穴遺構一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模		壁高(cm)	床面	内部施設			覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長軸×短軸(m)				柱穴	ピット	出入口部			
1	A3j7	N - 49° - E	長方形	2.83 × 1.88	38 ~ 56	起伏	2	-	-	人為	陶器, 磁器		
2	B3a5	N - 44° - E	[長方形]	2.92 × (1.56)	12 ~ 22	平坦	3	-	1	人為	土師質土器, 陶器		
3	B3b0	N - 58° - E	長方形	2.92 × 1.92	36 ~ 45	平坦	3	-	1	人為	陶器, 磁器		
4	B3d6	N - 43° - E	長方形	3.24 × 2.30	35 ~ 46	平坦	2	1	1	人為	土師質土器, 陶器, 炭化物		
5	B3c4	N - 66° - E	長方形	3.02 × 2.10	27 ~ 28	平坦	5	1	1	人為	陶器		
6	B3e2	N - 44° - W	長方形	3.90 × 2.34	9 ~ 32	凹凸	2	1	-	人為	鉄滓	SK183 → 本跡 → SK187	
7	B3a3	N - 35° - W	[長方形]	2.64 × 2.30	30 ~ 40	起伏	3	-	-	人為	磁器		
8	B2e8	N - 62° - E	長方形	2.87 × 2.26	36 ~ 42	平坦	2	-	-	人為	陶器	SK236 → 本跡	

(4) 土坑(第38~47図)

確認した土坑47基のうち、主な遺物が出土している4基について本文と実測図で記載する。その他の土坑については、実測図のみで掲載する。

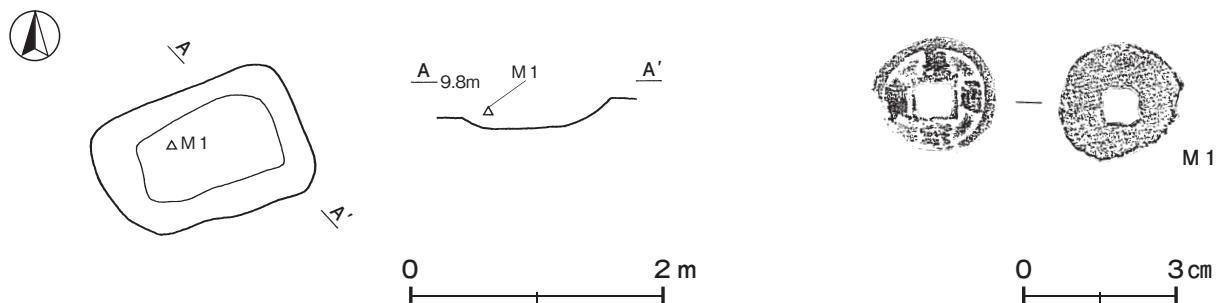
第157号土坑(第38図)

位置 調査区西部のB3b2区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.64m、短軸1.10mの長方形で、長軸方向はN - 67° - Eである。深さは18cmで、壁は緩やかに傾斜している。底面は平坦である。

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、銭貨1点(皇宋通寶)が出土している。M1は中央部の覆土上層から出土している。

所見 出土遺物の状況や遺構の形状から、墓坑と推測されるが本来の機能は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第38図 第157号土坑・出土遺物実測図

第157号土坑出土遺物観察表(第38図)

番号	銭種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	初鋸年	特徴	出土位置	備考
M1	皇宋通寶	2.51	(0.13)	0.61	(2.0)	銅	1068	北宋銭 無背 一部欠損	覆土上層	PL14

第 161 号土坑（第 39 図）

位置 調査区西部の B 3 c2 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第 160 号土坑を掘り込み、第 158 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第 158 号土坑に掘り込まれているため、北西・南東軸が 1.02 m で、北東・南西軸は 0.98 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推測される。北西・南東軸方向は N - 44° - W である。深さは 12cm で、壁は緩やかに傾斜している。底面は平坦である。

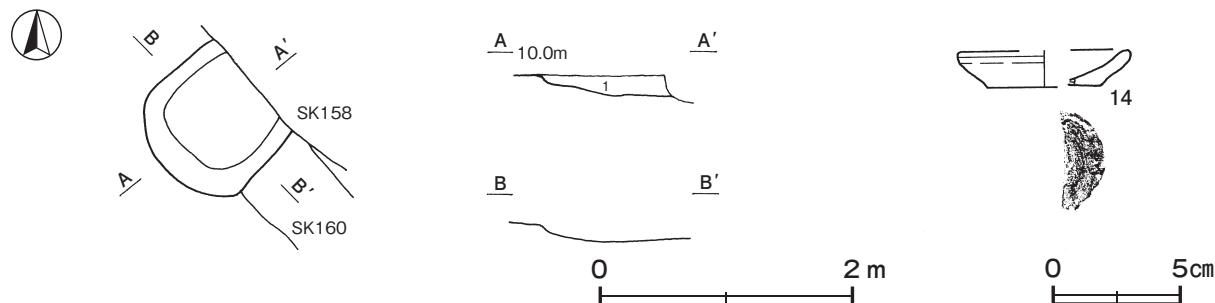
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（小皿）、陶器片 1 点（片口鉢）、碟 1 点が出土している。14 は覆土中から出土している。

所見 遺構の形状から墓坑と推測されるが本来の機能は不明である。時期は、出土土器と重複関係から中世と考えられる。



第 39 図 第 161 号土坑・出土遺物実測図

第 161 号土坑出土遺物観察表（第 39 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師質土器	小皿	[6.6]	1.4	[4.6]	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ 底部回転糸切り	覆土中	40% PL10

第 241 号土坑（第 40・41 図）

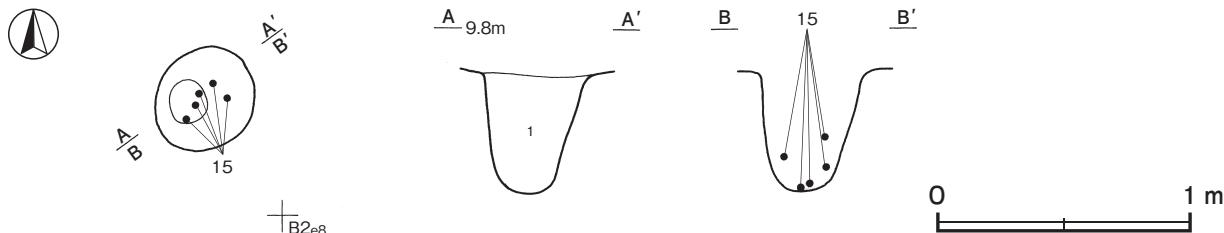
位置 調査区西部の B 2 d7 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.45 m、短径 0.37 m の楕円形で、長径方向は N - 47° - E である。深さは 47cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

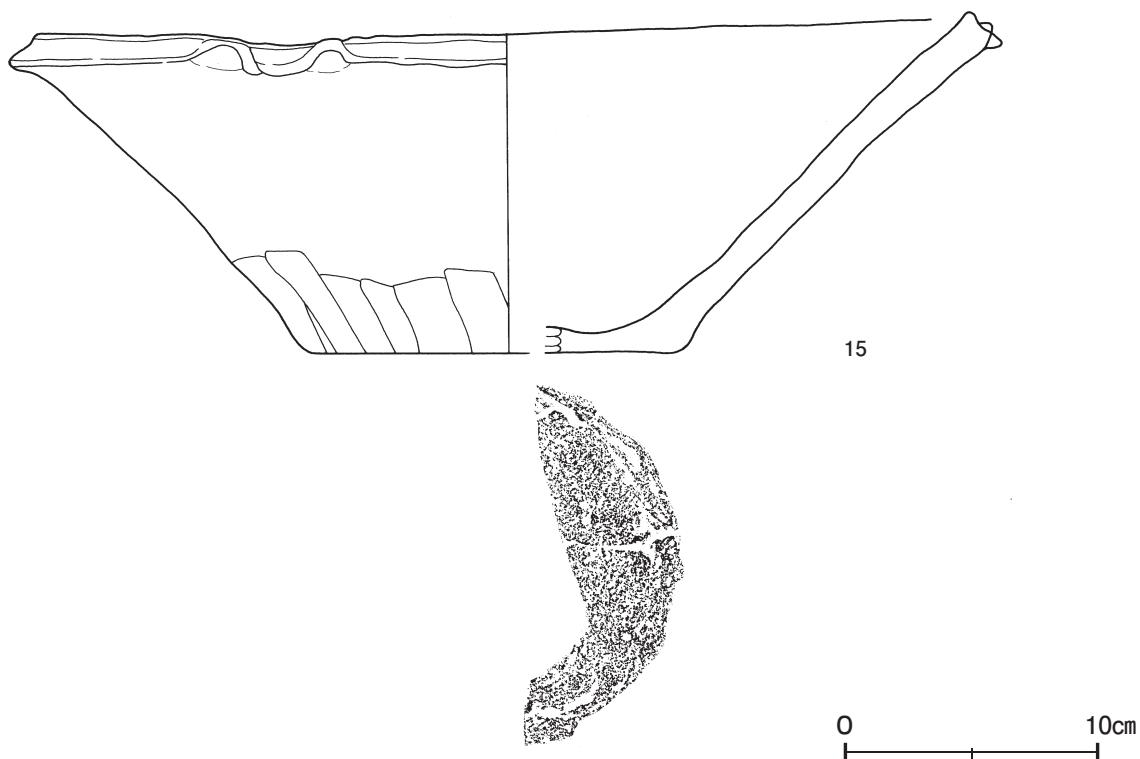
1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量



第 40 図 第 241 号土坑実測図

遺物出土状況 陶器片 24 点（鉢）が中央部から北西部の覆土中層から下層にかけて出土している。15 は出土した 24 点すべてが接合したものである。

所見 土器片が一括して投げ込まれていることから、廃棄土坑と推測されるが本来の機能は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第 41 図 第 241 号土坑出土遺物実測図

第 241 号土坑出土遺物観察表（第 41 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	陶器	鉢	39.4	13.5	14.6	長石・石英	黄灰	良好	口縁部凹み 3か所 ラ削り	体部外・内面ナデ 下端へ	覆土中層 ～下層 常滑系 80% PL9

第 242 号土坑（第 42 図）

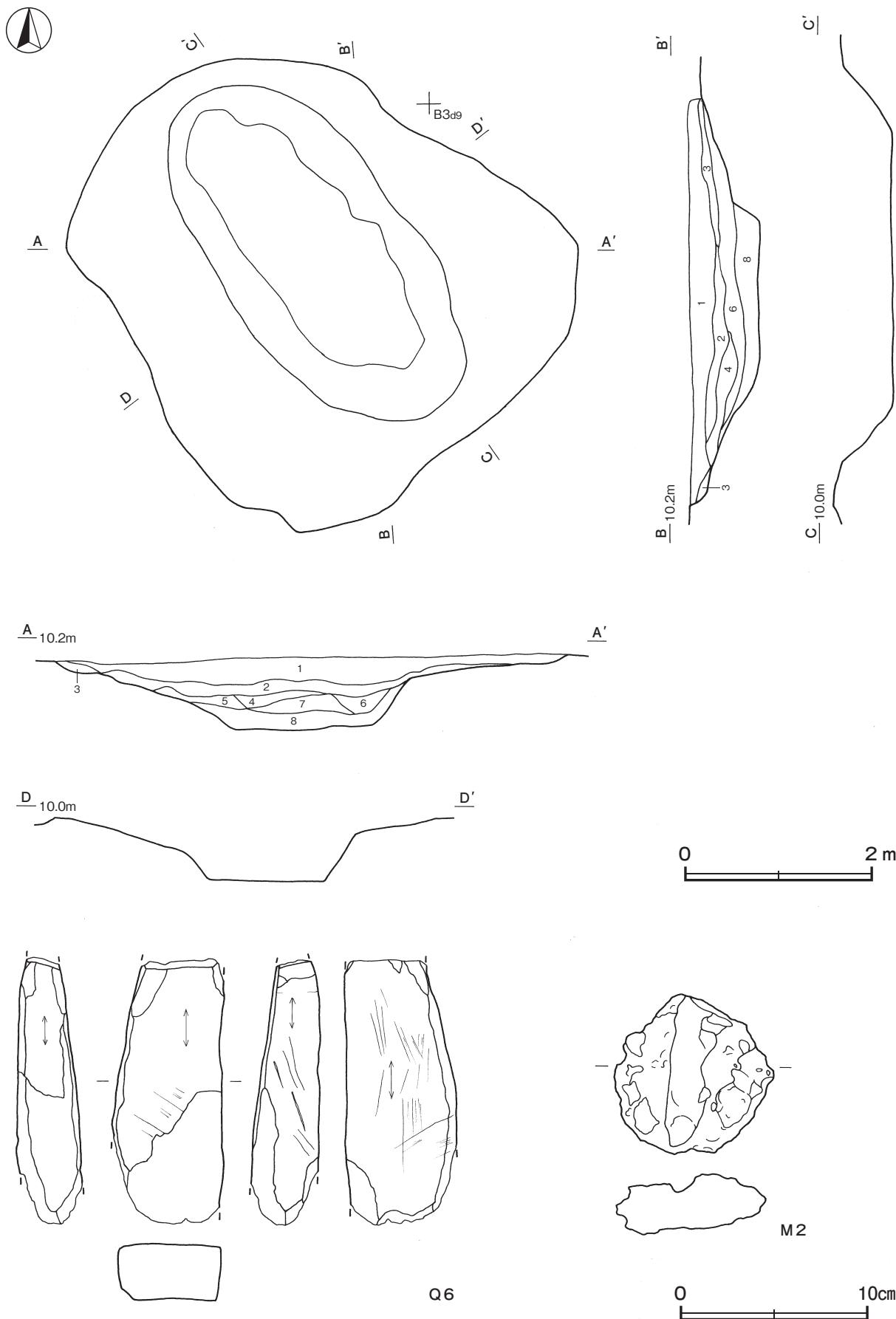
位置 調査区西部の B 3 d8 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 4.90 m、短径 4.60 m の不定形で、長径方向は N - 35° - W である。深さは 65cm で、壁は緩やかに傾斜している。底面は平坦である。

覆土 8 層に分層できる。不規則な堆積状況であることや多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	5 黒色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック少量



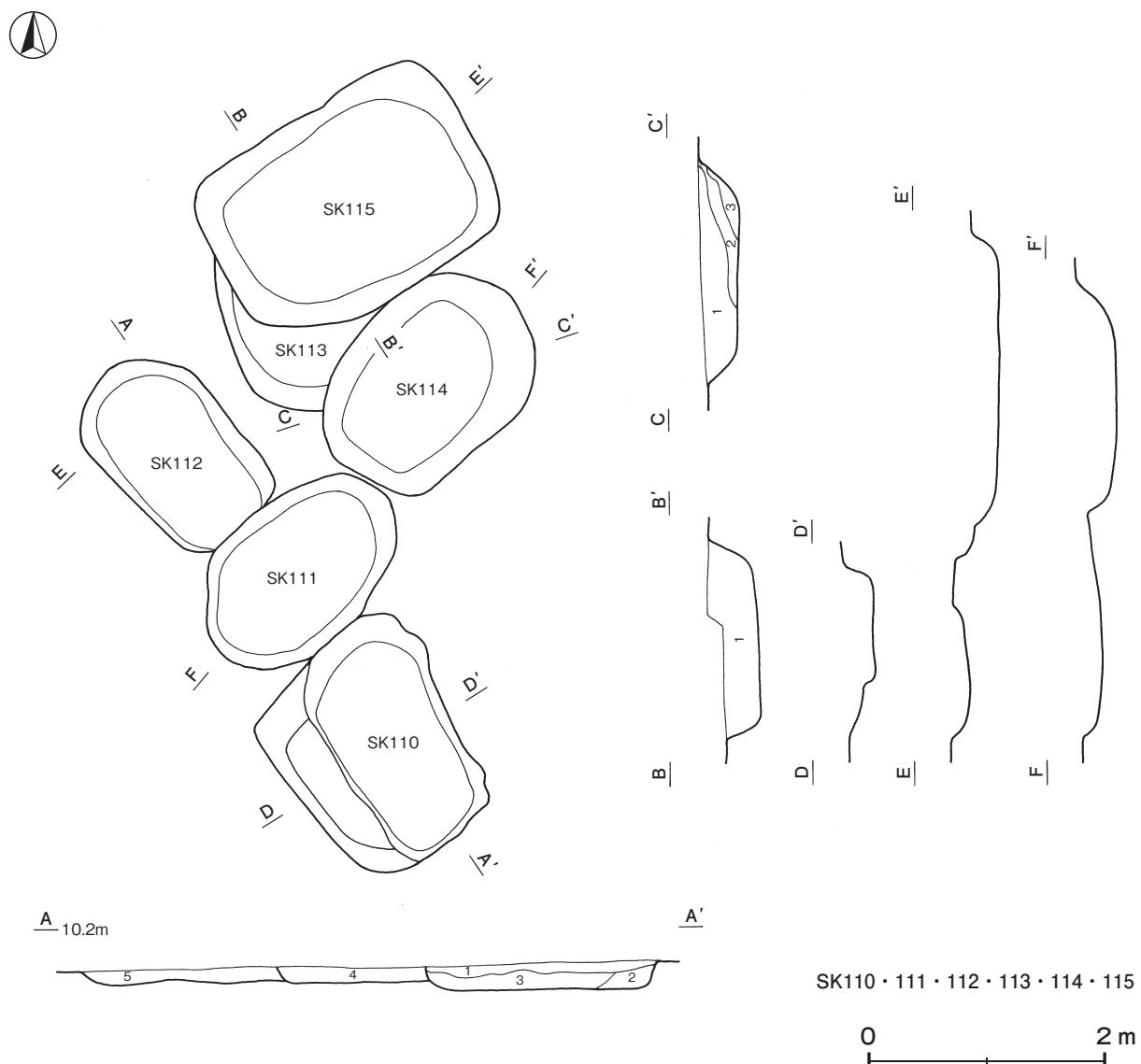
第42図 第242号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 5 点（小皿），陶器片 10 点（片口鉢），石器・石製品 3 点（砥石・磨石・板碑片カ），椀状滓 3 点 (339.6 g)，礫 18 点のほか，縄文土器片 36 点（深鉢）が出土している。Q 6 ・ M 2 はいずれも覆土中から出土している。

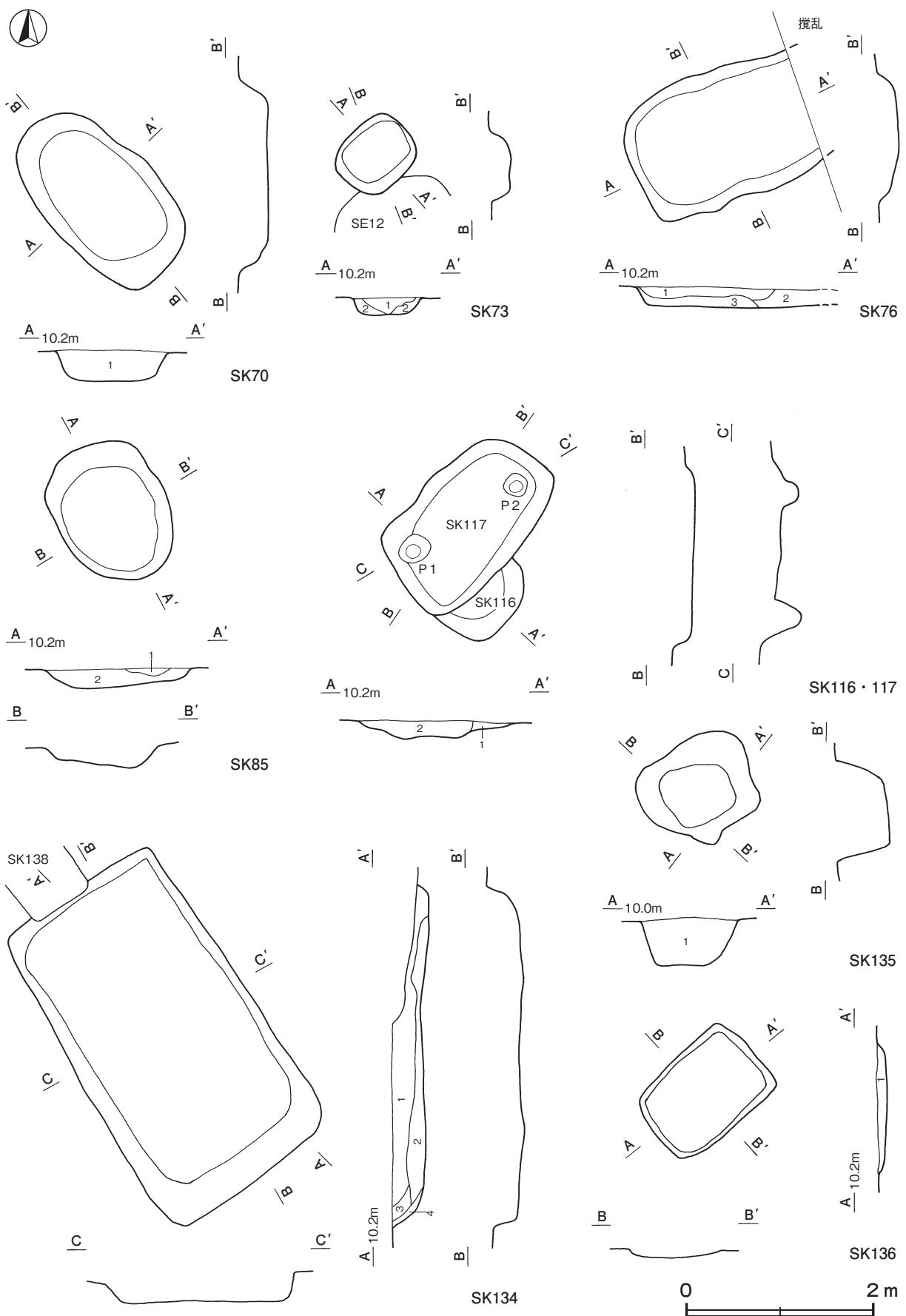
所見 出土遺物の状況や遺構の形状から，廃棄土坑，井戸，溜め池などいくつかの機能が想定されるが本来の機能は不明である。時期は，出土土器から中世と考えられる。

第 242 号土坑出土遺物観察表（第 42 図）

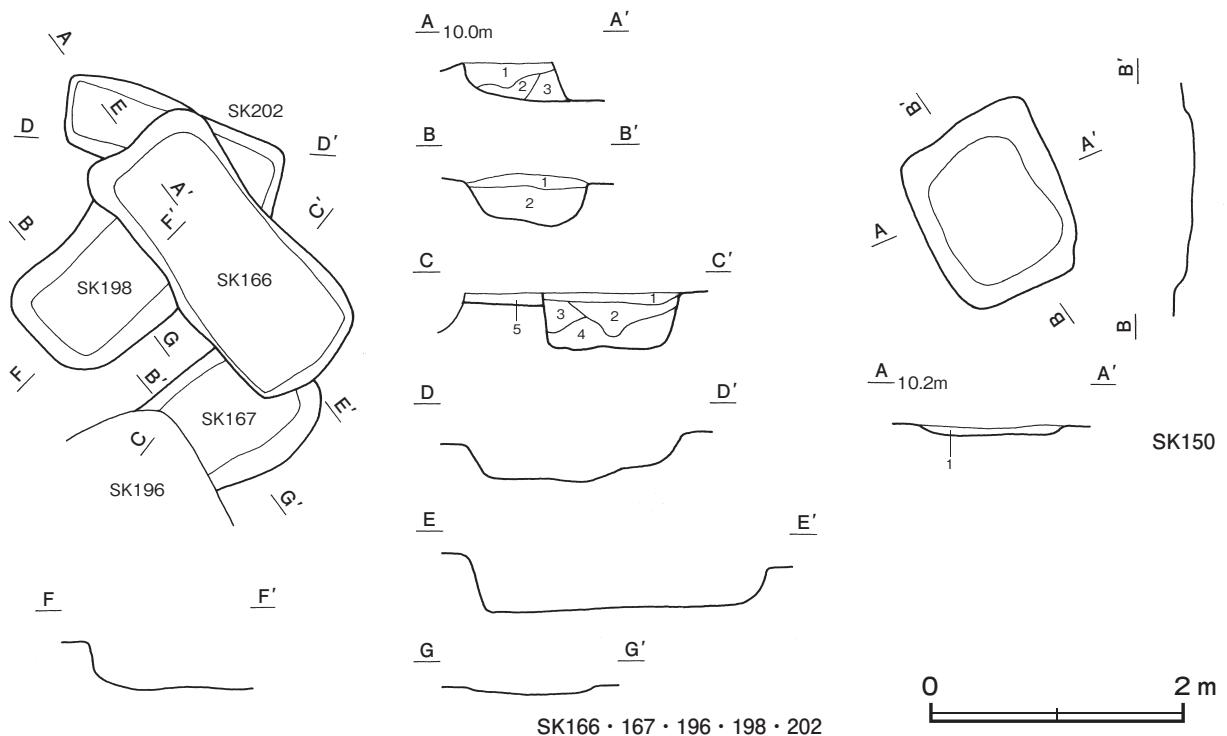
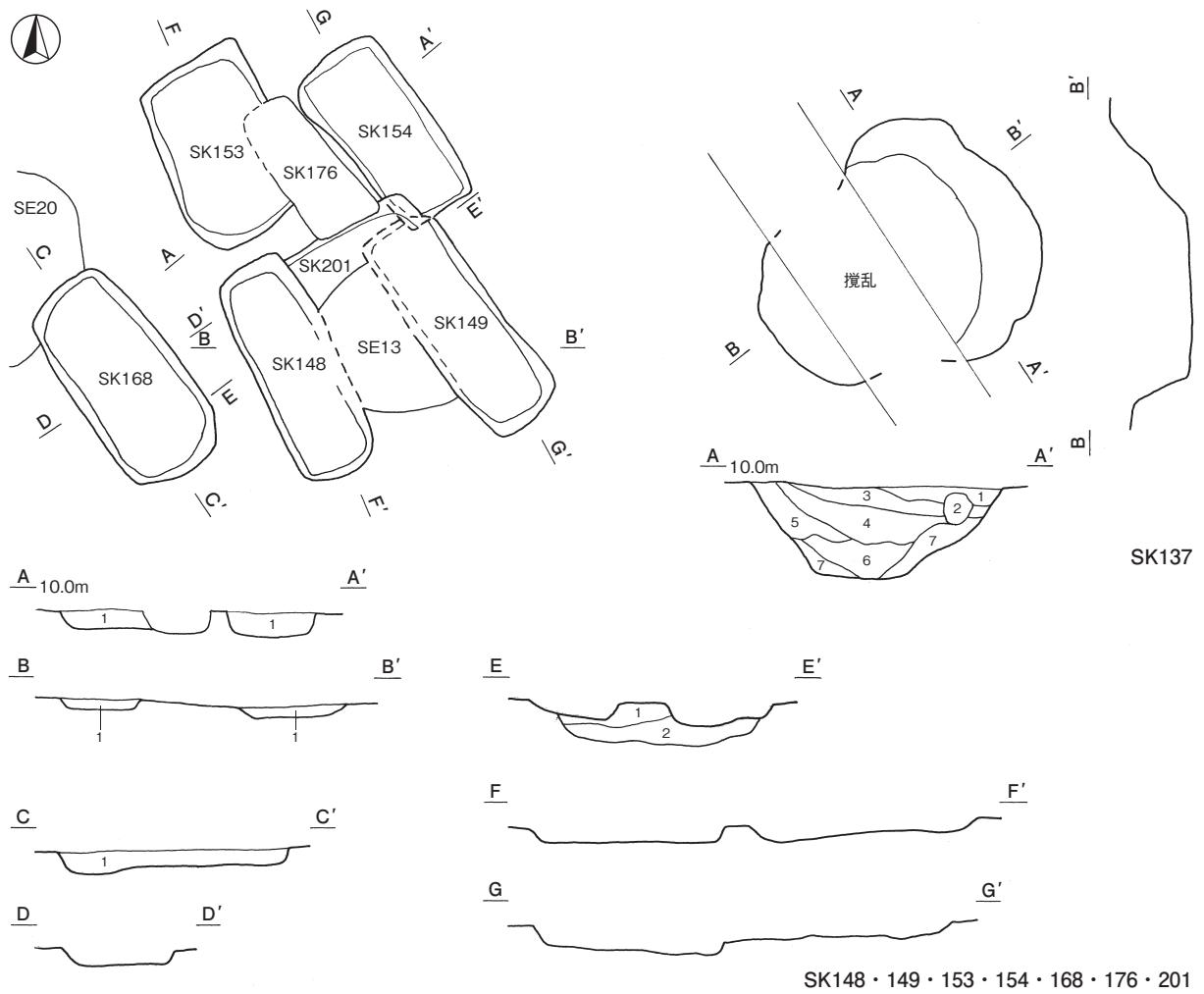
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	(14.3)	6.0	3.6	(115)	凝灰岩	砥面 4 面 他 1 面は破断面	覆土中	
M 2	椀状滓	8.6	8.6	3.3	295	鉄	着磁性あり 表面は暗赤褐色で中央部に円筒状の凹みあり 裏面は暗青灰色で滑らか	覆土中	PL14



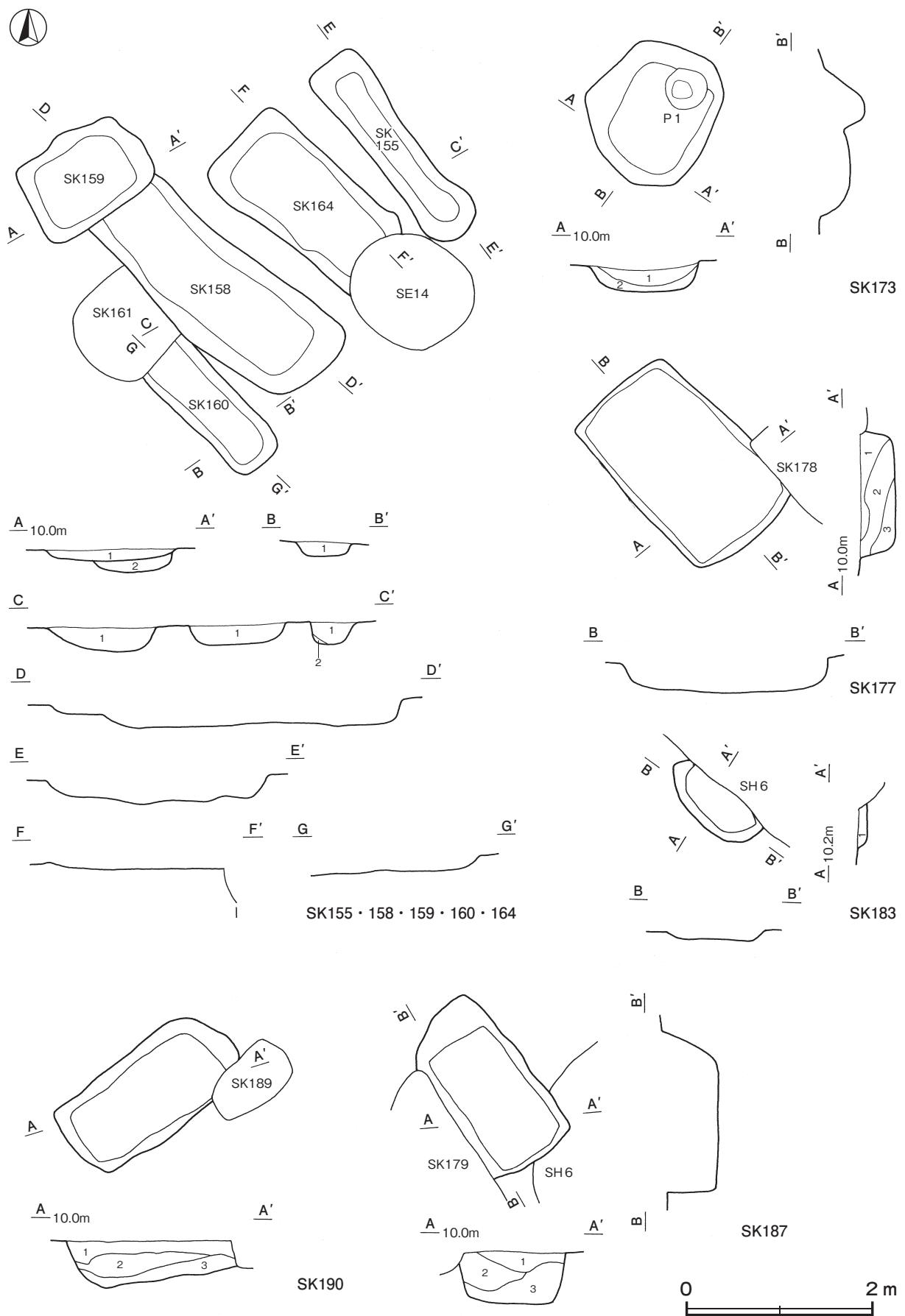
第 43 図 中世のその他の土坑実測図（1）



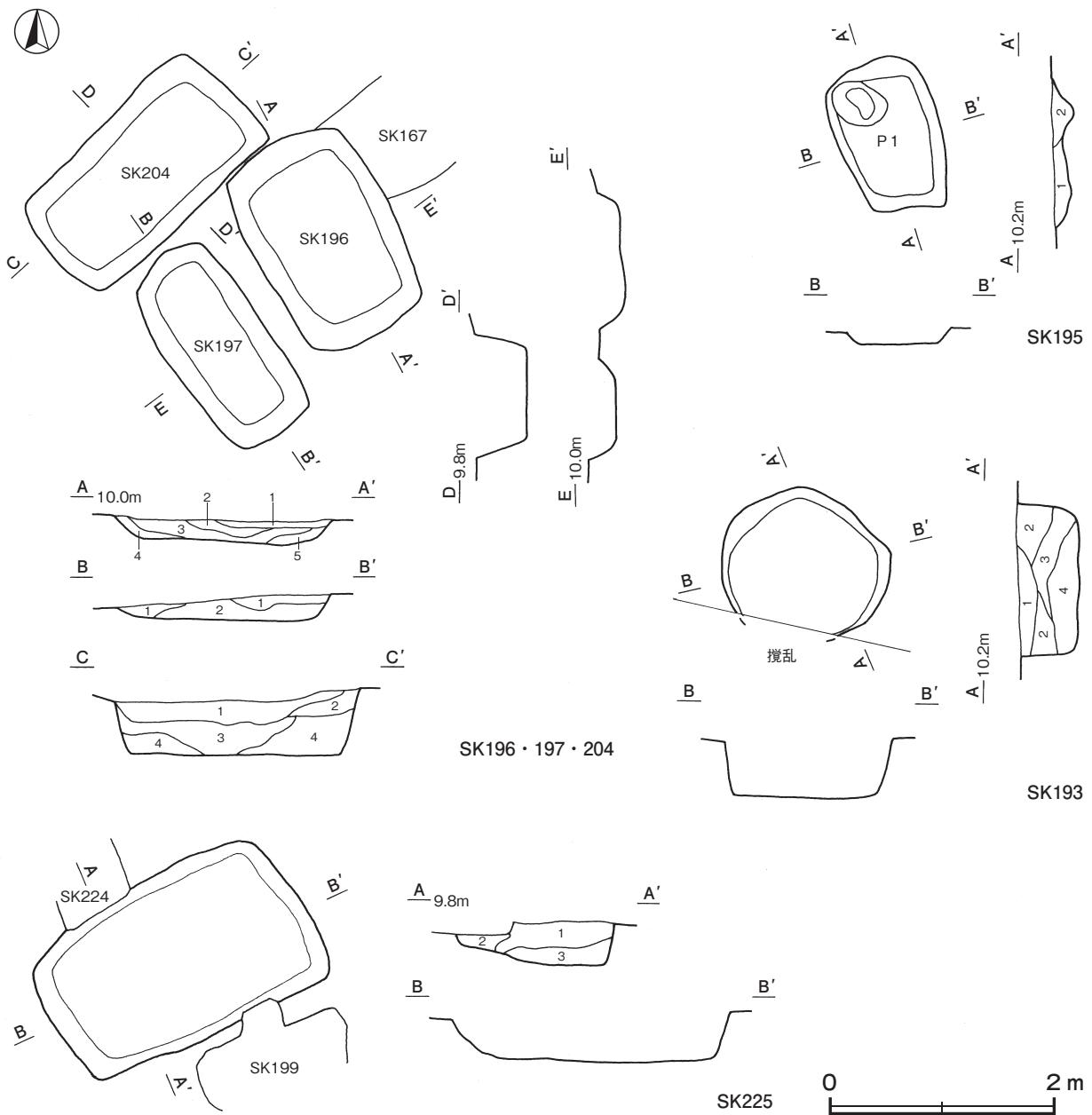
第44図 中世のその他の土坑実測図（2）



第45図 中世のその他の土坑実測図（3）



第46図 中世のその他の土坑実測図（4）



第47図 中世のその他の土坑実測図（5）

第70号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

第73号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 にぶい褐色 ロームブロック少量

第76号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック少量

第85号土坑土層解説

1 黒色 粘土粒子少量, ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量

第110～112号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

4 黒色 ローム粒子微量

5 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量

第114号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ローム粒子少量

第115号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

第 116・117 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

第 134 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 4 極 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 135 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 136 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 137 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 5 極 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第 148・149 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子微量

第 150 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 153 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 154 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 155 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 158 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 烧土粒子微量

第 159 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 烧土粒子微量

第 160 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 164 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 166・167 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第 168 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 173 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 極 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 177 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 183 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

第 187 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

第 190 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量

第 193 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 極 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 極 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 195 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

第 196 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 2 極 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 197 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 198 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 201 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 202 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 204 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量, 烧土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 極 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第 225 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量

表7 中世土坑一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
70	B4e1	N - 39° - W	楕円形	2.10 × 0.19	32	人為	平坦	緩斜		
73	B3d3	N - 43° - E	長方形	0.84 × 0.70	20	人為	平坦	外傾 緩斜		SE12 → 本跡
76	B3b9	N - 65° - E	[長方形]	(1.94) × 1.40	23	人為	平坦	緩斜		
85	B3b8	N - 28° - W	楕円形	1.52 × 1.20	24	人為	平坦	緩斜	陶器	
110	B3b7	N - 33° - W	不定形	1.96 × 1.44	23	人為	平坦	緩斜	陶器	SK111 → 本跡
111	B3a7	N - 41° - E	楕円形	1.90 × 1.24	18	人為	皿状	緩斜		SK112 → 本跡 → SK110
112	B3a7	N - 38° - W	[楕円形]	1.70 × 1.08	16	人為	平坦	緩斜		本跡 → SK111
113	B3a7	N - 90° - W	不定形	1.30 × 0.72	16	不明	平坦	緩斜		本跡 → SK114 · 115
114	B3a7	N - 37° - E	楕円形	2.00 × 1.44	33	自然	平坦	緩斜	土師質土器	SK113 → 本跡
115	A3j7	N - 60° - E	長方形	2.40 × 1.74	23	人為	平坦	緩斜	陶器	SK113 → 本跡
116	B3a6	N - 45° - W	-	1.02 × (0.46)	6	人為	平坦	緩斜		本跡 → SK117
117	A3j7	N - 44° - E	長方形	1.94 × 1.10	10	人為	平坦	緩斜		SK116 → 本跡
134	B3c3	N - 32° - W	長方形	3.68 × 2.00	30	人為	平坦	外傾 緩斜	土師質土器, 陶器	本跡 → SK138
135	B3b3	N - 50° - E	不定形	1.28 × 1.00	50	人為	平坦	外傾	土師質土器	
136	B3f7	N - 51° - E	長方形	1.38 × 0.96	8	人為	平坦	緩斜		
137	A3j7	N - 53° - E	[楕円形]	2.24 × 2.00	(50)	人為	平坦	外傾 緩斜	陶器	
148	B3d1	N - 23° - W	長方形	1.90 × 0.70	12	人為	平坦	緩斜		SE13, SK201 → 本跡
149	B3d2	N - 37° - W	[長方形]	[1.96] × 0.70	12	人為	平坦	緩斜		SE13, SK201 → 本跡 → SK176 SK154 と重複
150	B3c3	N - 27° - W	長方形	1.42 × 1.17	10	人為	平坦	緩斜		
153	B3c1	N - 22° - W	[長方形]	1.52 × 0.92	12	人為	平坦	外傾		本跡 → SK176
154	B3c2	N - 32° - W	長方形	1.60 × 0.74	20	人為	平坦	緩斜		SK149 · 201 と重複
155	B3c3	N - 36° - W	長方形	2.34 × 0.50	24	人為	平坦	緩斜		
157	B3b2	N - 67° - E	長方形	1.64 × 1.10	18	-	平坦	緩斜	土師質土器, 錢貨	
158	B3c2	N - 47° - W	[長方形]	2.74 × 1.10	24	人為	平坦	外傾	土師質土器, 磁器	SK160 · 161 → 本跡 → SK159
159	B3c2	N - 60° - E	長方形	1.38 × 0.90	10	人為	平坦	緩斜	陶器	SK158 → 本跡
160	B3c2	N - 43° - W	[長方形]	(1.60) × 0.60	14	人為	平坦	緩斜		本跡 → SK158 · 161
161	B3c2	N - 44° - W	[方形・長方形]	1.02 × (0.98)	12	人為	平坦	緩斜	土師質土器, 陶器	SK160 → 本跡 → SK158
164	B3c3	N - 45° - W	[長方形]	(1.81) × 1.00	20	人為	平坦	外傾 緩斜		本跡 → SE14
166	B3d1	N - 36° - W	長方形	2.34 × 1.04	44	人為	平坦	外傾	陶器	SK167 · 198 · 202 → 本跡
167	B3d1	N - 60° - E	方形	1.06 × 1.02	6	人為	平坦	緩斜		本跡 → SK166 · 196
168	B3d1	N - 34° - W	長方形	1.82 × 0.88	14	人為	平坦	緩斜		SE20 → 本跡
173	B2d7	N - 35° - E	楕円形	1.56 × 1.36	30	人為	皿状	緩斜		
177	B3e1	N - 41° - W	長方形	2.18 × 1.40	36	人為	平坦	外傾	土師質土器	本跡 → SK178
183	B3e2	N - 55° - W	[楕円形]	1.16 × (0.48)	10	人為	平坦	緩斜		本跡 → SH6
187	B3d1	N - 36° - W	[長方形]	1.90 × (1.00)	57	人為	平坦	直立 外傾	土師質土器, 剥片	SH6 → 本跡 → SK179
190	B3d1	N - 52° - E	長方形	2.00 × 1.00	50	人為	平坦	外傾		本跡 → SK189
193	B2e0	N - 51° - W	(楕円形)	1.50 × (1.26)	50	人為	平坦	直立 外傾	陶器	
195	B2e0	N - 18° - W	長方形	1.30 × 0.90	12	人為	平坦	緩斜		
196	B2e1	N - 27° - W	長方形	1.94 × 1.28	22	自然	平坦	外傾		SK167 → 本跡
197	B1e0	N - 35° - W	長方形	1.90 × 0.90	20	人為	平坦	外傾		
198	B3d1	N - 44° - E	[長方形]	(1.08) × 0.98	40	人為	平坦	外傾		本跡 → SK166
201	B3d2	N - 42° - E	長方形	1.61 × 0.94	33	人為	平坦	外傾		SE13, SK154 → 本跡 → SK148 · 149 · 176
202	B3d1	N - 70° - W	[長方形]	1.90 × 0.63	37	人為	平坦	外傾		本跡 → SK166
204	B2d0	N - 48° - E	長方形	2.18 × 1.10	44	人為	平坦	直立		

番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長軸×短軸 (m)	深さ (cm)					
225	B2d9	N - 61° - E	長方形	2.50 × 1.50	48	人為	平坦	外傾	陶器	本跡 → SK199・224
241	B2d7	N - 47° - E	橢円形	0.45 × 0.37	47	人為	平坦	直立	陶器	
242	B3d8	N - 35° - W	不定形	4.90 × 4.60	65	人為	平坦	緩斜	土師質土器、陶器、石器、石製品、楕状滓	

3 近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑 55 基、堀跡 1 条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑 (第 48 ~ 56 図)

確認した土坑 55 基のうち、主な遺物が出土している 3 基については、本文と実測図で記載する。重複関係、遺構の形状などから近世と考えられるその他の土坑については、実測図のみを掲載するものとする。

第 130 号土坑 (第 48 図)

位置 調査区東部の B 3 d4 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 2.56 m、短軸 0.76 m の長方形で、長軸方向は N - 26° - W である。深さは 32 cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

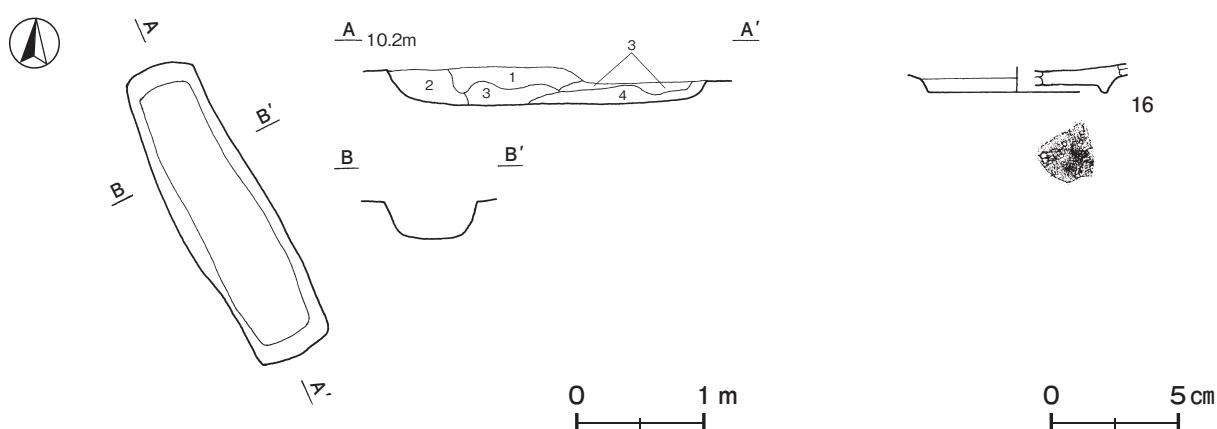
覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐 色 ロームブロック微量	3 黒褐 色 ロームブロック微量
2 極暗褐 色 ローム粒子微量	4 暗褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片 1 点(皿)のほか、縄文土器片 2 点(深鉢)が出土している。16 は覆土中から出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から近世と考えられる。



第 48 図 第 130 号土坑・出土遺物実測図

第 130 号土坑出土遺物観察表 (第 48 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備考
16	陶器	皿	-	(1.1)	[7.0]	長石・石英	灰白	良好	外・内面長石釉 高台貼付	覆土中	志野系 5%

第 144 号土坑（第 49 図）

位置 調査区東部の B 3 e6 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第 143 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.68 m、短軸 0.46 m の長方形で、長軸方向は N – 41° – W である。深さは 23cm で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面は平坦である。

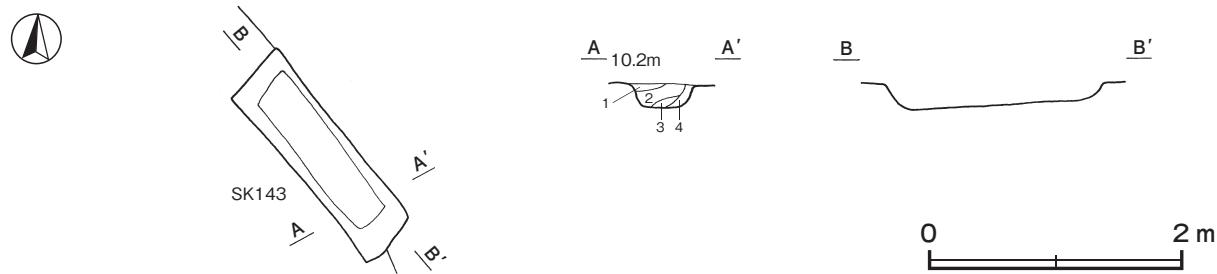
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量	3 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量	4 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 2 点（小皿）、陶器片 1 点（皿）、磁器片 1 点（碗）のほか、縄文土器片 3 点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から近世と考えられる。

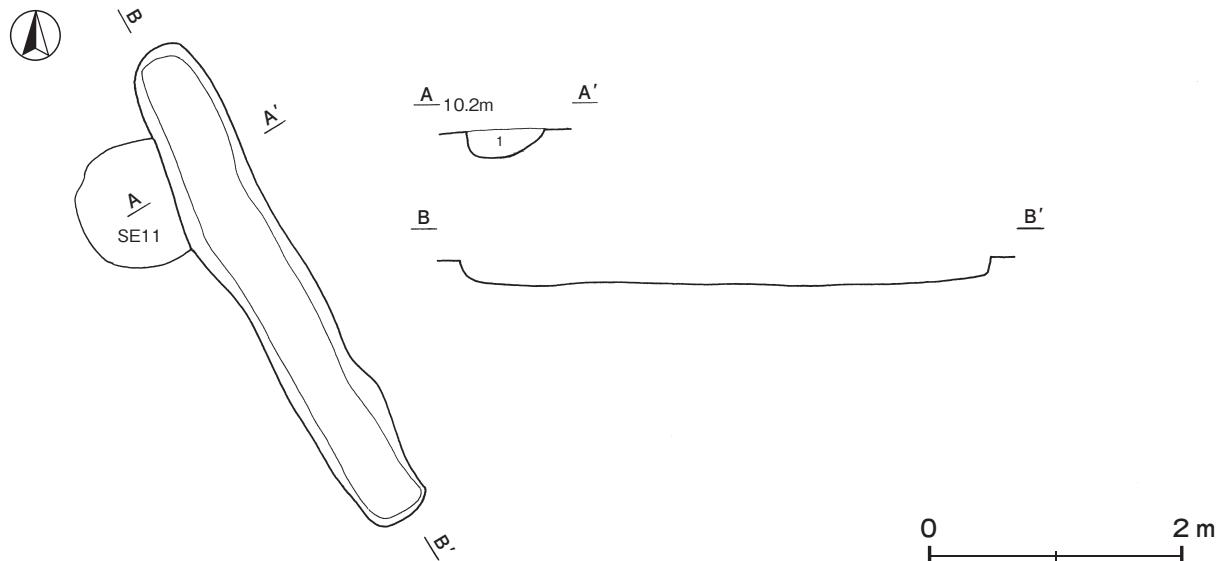


第 49 図 第 144 号土坑実測図

第 146 号土坑（第 50 図）

位置 調査区東部の B 3 d5 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第 11 号井戸跡を掘り込んでいる。



第 50 図 第 146 号土坑実測図

規模と形状 長軸 4.20 m, 短軸 0.62 m の長方形で、長軸方向は N - 29° - W である。深さは 24cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

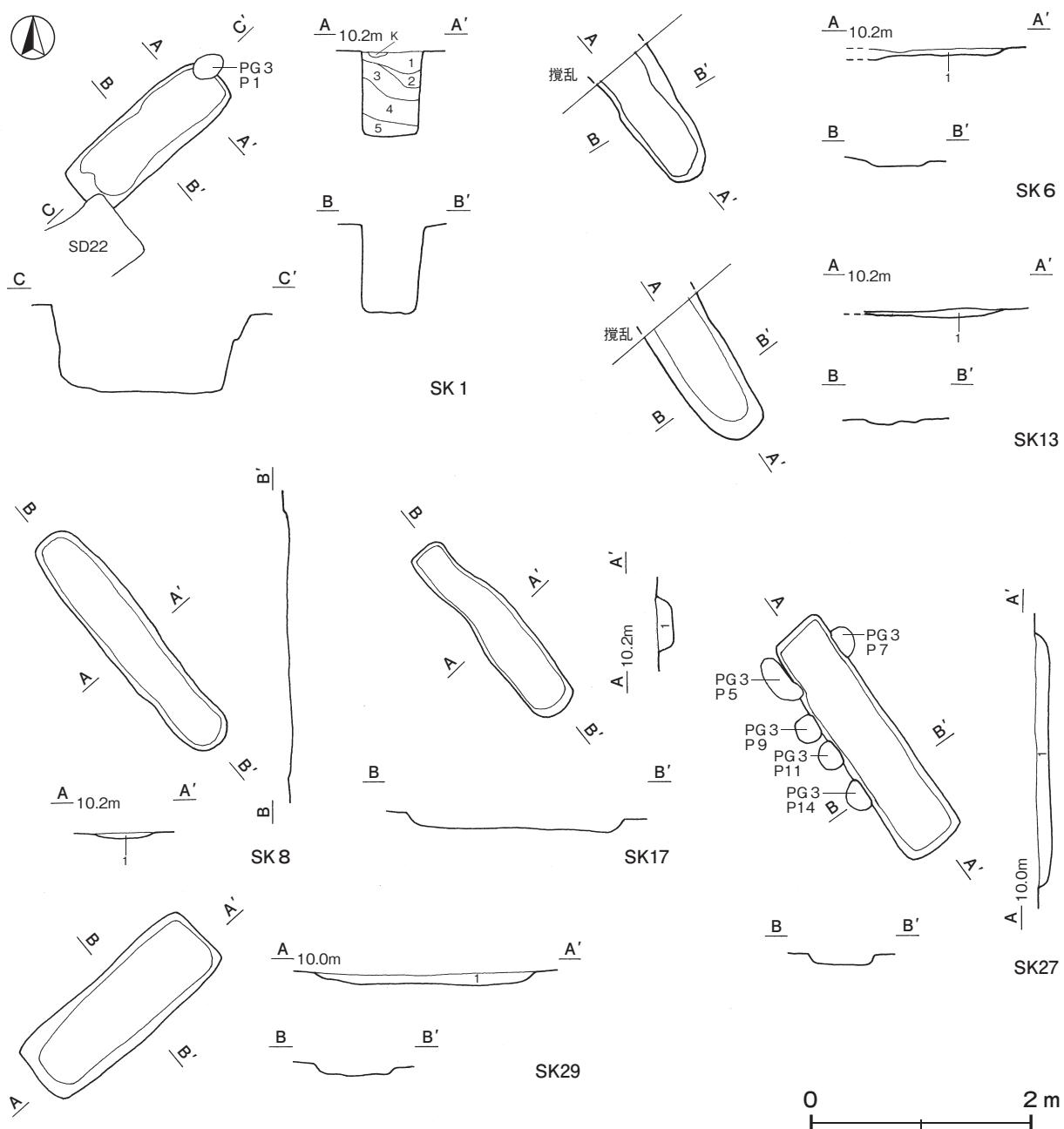
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

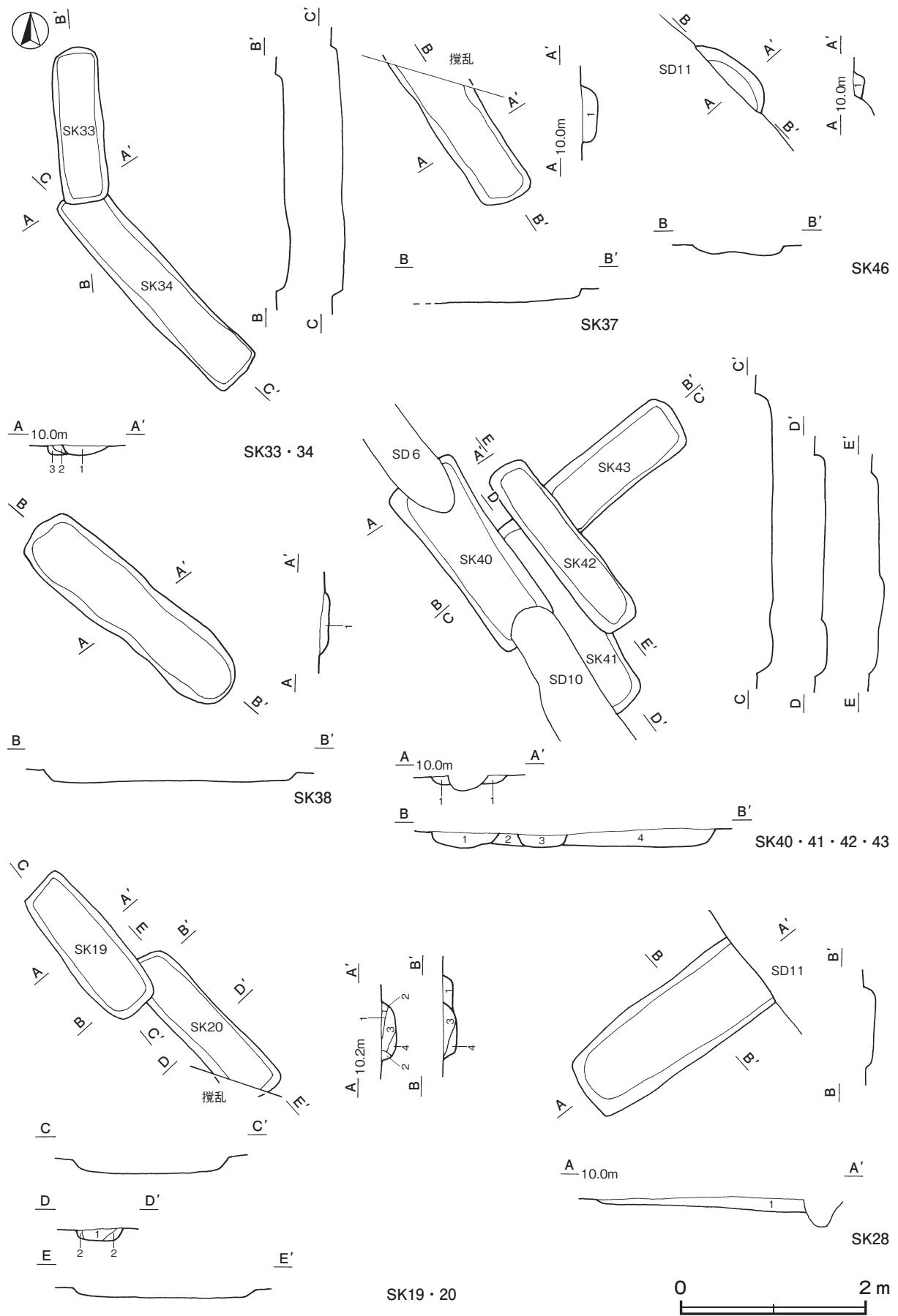
1 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 陶器片 1 点（碗）、磁器片 1 点（皿）のほか、縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

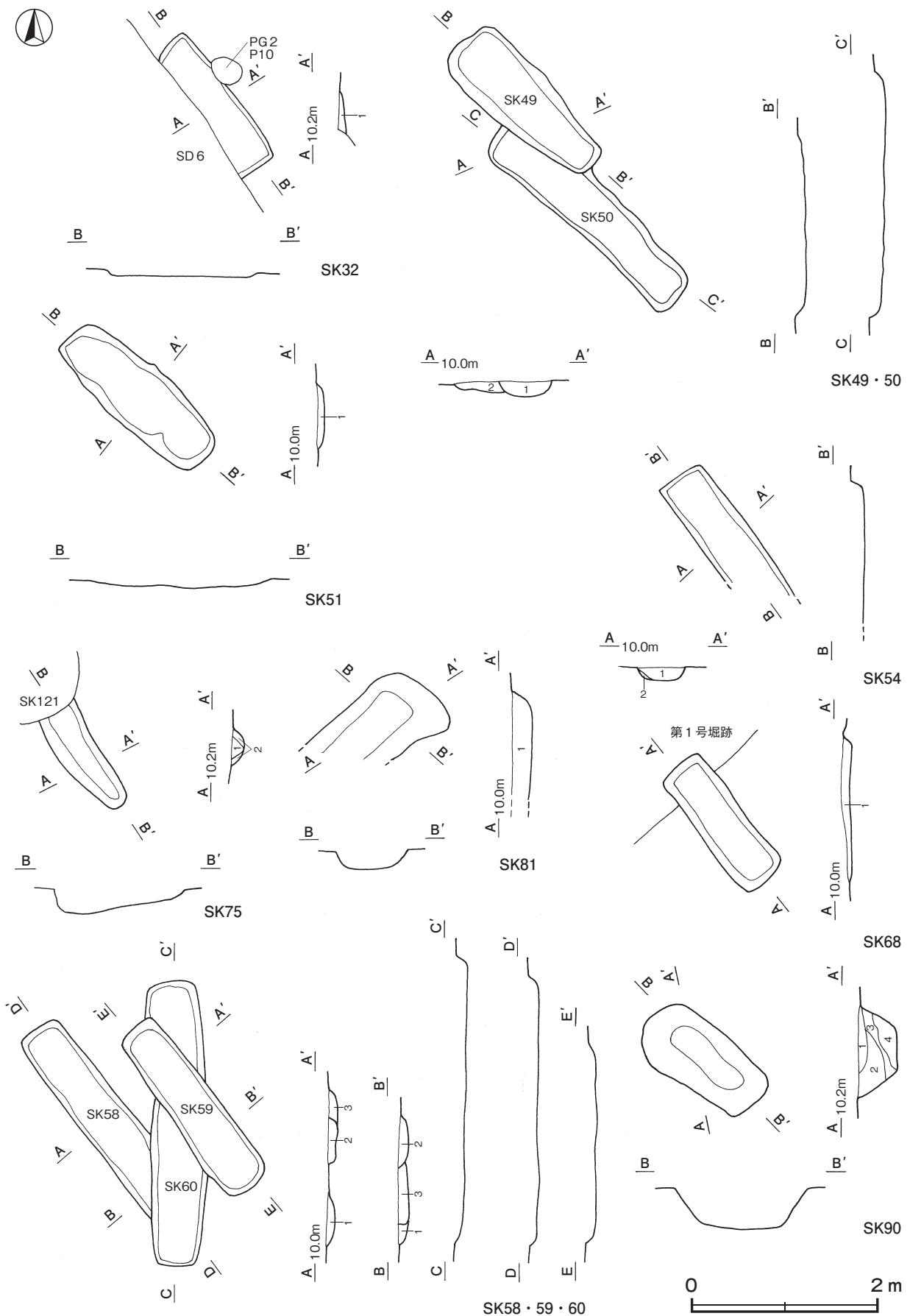
所見 性格は不明である。時期は、出土土器や重複関係から近世と考えられる。



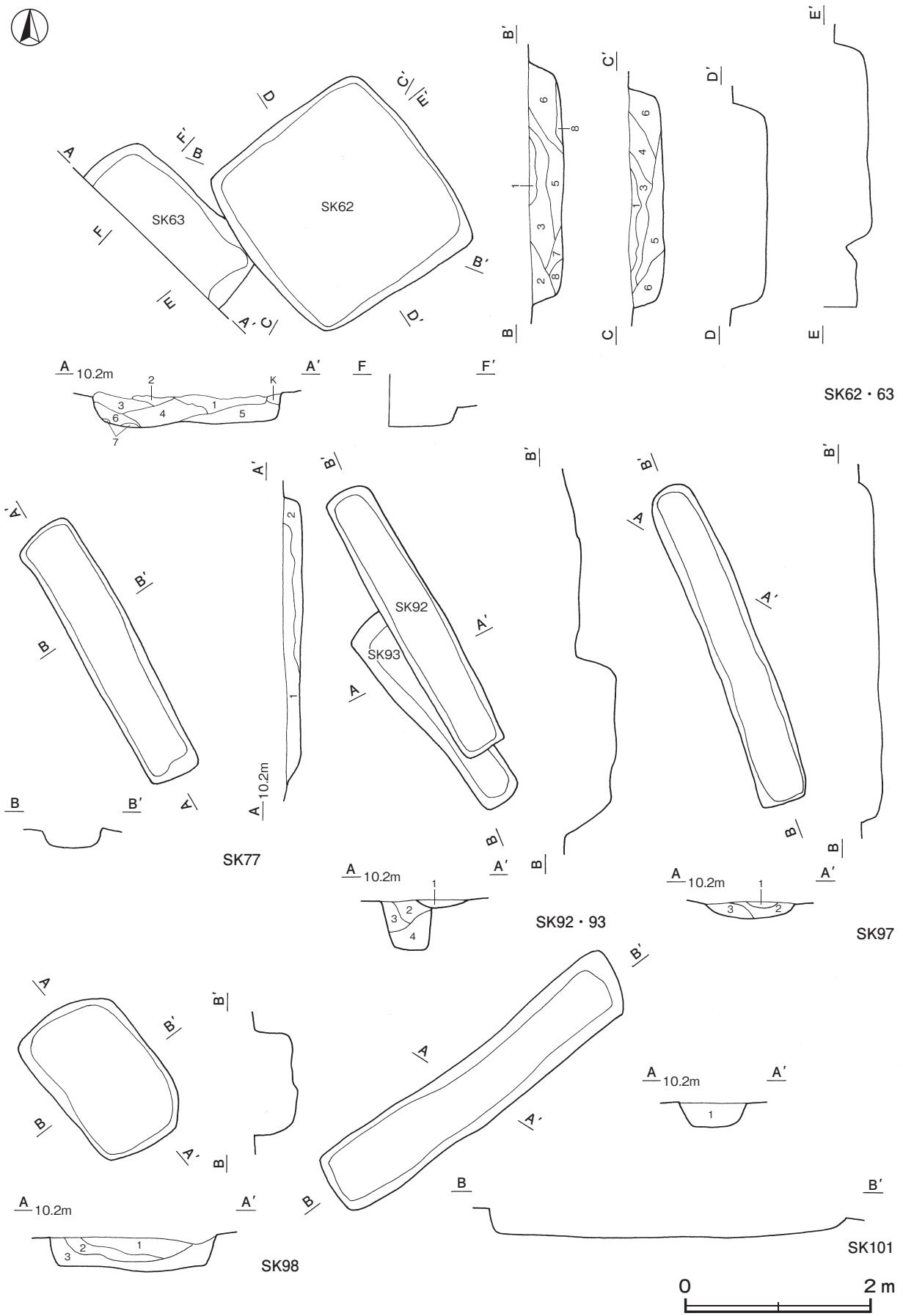
第 51 図 近世のその他の土坑実測図 (1)



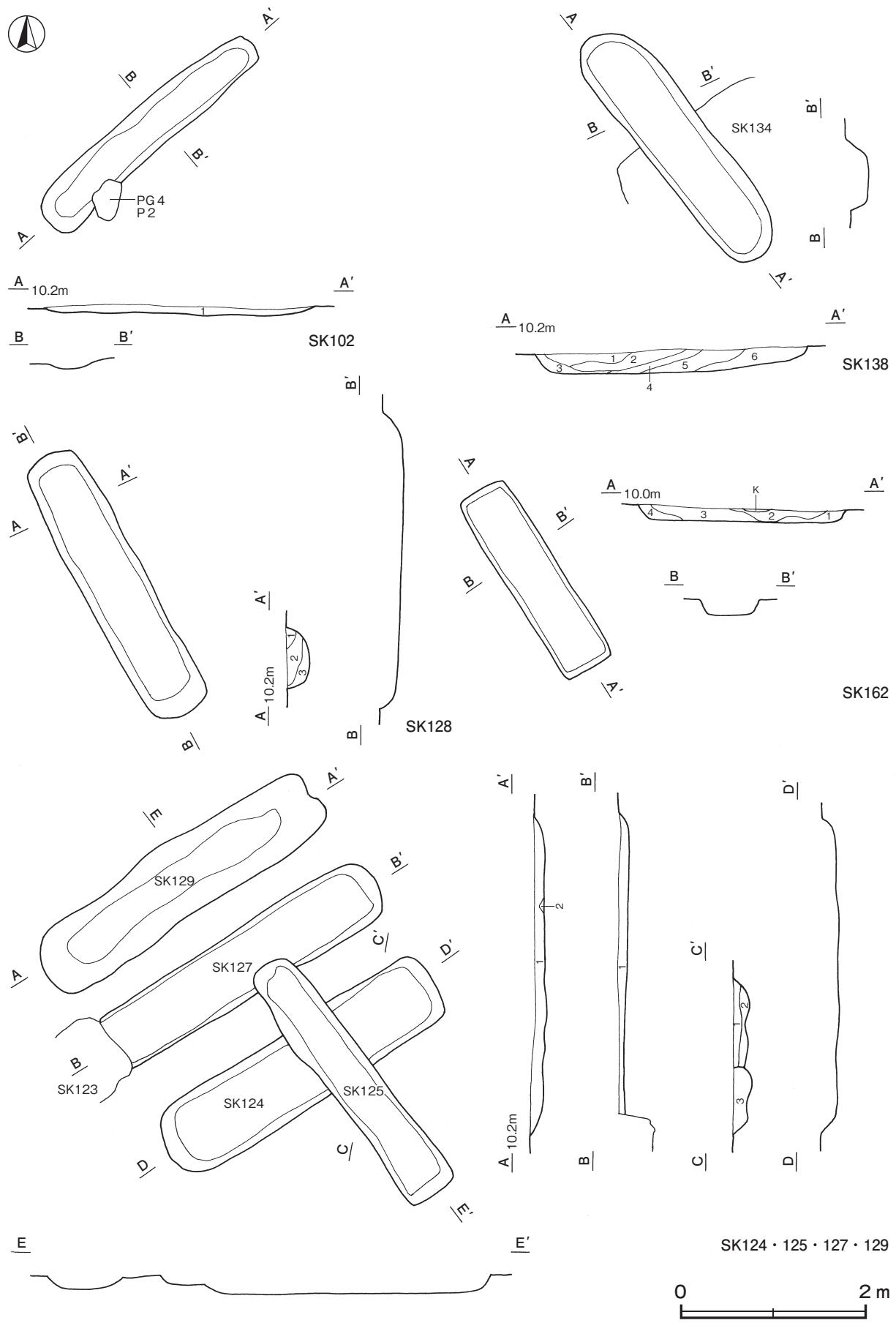
第52図 近世のその他の土坑実測図（2）



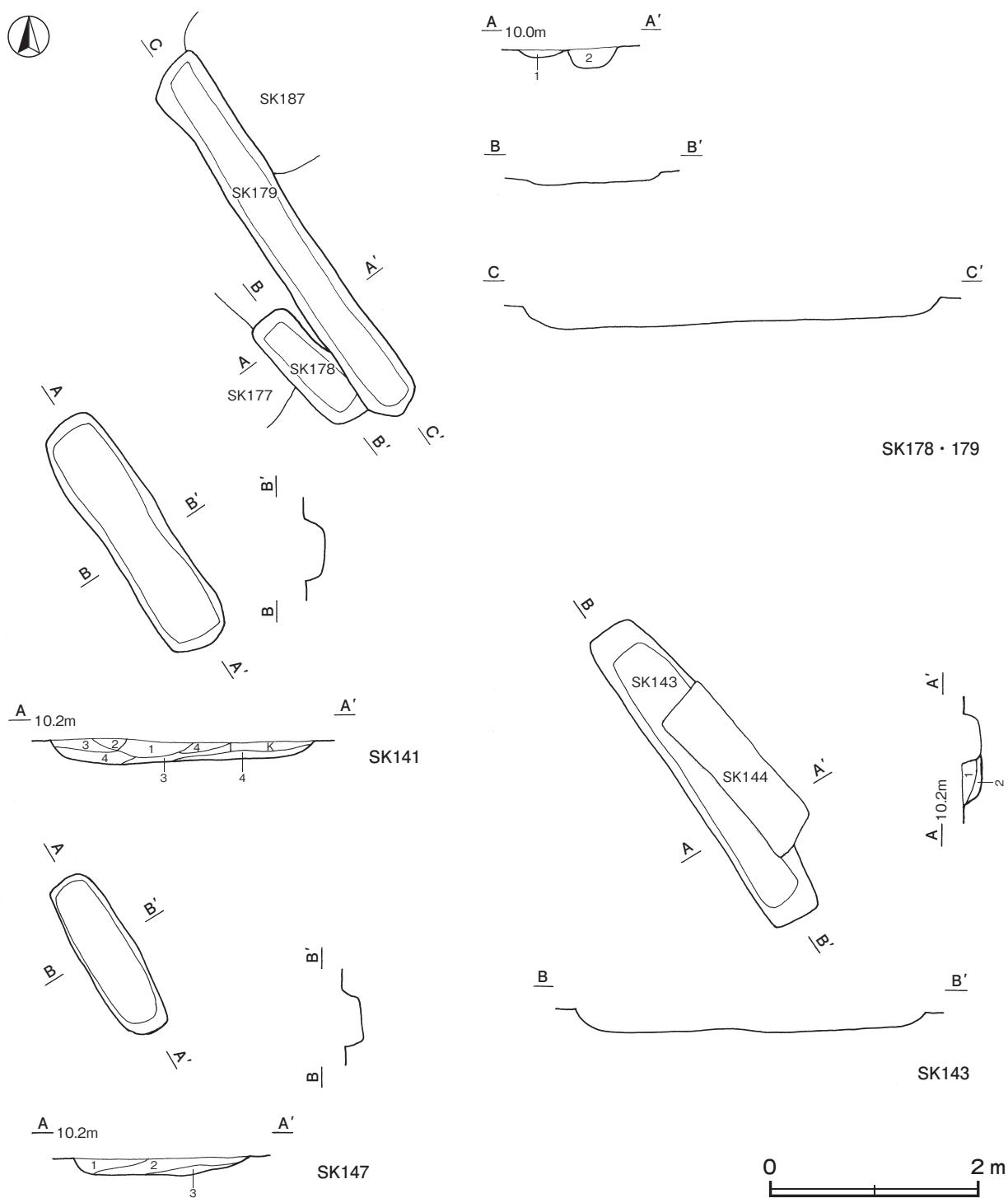
第53図 近世のその他の土坑実測図（3）



第54図 近世のその他の土坑実測図（4）



第55図 近世のその他の土坑実測図（5）



第56図 近世のその他の土坑実測図（6）

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第 19 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 極 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 20 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 27 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 28 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 29 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 32 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 33・34 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 37 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 38 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 40～43 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 46 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 49・50 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 51 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 54 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 58～60 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 62 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 63 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 68 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 75 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子微量

第 77 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

第 81 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 90 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 92・93 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 3 極 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 97 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 3 極 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 98 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量

第 101 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 102 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量

第 124・125 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黑 褐 色 ローム粒子微量

第 127 号土坑土層解説

- 1 極 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 128 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 2 極 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 129 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック中量

第 138 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第 141 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第 143 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量

第 147 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第 162 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量

第 178・179 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

表8 近世土坑一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
1	B4h0	N - 46° - E	長方形	1.64 × 0.58	76	人為	平坦	外傾		本跡→SD22, PG3
6	B4g0	N - 40° - W	[長方形]	(1.26) × 0.60	6	人為	平坦	緩斜		
8	B5j6	N - 40° - W	長方形	2.42 × 0.50	6	人為	平坦	緩斜	土師質土器	
13	B5f3	N - 31° - W	[長方形]	[1.32] × 0.59	4	自然	平坦	緩斜		
17	B5j7	N - 39° - W	長方形	1.94 × 0.46	13	人為	平坦	緩斜		
19	C5a7	N - 42° - W	長方形	1.70 × 0.65	18	人為	平坦	緩斜		SK20 → 本跡
20	C5a8	N - 45° - W	長方形	2.00 × 0.54	10	人為	平坦	緩斜		本跡→SK19
27	B5e4	N - 36° - W	長方形	2.34 × 0.60	10	人為	平坦	外傾		本跡→PG3
28	B5e9	N - 52° - E	[長方形]	(2.24) × 0.88	13	人為	平坦	緩斜		本跡→SD11
29	C5a9	N - 49° - E	隅丸長方形	1.99 × 0.71	9	人為	平坦	外傾		
32	B5i7	N - 36° - W	長方形	1.64 × (0.44)	6	人為	平坦	外傾		SI1 → 本跡→ SD6, PG2
33	B5i9	N - 5° - W	隅丸長方形	1.70 × 0.49	10	人為	平坦	外傾		SK34 → 本跡
34	B5i9	N - 42° - W	長方形	2.73 × 0.58	14	人為	平坦	外傾		本跡→SK33
37	B6f4	N - 32° - W	[隅丸長方形]	(2.01) × 0.58	13	人為	平坦	外傾	陶器	
38	B6f3	N - 40° - W	隅丸長方形	2.72 × 0.74	14	人為	平坦	緩斜		
40	B5j8	N - 38° - W	長方形	2.12 × 0.70	18	人為	平坦	外傾		SK41 → 本跡→ SD6 · 10
41	B5j8	N - 37° - W	[長方形]	2.34 × (0.42)	12	人為	平坦	外傾		本跡→SK40 · 42, SD10 SK43 と重複
42	B5j8	N - 39° - W	長方形	2.18 × 0.50	8	人為	平坦	緩斜	土師質土器	SK41 · 43 → 本跡
43	B5j8	N - 46° - E	[長方形]	(1.60) × 0.64	8	人為	平坦	外傾	鉄滓	本跡→SK42 SK41 と重複
46	B6h2	N - 45° - W	[円形・楕円形]	(1.00) × (0.34)	8	人為	平坦	緩斜		本跡→SD11
49	B6h7	N - 47° - W	長方形	1.94 × 0.70	12	人為	平坦	緩斜	陶器	SK50 → 本跡
50	B6h7	N - 52° - W	長方形	2.63 × 0.56	14	人為	平坦	緩斜	陶器	本跡→SK49
51	B6h8	N - 49° - W	長方形	1.96 × 0.70	9	人為	平坦	緩斜		
54	B6j1	N - 37° - W	[長方形]	[1.78] × 0.54	14	人為	平坦	外傾		
58	B5j9	N - 36° - W	[長方形]	(2.36) × 0.53	12	人為	平坦	外傾		本跡→SK60
59	B5i0	N - 41° - W	隅丸長方形	2.14 × 0.56	12	人為	平坦	外傾		SK60 → 本跡
60	B5i0	N - 0°	隅丸長方形	3.08 × 0.58	14	人為	平坦	外傾 緩斜		SK58 → 本跡→ SK59
62	B4i9	N - 32° - W	方形	2.22 × 2.22	36	人為	平坦	外傾	土師質土器	SK63 → 本跡
63	B4i8	N - 44° - W	[方形・長方形]	2.02 × (0.74)	20	人為	平坦	外傾		本跡→SK62

番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長軸×短軸 (m)	深さ (cm)					
68	B5i2	N - 37° - W	長方形	1.56 × 0.53	10	人為	平坦	外傾 緩斜		第 1 号堀跡→本跡
75	B3d9	N - 33° - W	楕円形	(1.23) × 0.42	26	自然	傾斜	外傾 緩斜		本跡→SK121
77	B3b8	N - 30° - W	長方形	3.04 × 0.64	20	人為	平坦	外傾		
81	B3c7	N - 43° - E	[長方形]	(1.30) × 0.78	19	人為	平坦	外傾 緩斜		
90	B3e9	N - 43° - W	楕円形	1.47 × 0.68	44	人為	平坦	外傾	陶器	
92	B3e9	N - 25° - W	長方形	3.20 × 0.56	22	人為	平坦	緩斜		SK93→本跡
93	B3e9	N - 39° - W	長方形	2.44 × 0.47	56	人為	平坦	外傾 緩斜		本跡→SK92
97	B3d8	N - 20° - W	長方形	3.64 × 0.54	23	人為	平坦	外傾	磁器	
98	B3c9	N - 49° - W	長方形	1.78 × 1.16	48	人為	平坦	外傾		
101	B3e8	N - 53° - E	長方形	3.83 × 0.72	30	人為	平坦	外傾 緩斜	土師質土器, 陶器	
102	B3f8	N - 48° - E	隅丸長方形	2.91 × 0.50	7	人為	平坦	緩斜		本跡→PG4
124	B3b6	N - 55° - E	隅丸長方形	3.38 × 0.82	23	人為	平坦	緩斜		本跡→SK125
125	B3b6	N - 37° - W	隅丸長方形	3.10 × 0.53	21	自然	平坦	緩斜		SK124・127→本跡
127	B3b6	N - 59° - E	[隅丸長方形]	(3.26) × 0.68	12	人為	平坦	緩斜		本跡→SK123・125
128	B3d5	N - 28° - W	長方形	3.18 × 0.67	22	人為	平坦	外傾 緩斜		
129	B3b5	N - 59° - E	隅丸長方形	3.47 × 0.78	15	人為	平坦	緩斜		
130	B3b4	N - 26° - W	長方形	2.56 × 0.76	32	人為	平坦	外傾	陶器	
138	B3c4	N - 37° - W	楕円形	3.00 × 0.73	25	人為	平坦	外傾		SK134→本跡
141	B3e6	N - 32° - W	長方形	2.55 × 0.62	23	人為	平坦	外傾		
143	B3e6	N - 33° - W	長方形	3.35 × 0.68	24	人為	平坦	緩斜		本跡→SK144
144	B3e6	N - 41° - W	長方形	1.68 × 0.46	23	人為	平坦	緩斜	土師質土器, 陶器, 磁器	SK143→本跡
146	B3d5	N - 29° - W	長方形	4.20 × 0.62	24	人為	平坦	外傾	陶器, 磁器	SE11→本跡
147	B3c5	N - 30° - W	隅丸長方形	1.72 × 0.53	18	人為	平坦	外傾		
162	B3e3	N - 33° - W	長方形	2.26 × 1.62	16	人為	平坦	外傾		
178	B3e1	N - 38° - W	長方形	1.33 × (0.46)	7	人為	平坦	緩斜		SK177→本跡→SK179
179	B3e1	N - 35° - W	長方形	4.00 × 0.50	24	人為	平坦	外傾		SK178・187→本跡

(2) 堀跡

第 1 号堀跡 (第 57・81 図)

位置 調査区東部の B 5 d8～B 5 j2 区, 標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第 68 号土坑に掘り込まれている。第 11・12 号溝跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 北東端部及び南西端部が調査区域外へ延びているため, 長さは 38.30 m しか確認できなかった。上幅 3.00 ~ 4.60 m, 下幅 0.45 ~ 0.70 m, 深さ 140 ~ 164 cm で, 北東方向 (N - 51° - E) に直線的に延びている。断面形は有段状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高は南西部が最も高く, 北東部に行くに従って低くなっている。

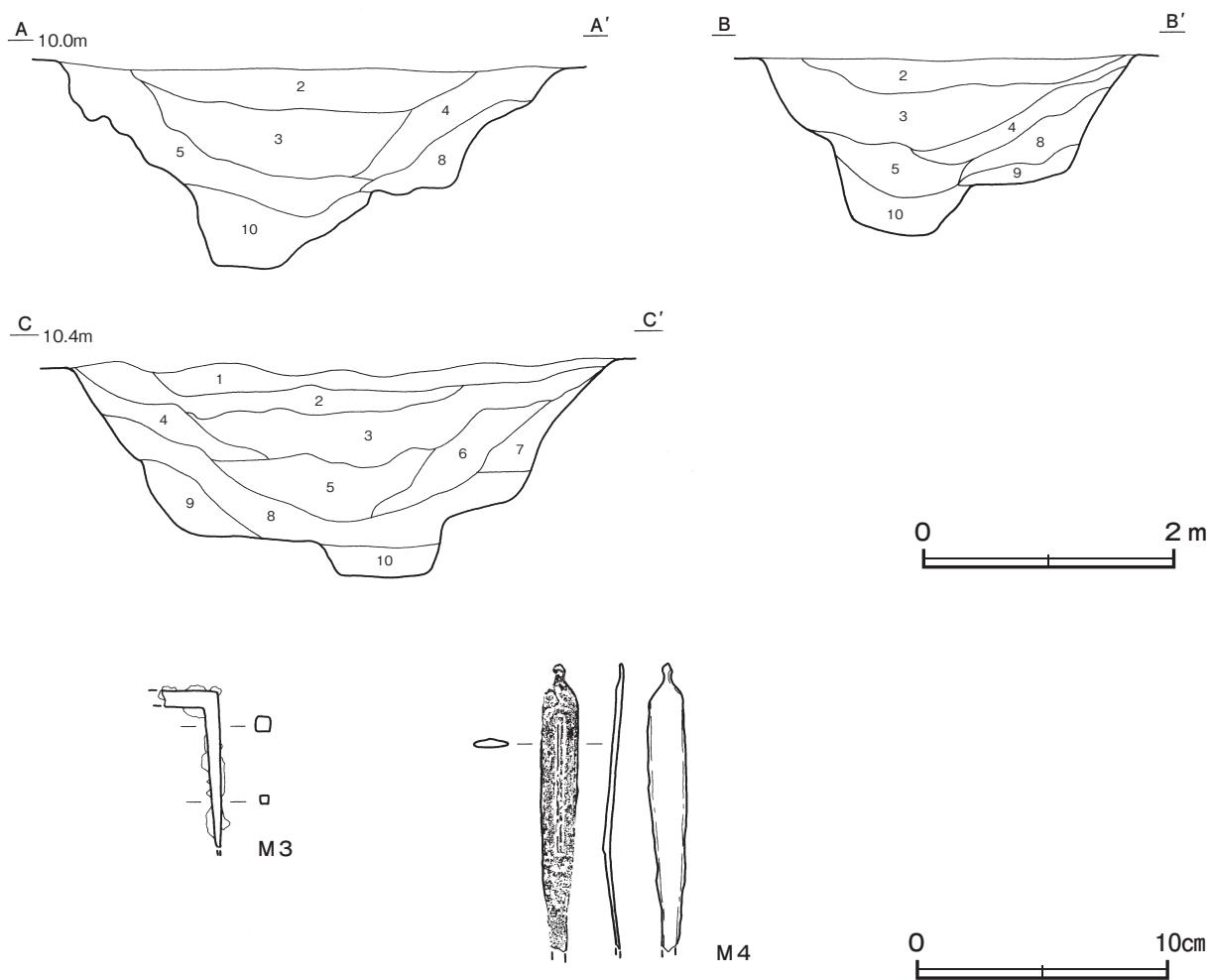
覆土 10 層に分層できる。含有物や堆積状況から, 第 10 層が自然堆積し, その後第 4 ~ 9 層が埋め戻されている。さらにその上に第 1 ~ 3 層が自然堆積している。

土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量	6 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量	7 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量	8 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量	9 にぶい褐色 ロームブロック少量
5 暗 褐 色 ロームブロック微量	10 褐 色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師質土器片 14 点（小皿 1, 鍋 8, 鉢 3, 播鉢 2）, 瓦質土器片 5 点（甕）, 陶器片 32 点（鉢 6, 甕 26）, 磁器片 5 点（碗）, 石器 1 点（砥石）, 鉄製品 1 点（鎌）, 銅製品 1 点（笄）, 鉄滓 7 点（898.0 g）のほか, 繩文土器片 284 点（深鉢）, 土師器片 13 点（高坏 1, 甕 12）, 須恵器片 5 点（甕）, 土製品 3 点（埴輪）, 剥片 3 点（頁岩）, 石器 4 点（石鎌, 打製石斧, 石皿, 凹石）, 瓔 79 点が, 中央部から南西部を中心に散在した状態で出土している。M 4 は北東部の覆土中層から, M 3 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 規模や方向, 底面の標高などから, 当時の利根川（赤堀川）へ流入する排水路であったと推測される。断面形や堆積状況から, 初めは底部が第 10 層下部の細い溝状に掘られ, 第 10 層が堆積した後に第 9 層から上層が幅広く掘り直されたものとみられる。時期は, 出土土器から近世と考えられる。



第 57 図 第 1 号堀跡・出土遺物実測図

第 1 号堀跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	鎌	(6.3)	(0.6)	(0.6)	(11.5)	鉄	欠損 断面方形	覆土中	PL14
M 4	笄	(11.5)	1.5	0.8	(18.2)	銅	笄部欠損 耳搔部から笄部まで曲線状 脚部に縦2条と粒状の飾り文様	覆土中層	PL14

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかでない井戸跡9基について、本文と実測図、一覧表を記載する。その他、時期や性格が明らかでない土坑120基、溝跡20条、ピット群5か所について、実測図と一覧表を掲載する。

(1) 井戸跡

第1号井戸跡（第58図）

位置 調査区東部のB 5 e4 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径 1.02 m の円形で、円筒状に掘り下げている。深さ 0.92 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

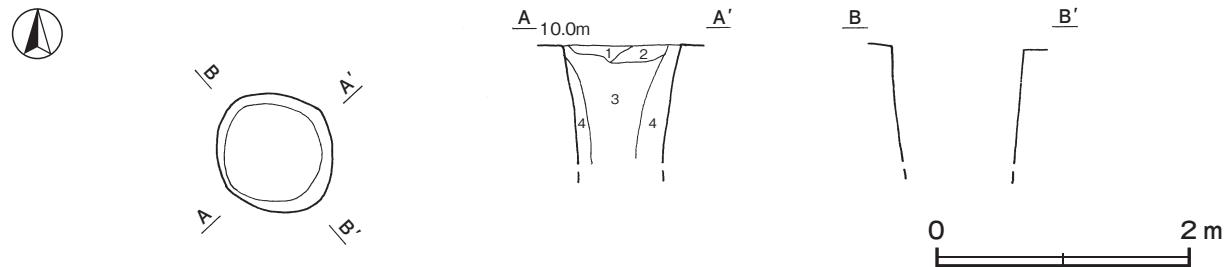
土層解説

1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 繩文土器片8点（深鉢）、陶器片1点（甕）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、伴う土器が出土していないため不明である。



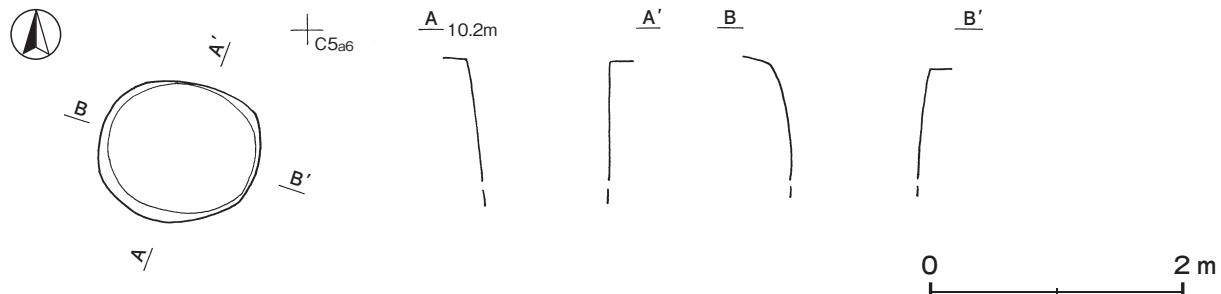
第58図 第1号井戸跡実測図

第2号井戸跡（第59図）

位置 調査区東部のC 5 a5 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.30 m、短径 1.13 m の橢円形で、長径方向は N - 71° - W である。下部まで円筒状に掘り下げている。深さ 0.96 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

所見 素掘りの構造である。時期は、土器が出土していないため不明である。



第59図 第2号井戸跡実測図

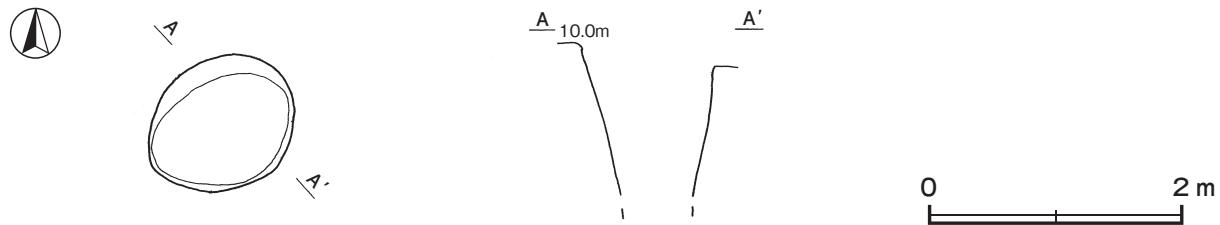
第3号井戸跡（第60図）

位置 調査区東部のB 5 e4 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.24 m、短径 1.05 m の楕円形で、長径方向は N – 51° – E である。下部まで円筒状に掘り下げている。深さ 1.10 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）、礫 3 点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、伴う土器が出土していないため不明である。



第60図 第3号井戸跡実測図

第5号井戸跡（第61図）

位置 調査区西部のB 3 c6 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径 1.00 m の円形で、円筒状に掘り下げている。深さ 0.68 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

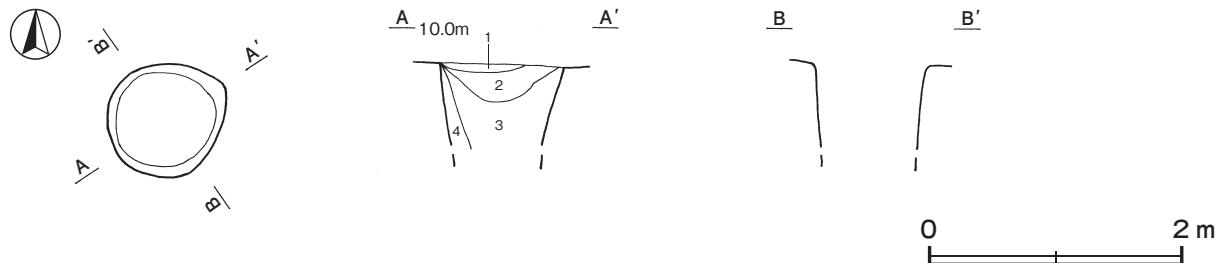
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量	3 極暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量	4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（小皿）、礫 1 点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、伴う土器が出土していないため不明である。



第61図 第5号井戸跡実測図

第8号井戸跡（第62図）

位置 調査区西部のB 3 d3 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

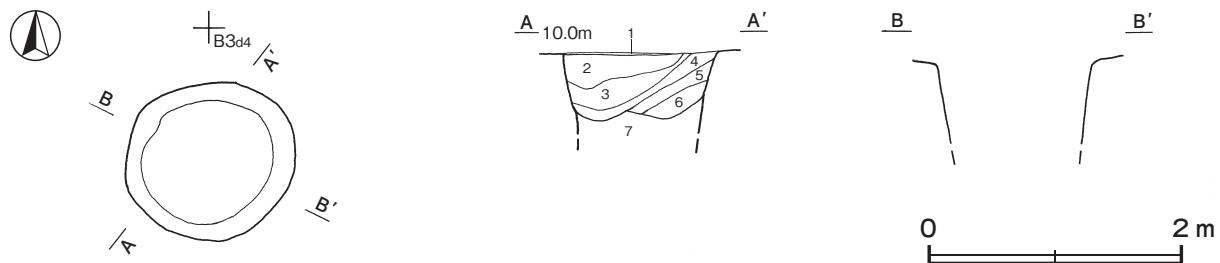
規模と形状 確認面は径 1.37 m の円形で、円筒状に掘り下げている。深さ 0.66 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック少量	5 にぶい褐色 ロームブロック中量
2 橙色 ロームブロック多量	6 暗褐色 ロームブロック少量
3 にぶい橙色 ロームブロック多量	7 褐色 ロームブロック中量
4 黒褐色 ロームブロック微量	

所見 素掘りの構造である。時期は、土器が出土していないため不明である。



第62図 第8号井戸跡実測図

第9号井戸跡（第63図）

位置 調査区西部のB3d4区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径1.40mの円形で、円筒状に掘り下げている。深さ0.70mまで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

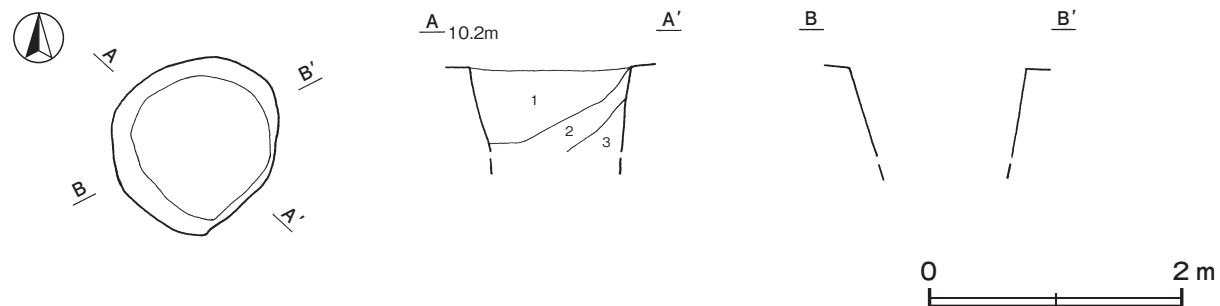
覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量	3 暗褐色 ローム粒子中量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量	

遺物出土状況 繩文土器片1点（深鉢）が出土している。細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、伴う土器が出土していないため不明である。



第63図 第9号井戸跡実測図

第10号井戸跡（第64図）

位置 調査区西部のB3e3区、標高10mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第89号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は径 1.44 m の円形である。確認面から深さ 0.61 m で径 1.03 m まで窄まり、その時点で湧水が確認されたため、下部の調査を断念した。

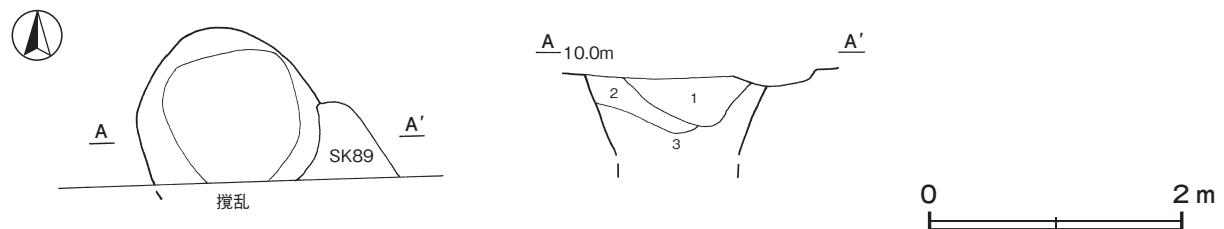
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量	3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
2 黒 色 ロームブロック・粘土ブロック微量	

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）、礫 1 点、鉄滓 2 点（54.0 g）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、伴う土器が出土していないため不明である。



第 64 図 第 10 号井戸跡実測図

第 14 号井戸跡（第 65 図）

位置 調査区西部の B 3 c3 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第 164 号土坑を掘り込んでいる。

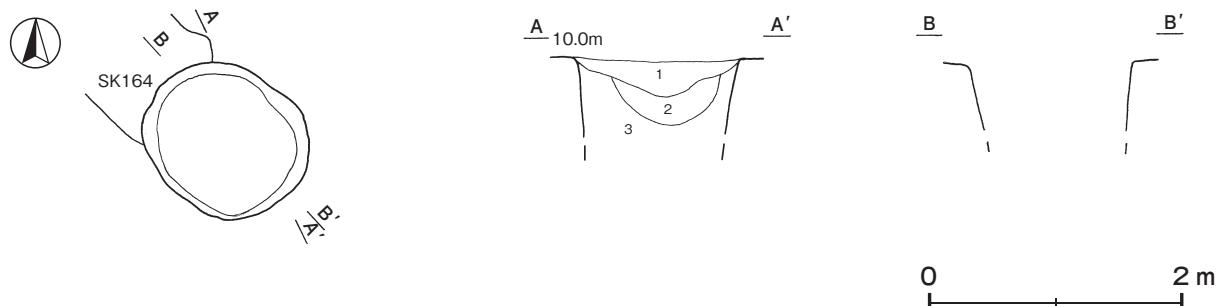
規模と形状 確認面は長径 1.32 m、短径 1.14 m の橢円形で、長径方向は N - 43° - W である。下部まで円筒状に掘り下げている。深さ 0.55 m まで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量	3 極暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量	

所見 素掘りの構造である。時期は、土器が出土していないため不明である。



第 65 図 第 14 号井戸跡実測図

第 16 号井戸跡（第 66 図）

位置 調査区西部の B 3 a3 区、標高 10 m ほどの低台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径 0.89 m の円形で、円筒状に掘り下げている。深さ 0.54 m まで掘り下げた時点での湧水のため、下部の調査を断念した。

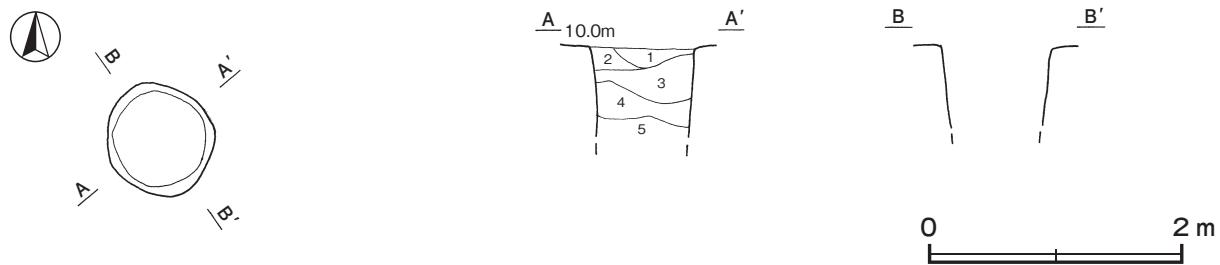
覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐 色 ロームブロック少量	4 暗褐 色 ロームブロック中量
2 暗褐 色 ローム粒子中量	5 黒褐 色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック中量	

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）、土師質土器片 1 点（小皿）、礫 1 点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、伴う土器が出土していないため不明である。



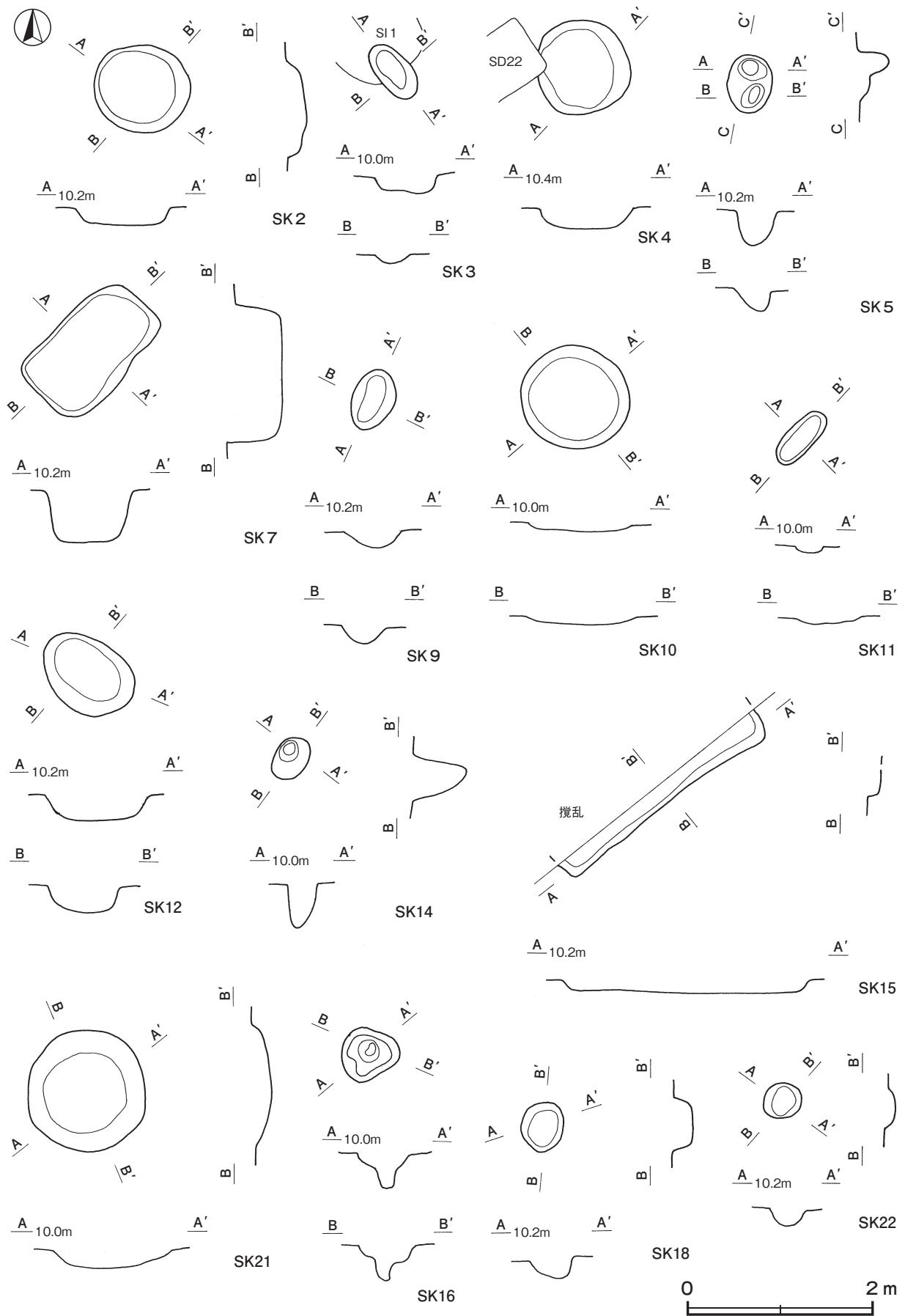
第 66 図 第 16 号井戸跡実測図

表 9 その他の井戸跡一覧表

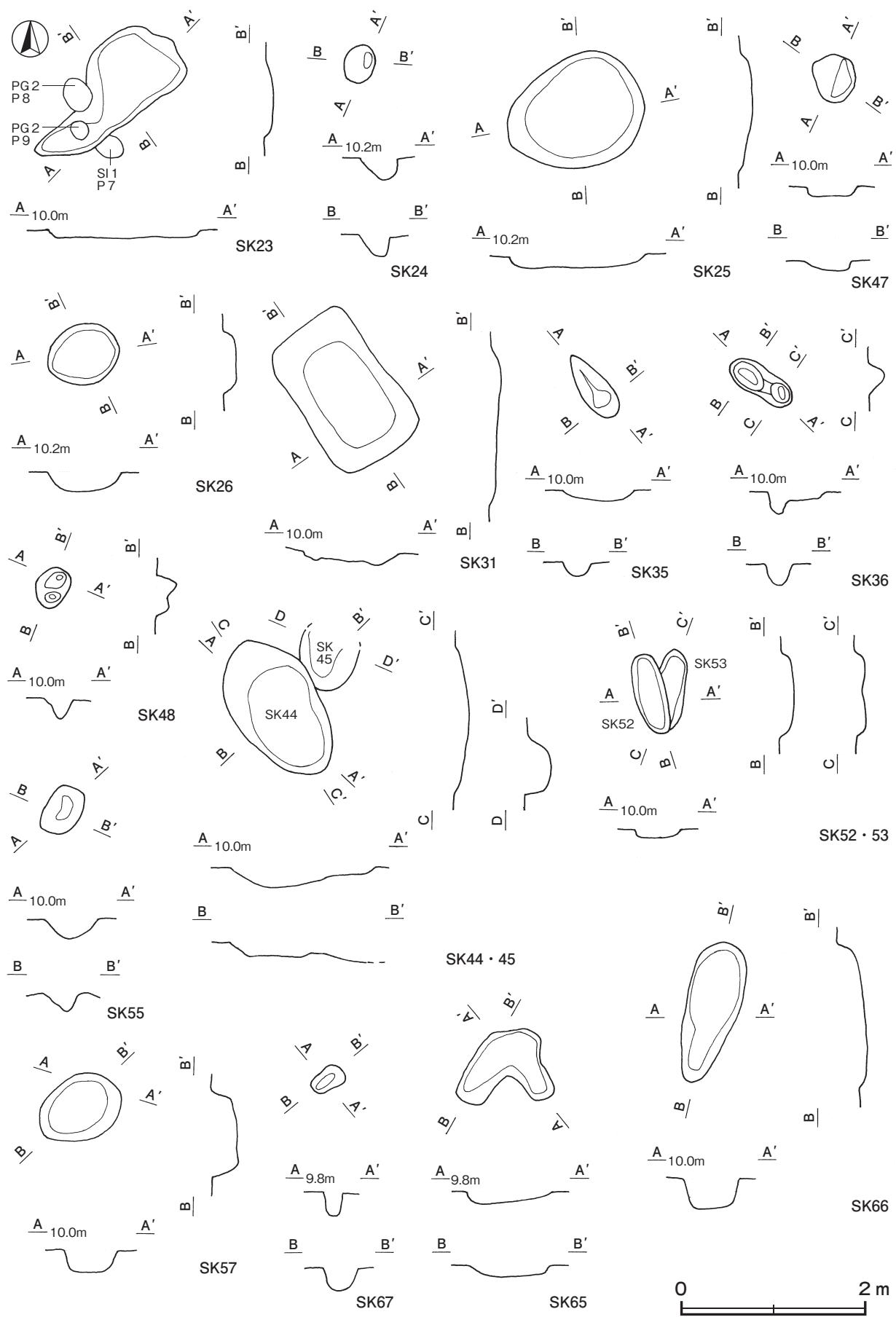
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		断面形	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
1	B5e4	-	円形	1.02 × 0.94	(92)	円筒状	-	人為	縄文土器、陶器	
2	C5a5	N - 71° - W	楕円形	1.30 × 1.13	(96)	円筒状	-	人為		
3	B5e4	N - 51° - E	楕円形	1.24 × 1.05	(110)	円筒状	-	人為	縄文土器	
5	B3c6	-	円形	1.00 × 0.90	(68)	円筒状	-	人為	土師質土器	
8	B3d3	-	円形	1.37 × 1.25	(66)	円筒状	-	人為		
9	B3d4	-	円形	1.40 × 1.32	(70)	円筒状	-	人為	縄文土器	
10	B3e3	-	円形	1.44 × 1.44	(61)	(漏斗状)	-	人為	鉄滓	本跡 → SK89
14	B3c3	N - 43° - W	楕円形	1.32 × 1.14	(55)	円筒状	-	人為		SK164 → 本跡
16	B3a3	-	円形	0.89 × 0.84	(54)	円筒状	-	人為	縄文土器、土師質土器	

(2) 土坑（第 67 ~ 75 図）

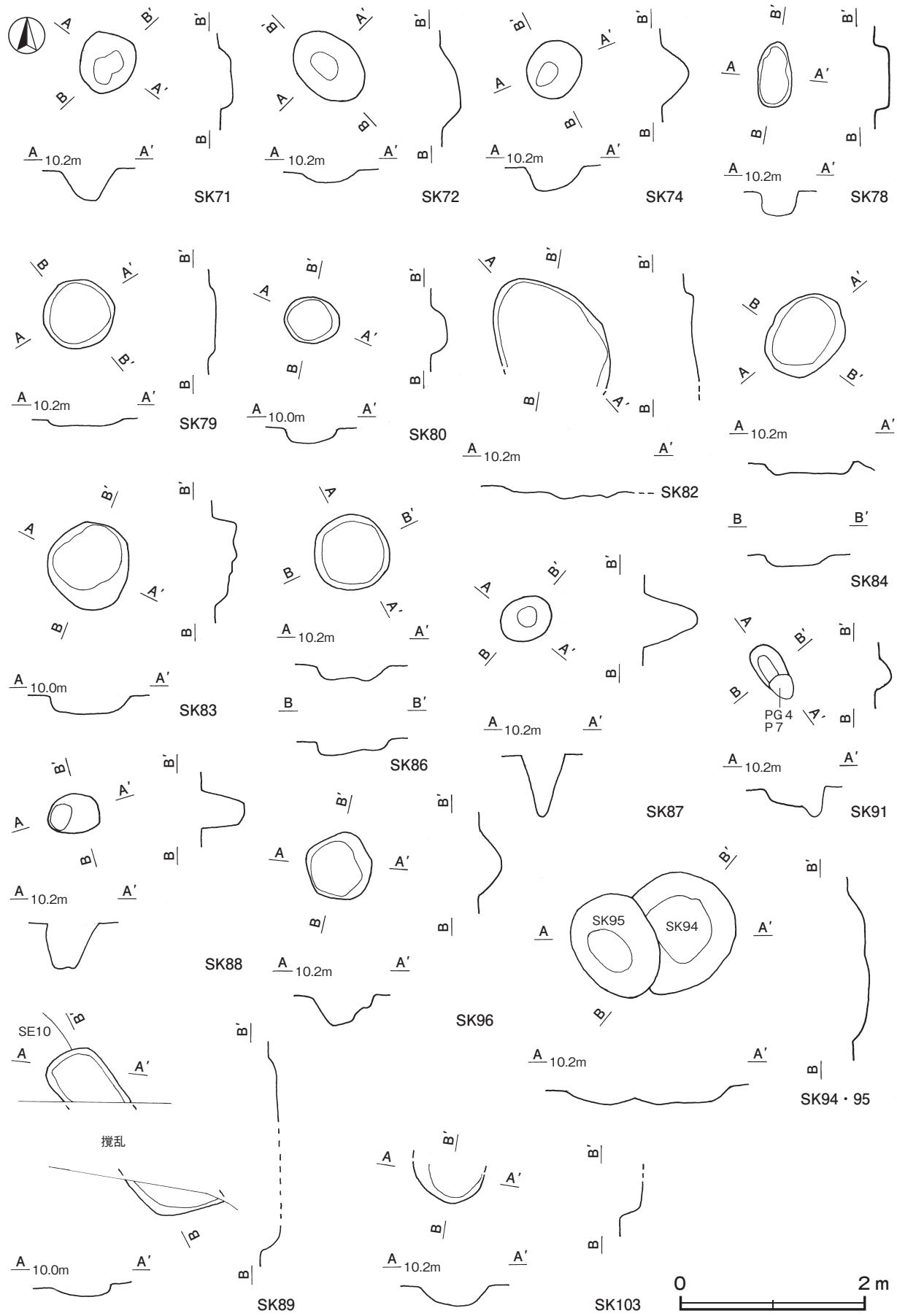
今回の調査で、性格や時期ともに不明な土坑 120 基が確認されている。これらの土坑については、規模と形状等について実測図と土層解説、一覧表を掲載する。



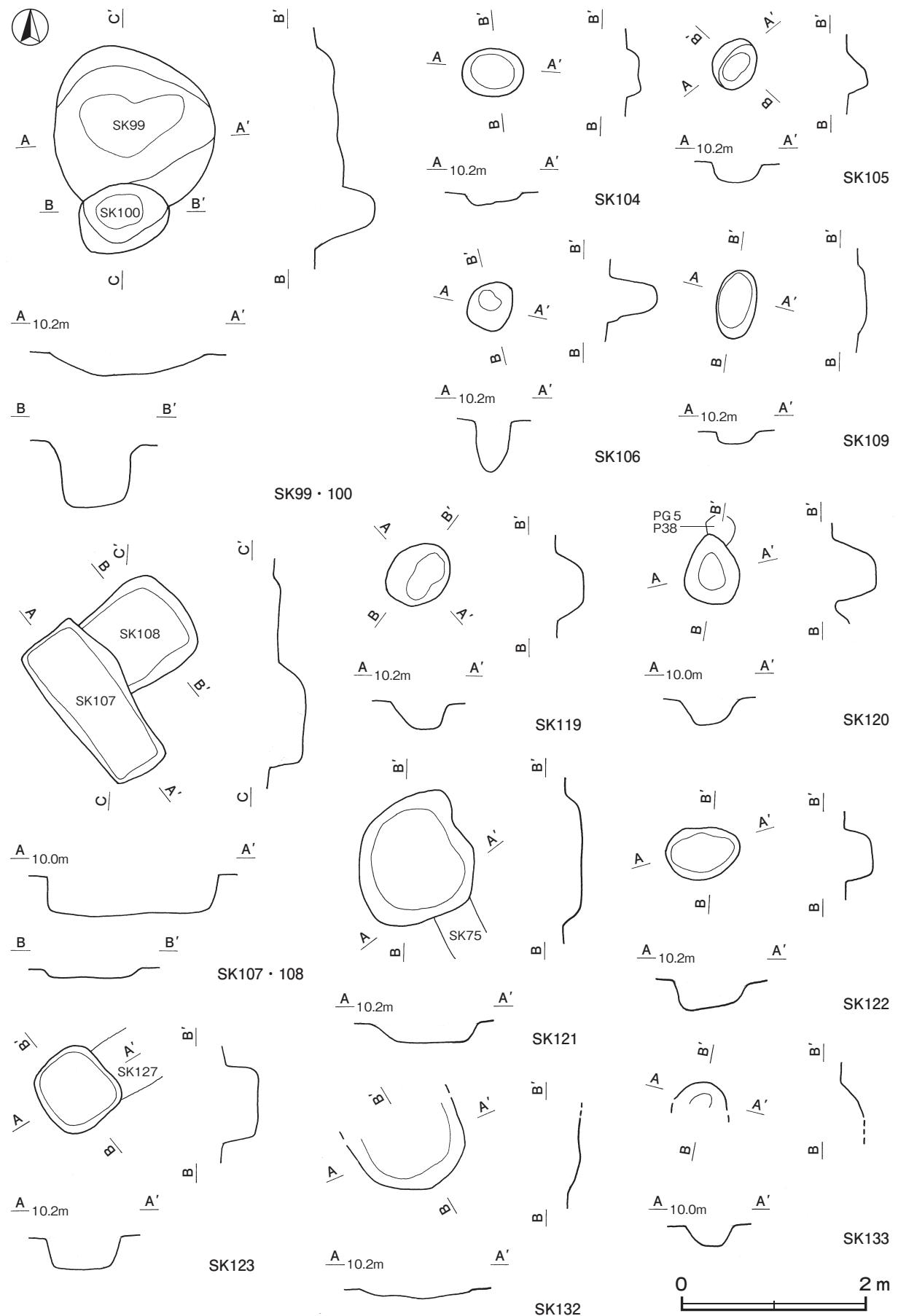
第67図 その他の土坑実測図（1）



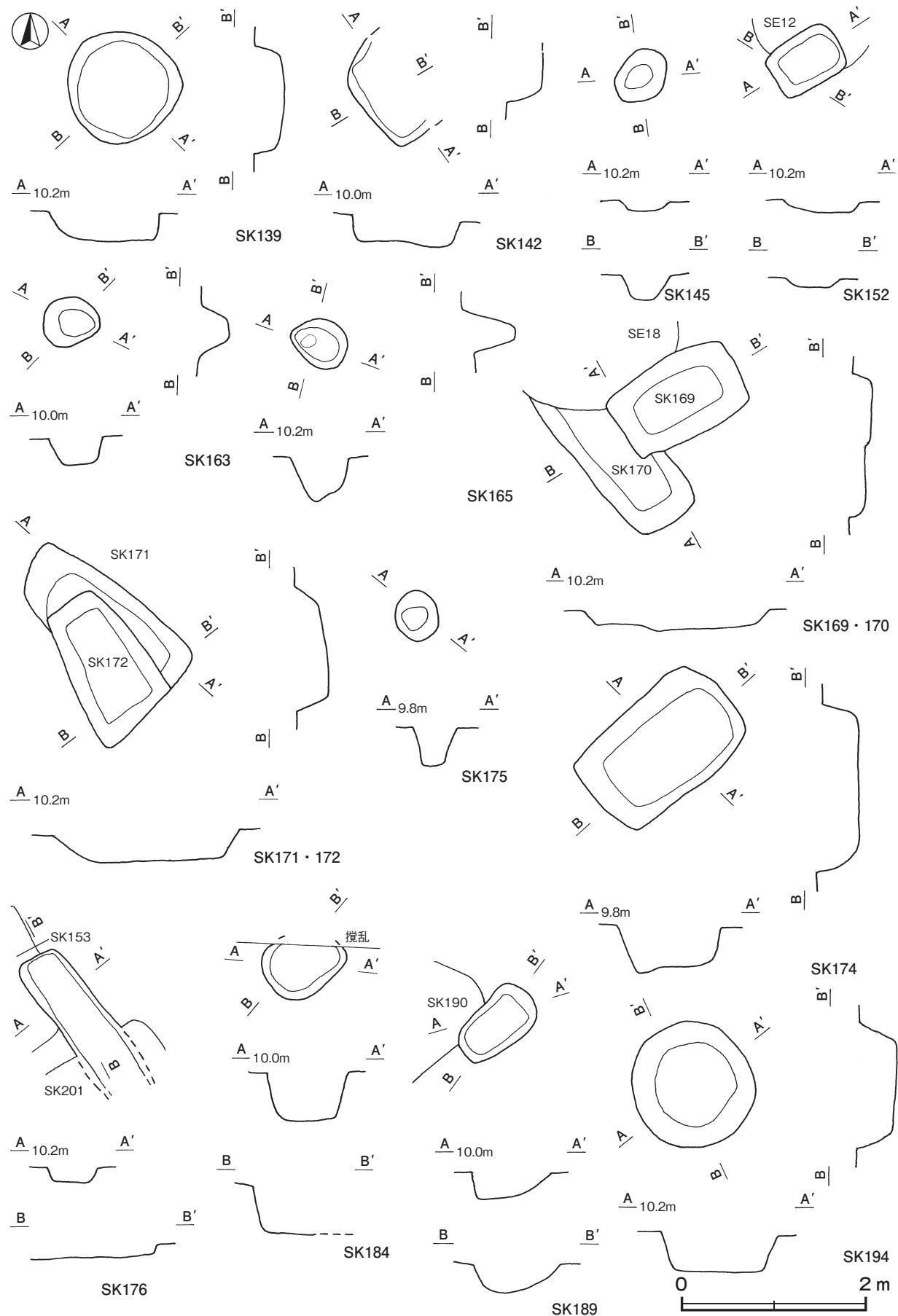
第68図 その他の土坑実測図（2）



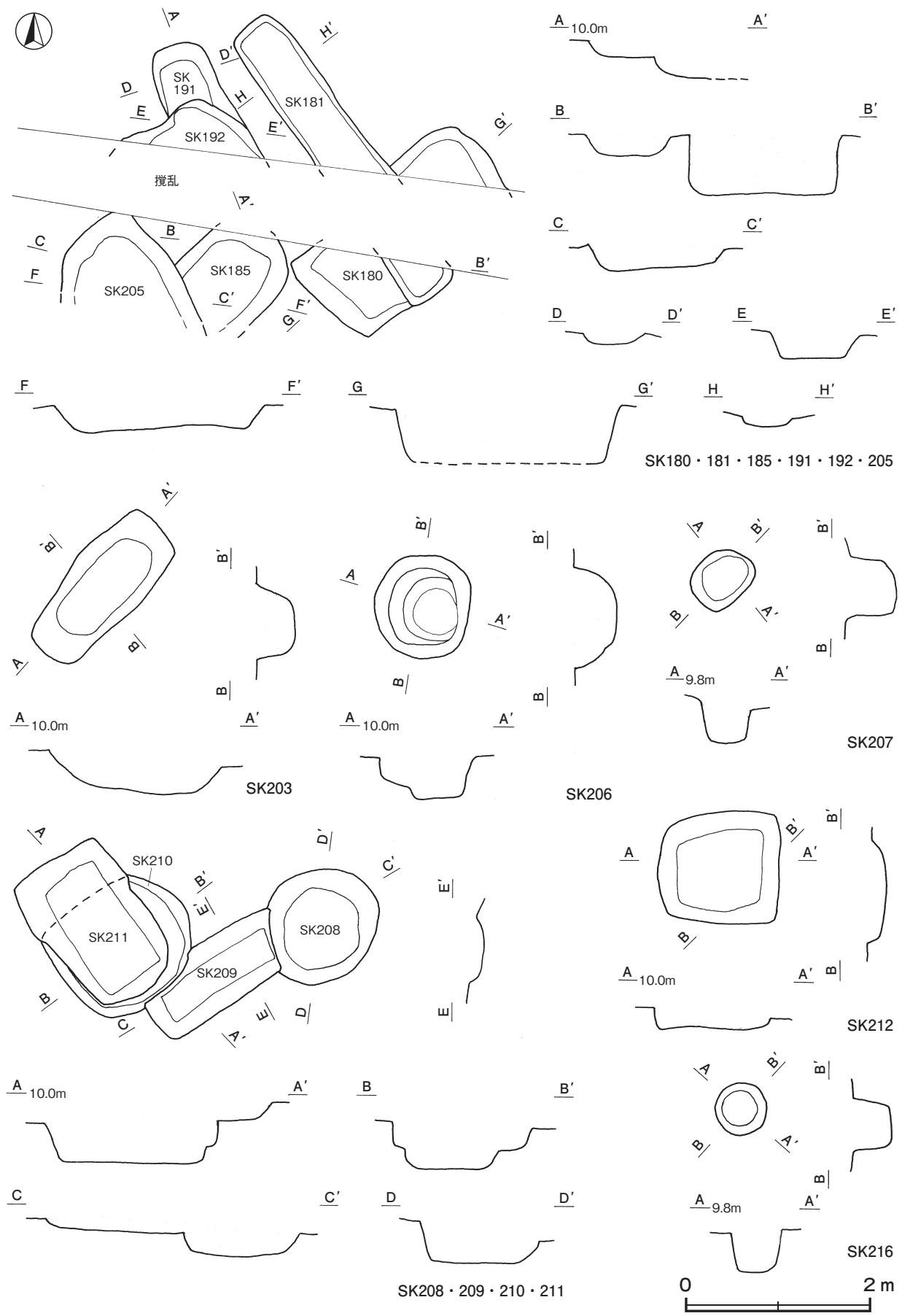
第69図 その他の土坑実測図（3）



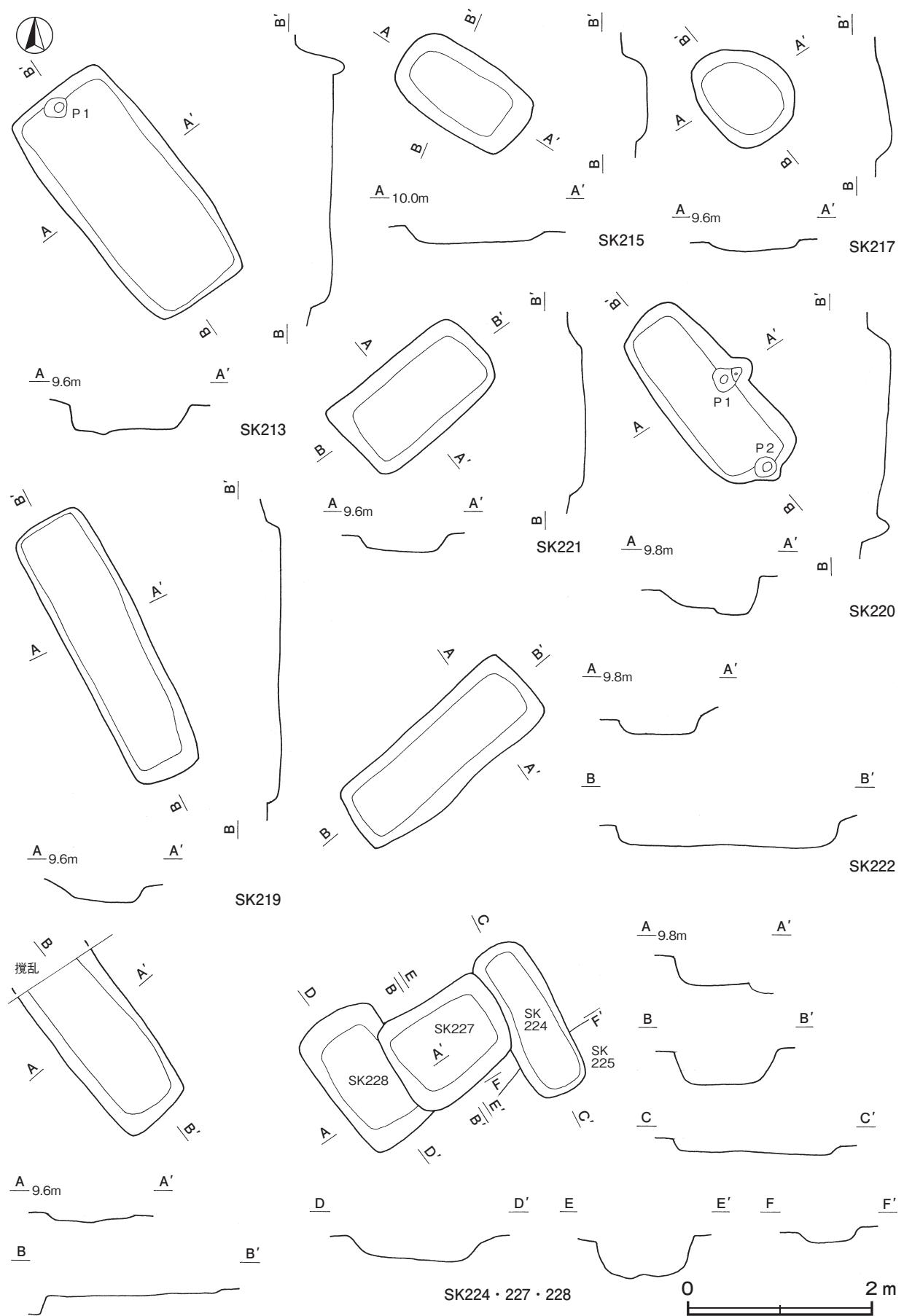
第70図 その他の土坑実測図（4）



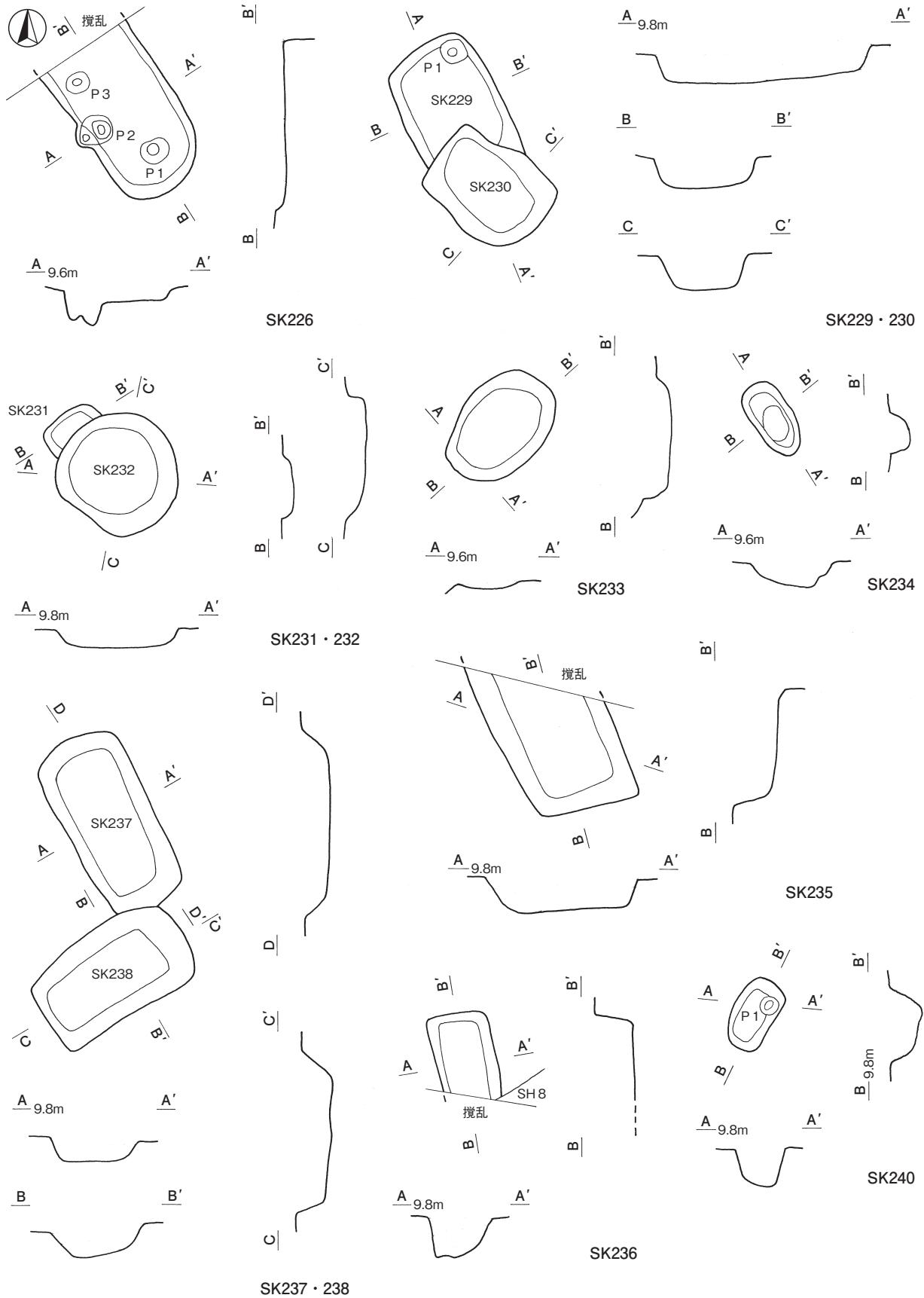
第71図 その他の土坑実測図（5）



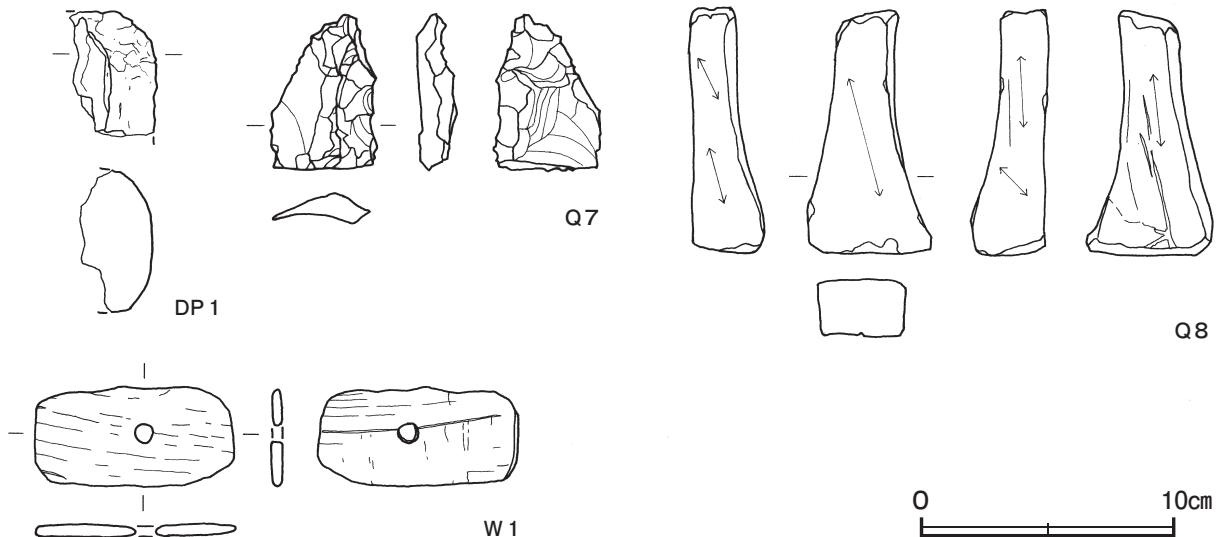
第72図 その他の土坑実測図（6）



第73図 その他の土坑実測図（7）



第74図 その他の土坑実測図（8）



第75図 その他の土坑出土遺物実測図

第7号土坑出土遺物観察表（第75図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	剥片	6.2	4.2	1.4	30.0	チャート	打面は複剥離面 多方向からの剥離痕	覆土中	PL13

第207号土坑出土遺物観察表（第75図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W 1	部材カ	3.9	8.0	0.6	5.65	-	孔有り 孔径 0.8cm	覆土中	PL14

第210号土坑出土遺物観察表（第75図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 1	羽口	(5.0)	(3.5)	(5.7)	(75.0)	粘土・スサ	先端部片 口径約 2.0cm 先端部青灰色で火熱によって溶解されており溶着材が付着	覆土中	

第238号土坑出土遺物観察表（第75図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	9.7	5.0	2.9	122.7	凝灰岩	砥面4面 他は破断面	覆土中	PL14

表10 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
2	B4h0	-	円形	1.04 × 0.97	20	人為	平坦	外傾	縄文土器	
3	B5i7	N - 38° - W	楕円形	0.68 × 0.37	10	人為	皿状	緩斜		SI1 → 本跡
4	B4h0	-	円形	1.02 × 1.00	25	人為	平坦	外傾	縄文土器	本跡 → SD22
5	B5h1	N - 3° - E	楕円形	0.63 × 0.47	38	人為	皿状	外傾	縄文土器	
7	B5h1	N - 46° - E	隅丸長方形	1.50 × 0.90	58	人為	平坦	直立	縄文土器, 剥片	
9	B5g1	N - 24° - E	楕円形	0.68 × 0.46	21	自然	皿状	外傾	縄文土器	

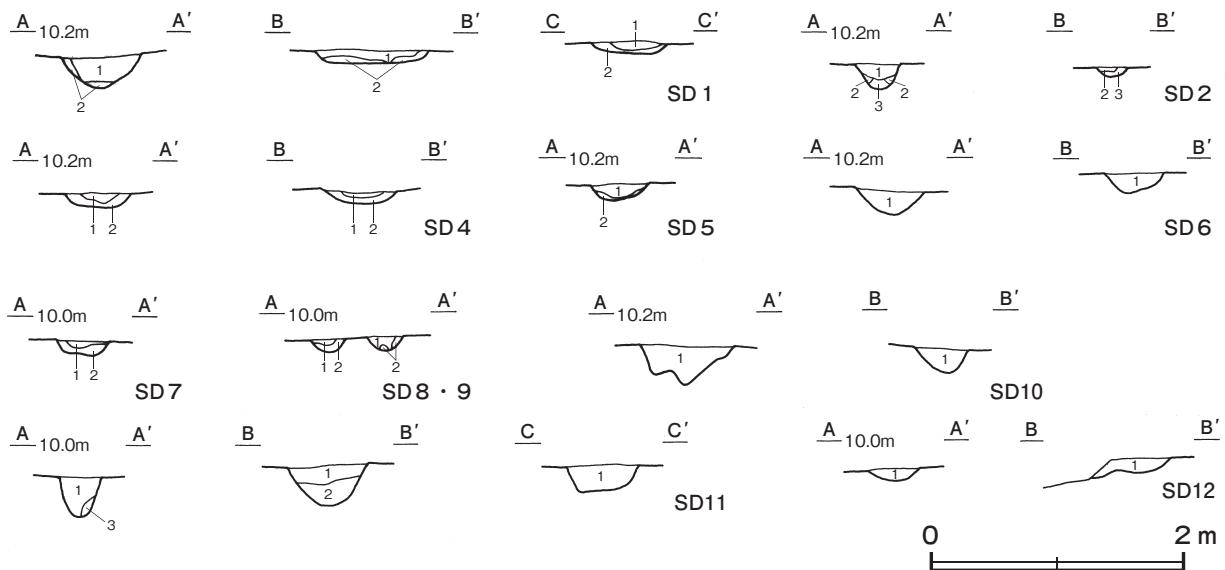
番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長軸×短軸 (m)	深さ (cm)					
10	B5h5	-	円形	1.18 × 1.10	9	人為	平坦	緩斜		
11	B5f5	N - 42° - E	楕円形	0.69 × 0.30	7	人為	平坦	緩斜		
12	B5f3	N - 50° - W	楕円形	1.07 × 0.78	30	人為	平坦	外傾		
14	B5f5	N - 36° - E	楕円形	0.51 × 0.35	59	人為	U字状	外傾		
15	B5d3	N - 51° - E	[長方形]	2.68 × (0.30)	14	人為	平坦	外傾		
16	B5d6	-	不定形	0.62 × 0.59	39	人為	段状	直立	縄文土器	
18	C5a7	N - 5 ° - E	楕円形	0.55 × 0.45	22	人為	平坦	外傾		
21	B5h5	-	円形	1.33 × 1.26	20	人為	皿状	緩斜	縄文土器	
22	B5i4	N - 40° - E	楕円形	0.43 × 0.36	20	人為	皿状	外傾		
23	B5i7	N - 48° - E	不定形	1.90 × 0.88	10	人為	平坦	緩斜	縄文土器	SI1 → 本跡 → PG2
24	B5j5	N - 20° - E	楕円形	0.40 × 0.34	24	人為	U字状	外傾		
25	B5j3	N - 80° - W	楕円形	1.50 × 1.25	16	人為	皿状	緩斜	縄文土器	
26	B5i8	N - 81° - E	楕円形	0.80 × 0.69	16	自然	平坦	緩斜		
31	B5e0	N - 32° - W	長方形	1.69 × 1.00	12	自然	平坦	緩斜		
35	B5h0	N - 41° - W	楕円形	0.80 × 0.30	14	自然	平坦	緩斜		
36	B5g0	N - 65° - W	楕円形	0.78 × 0.34	25	人為	U字状	緩斜	縄文土器	
44	B5f9	N - 32° - W	楕円形	1.60 × 0.99	20	人為	平坦	緩斜	縄文土器	SK45 → 本跡
45	B5f9	N - 10° - E	[楕円形]	(0.68) × 0.60	30	人為	平坦	外傾		本跡 → SK44
47	B6g5	-	円形	0.54 × 0.52	10	人為	平坦	緩斜		
48	B6g6	N - 20° - E	楕円形	0.48 × 0.40	22	人為	U字状	緩斜		
52	B6h9	N - 20° - W	楕円形	0.92 × 0.46	13	人為	平坦	緩斜	縄文土器	SK53 → 本跡
53	B6h9	N - 20° - E	[楕円形]	(0.50) × 0.22	10	人為	平坦	緩斜		本跡 → SK52
55	C5a0	N - 30° - E	長方形	0.58 × 0.40	20	人為	U字状	緩斜		
57	B5f0	N - 30° - E	楕円形	0.90 × 0.72	30	人為	平坦	外傾		
65	B5j6	N - 48° - E	不定形	1.08 × 0.92	14	人為	皿状	緩斜		
66	B5j7	N - 13° - E	楕円形	1.60 × 0.62	20	人為	平坦	外傾	縄文土器	SI1 → 本跡
67	B5i6	N - 50° - E	長方形	0.60 × 0.22	28	自然	皿状	外傾		
71	B4f1	N - 49° - E	楕円形	0.70 × 0.60	36	自然	U字状	緩斜		
72	B3e0	N - 42° - W	楕円形	0.84 × 0.60	22	人為	皿状	緩斜		
74	B3e0	-	円形	0.62 × 0.62	30	人為	皿状	緩斜		
78	B3a8	N - 9 ° - E	楕円形	0.72 × 0.28	27	人為	平坦	直立		
79	B3b9	-	円形	0.76 × 0.74	8	人為	平坦	外傾	縄文土器	
80	B3a7	N - 66° - W	楕円形	0.60 × 0.51	17	自然	皿状	外傾		
82	B3c7	N - 38° - W	[楕円形]	(1.44) × 1.11	14	自然	平坦	緩斜		
83	B3a7	-	円形	0.93 × 0.90	23	人為	凹凸	外傾		
84	B3b7	N - 48° - E	楕円形	1.00 × 0.76	14	人為	平坦	外傾		
86	B3c7	-	円形	0.83 × 0.80	16	人為	平坦	外傾		
87	B3a6	N - 40° - E	楕円形	0.57 × 0.47	60	人為	U字状	外傾		
88	B3a6	N - 75° - E	楕円形	0.56 × 0.43	46	自然	U字状	直立		
89	B3e4	N - 36° - W	隅丸長方形	2.16 × (0.60)	21	人為	平坦	外傾 緩斜		SE10 → 本跡
91	B3d9	N - 38° - W	[楕円形]	(0.40) × 0.32	16	自然	平坦	外傾		本跡 → PG4
94	B3b7	N - 41° - E	[楕円形]	(1.30) × 1.20	17	人為	平坦	緩斜	縄文土器	本跡 → SK95
95	B3d7	N - 25° - W	楕円形	1.16 × 0.87	20	人為	平坦	緩斜		SK94 → 本跡
96	B3b5	-	円形	0.72 × 0.71	31	自然	皿状	外傾		
99	B3b6	N - 38° - W	楕円形	1.98 × 1.83	41	人為	平坦	緩斜	縄文土器	本跡 → SK100
100	B3b6	N - 72° - E	楕円形	0.96 × 0.75	70	人為	皿状	外傾	縄文土器	SK99 → 本跡

番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長軸×短軸 (m)	深さ (cm)					
103	B3c7	N - 80° - W	[楕円形]	0.78 × (0.37)	26	人為	平坦	外傾	土師器	
104	B3b6	N - 84° - W	楕円形	0.66 × 0.52	16	人為	平坦	外傾		
105	B3c6	N - 40° - E	楕円形	0.55 × 0.45	24	自然	平坦	外傾 緩斜		
106	B3b6	N - 40° - W	楕円形	0.56 × 0.46	54	不明	平坦	直立		
107	B3a5	N - 38° - W	長方形	1.82 × 1.32	43	人為	平坦	直立 外傾	縄文土器、陶器	SK108 → 本跡
108	B3a5	-	[方形]	1.03 × 0.94	12	人為	平坦	外傾	縄文土器、土師質土器	本跡 → SK107
109	B3c6	N - 8° - E	楕円形	0.78 × 0.43	14	人為	平坦	直立		
119	B3b7	N - 38° - E	楕円形	0.72 × 0.62	30	人為	平坦	外傾		
120	B3c4	N - 8° - W	不整楕円形	0.75 × 0.62	45	人為	平坦	外傾		PG5 → 本跡
121	B3d9	N - 24° - E	不整楕円形	1.58 × 1.30	19	人為	平坦	外傾		SK75 → 本跡
122	B3d5	N - 72° - E	楕円形	0.82 × 0.50	38	人為	平坦	直立	縄文土器	
123	B3b5	N - 38° - W	方形	0.88 × 0.82	37	人為	平坦	直立	縄文土器、陶器	SK127 → 本跡
132	B3b4	N - 67° - E	[楕円形]	1.24 × (0.78)	12	自然	平坦	緩斜		
133	B3b3	N - 85° - W	[楕円形]	0.60 × (0.27)	(22)	自然	平坦	外傾 緩斜		
139	B3d5	-	円形	1.23 × 1.19	31	自然	平坦	外傾		
142	B3a4	N - 34° - W	[長方形]	1.16 × (0.48)	38	人為	平坦	外傾	縄文土器	
145	B3e3	N - 47° - E	楕円形	0.66 × 0.50	27	人為	平坦	外傾	縄文土器	
152	B3e2	N - 59° - E	長方形	0.81 × 0.60	9	自然	平坦	緩斜		SE12 → 本跡
163	B3c1	N - 79° - E	楕円形	0.62 × 0.50	31	人為	平坦	外傾		
165	B3e2	N - 72° - W	楕円形	0.64 × 0.51	43	人為	U字状	外傾		
169	B3d3	N - 58° - E	長方形	1.42 × 0.90	23	人為	平坦	外傾		SE18、SK170 → 本跡
170	B3d2	N - 38° - W	[長方形]	(2.22) × 0.81	16	人為	平坦	外傾	縄文土器、瓦質土器	本跡 → SE18、SK169
171	B3c2	N - 52° - W	不整長方形	2.02 × 0.76	34	人為	平坦	外傾	縄文土器	本跡 → SK172
172	B3c2	N - 32° - W	不整長方形	1.50 × 0.91	36	不明	平坦	外傾		SK171 → 本跡
174	B2d7	N - 49° - E	長方形	1.81 × 1.12	50	人為	U字状	外傾	石器	
175	B2d7	N - 2° - W	楕円形	0.56 × 0.45	42	不明	平坦	直立 外傾		
176	B3c2	N - 36° - W	[長方形]	(1.75) × 0.54	15	人為	平坦	外傾		SK153・201 → 本跡
180	B3f1	N - 51° - E	[長方形]	2.42 × 1.16	63	人為	平坦	外傾	縄文土器	本跡 → SK181
181	B3e1	N - 37° - W	[長方形]	3.54 × 0.60	11	人為	平坦	緩斜	縄文土器、陶器	SK180 → 本跡
184	B3f2	N - 70° - E	[楕円形]	0.90 × 0.69	51	人為	平坦	外傾		
185	B3f1	N - 42° - E	[長方形]	(1.16) × 1.05	27	人為	平坦	緩斜		本跡 → SK205
189	B3d2	N - 41° - E	長方形	0.96 × 0.54	31	人為	皿状	緩斜	縄文土器	SK190 → 本跡
191	B2e0	N - 22° - W	[長方形]	(0.78) × 0.65	13	人為	平坦	緩斜		本跡 → SK192
192	B3f1	N - 50° - W	[長方形]	(0.88) × (0.86)	28	人為	平坦	外傾 緩斜		SK191 → 本跡
194	B2e0	-	円形	1.37 × 1.34	43	人為	平坦	外傾	縄文土器	
203	B2d0	N - 42° - E	隅丸長方形	1.84 × 0.86	34	人為	平坦	緩斜		
205	B2f0	N - 28° - W	[長方形]	(1.50) × (1.08)	30	人為	平坦	緩斜		SK185 → 本跡
206	B2e9	-	円形	1.13 × 1.03	(45)	人為	平坦	外傾	陶器	
207	B3c1	N - 42° - E	楕円形	0.66 × 0.48	53	人為	平坦	直立	木製品	
208	B2e0	-	円形	1.28 × 1.20	43	人為	平坦	外傾 緩斜	縄文土器	本跡 → SK209
209	B2e9	N - 59° - E	[長方形]	1.52 × 0.73	16	人為	平坦	緩斜		SK208・210 → 本跡
210	B2e9	-	不定形	1.50 × (1.12)	27	人為	平坦	外傾	陶器、土製品	SK211 → 本跡 → SK209
211	B2e9	N - 33° - W	長方形	1.86 × 1.16	(50)	人為	起伏	外傾		本跡 → SK210
212	B2e9	N - 84° - E	方形	1.31 × 1.24	20	人為	平坦	外傾		
213	B3b1	N - 39° - W	長方形	2.78 × 1.32	30	人為	平坦	外傾	縄文土器	
215	B2d0	N - 57° - W	長方形	1.50 × 0.79	23	人為	平坦	緩斜		

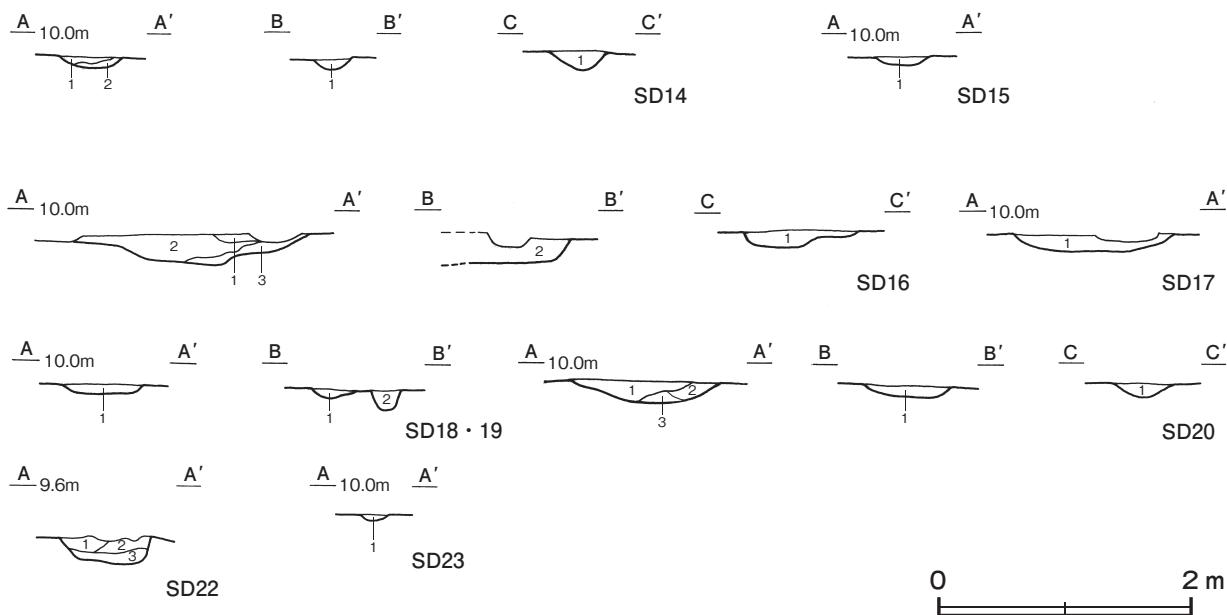
番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長軸×短軸 (m)	深さ (cm)					
216	B3c1	-	円形	0.58 × 0.57	42	人為	平坦	直立		
217	B2b0	N - 47° - W	楕円形	1.12 × 0.97	17	自然	平坦	緩斜		
219	B2b9	N - 27° - W	長方形	3.08 × 0.85	18	人為	平坦	外傾 緩斜	縄文土器, 陶器	
220	B2c0	N - 40° - W	長方形	2.18 × 0.95	30	人為	平坦	外傾 緩斜		
221	B2c0	N - 50° - E	長方形	1.74 × 0.97	20	人為	平坦	外傾		
222	B2c0	N - 52° - E	長方形	2.49 × 0.84	28	人為	平坦	外傾		
223	B2b9	N - 37° - W	[長方形]	(1.88) × 0.92	10	人為	平坦	外傾		
224	B2d9	N - 26° - W	長方形	1.77 × 0.68	12	人為	平坦	緩斜	土師質土器, 陶器	本跡→SK227
226	B2b9	N - 32° - W	[隅丸長方形]	(1.73) × 1.03	10	人為	平坦	緩斜		
227	B2d9	N - 55° - E	長方形	1.35 × 0.88	43	人為	凹凸	外傾		SK224・228→本跡
228	B2d9	N - 37° - W	長方形	1.57 × 0.95	30	人為	平坦	緩斜		本跡→SK227
229	B2c8	N - 33° - W	[長方形]	(1.47) × 1.03	35	人為	平坦	外傾		本跡→SK230
230	B2c9	N - 56° - W	不整長方形	1.30 × 1.05	37	人為	平坦	緩斜		SK229→本跡
231	B2d9	N - 43° - W	[長方形]	0.53 × (0.26)	15	人為	平坦	外傾		本跡→SK232
232	B2d9	-	円形	1.30 × 1.28	22	人為	平坦	緩斜 直立		SK231→本跡
233	B2c9	N - 40° - E	楕円形	1.26 × 0.95	25	人為	平坦	外傾 緩斜		
234	B2b9	N - 32° - W	楕円形	0.86 × 0.42	28	人為	平坦	外傾		
235	B2e7	N - 41° - W	[長方形]	(1.39) × 1.03	42	人為	平坦	外傾		
236	B2e8	N - 9° - W	[長方形]	(0.97) × 0.63	43	人為	平坦	外傾		SH8→本跡
237	B2c8	N - 36° - W	長方形	1.97 × 0.93	42	人為	平坦	緩斜		本跡→SK238
238	B2d8	N - 58° - E	長方形	1.71 × 0.97	34	人為	平坦	外傾 緩斜	石器	SK237→本跡
240	B2d8	N - 37° - E	長方形	0.77 × 0.45	34	人為	凹凸	外傾		

(3) 溝跡 (第 76・81 図)

今回の調査で、性格や時期ともに不明な溝跡 20 条が確認されている。これらの溝跡については、規模・形状等について実測図と土層解説、一覧表を掲載する。



第 76 図 その他の溝跡実測図 (1)



第77図 その他の溝跡実測図（2）

第1号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第2号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第5号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第6号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第7号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第8・9号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第10号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第11号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第12号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第14号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第15号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第16号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第17号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第18・19号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第20号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第22号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第23号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

表11 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方 向	形 状	規 模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	B4h0 ～B4l0	N - 55° - E N - 34° - W	L字状	(9.96)	0.44 ~ 0.68	0.20 ~ 0.40	10 ~ 24	U字状	緩斜	人為	縄文土器	
2	B5e3 ～B5f5	N - 39° - W	直線	(7.54)	0.22 ~ 0.60	0.08 ~ 0.27	6 ~ 20	U字状	緩斜	人為	縄文土器	
4	B5d6 ～B5e4	N - 50° - E	直線	(9.86)	0.46 ~ 0.72	0.14 ~ 0.42	10	U字状	緩斜	人為		本跡→ PG3
5	B5j4 ～B5j3	N - 52° - E	直線	(4.60)	0.50 ~ 0.58	0.26 ~ 0.42	14	U字状	緩斜	人為		
6	B5h6 ～B5j7	N - 38° - W	直線	13.04	0.24 ~ 0.60	0.14 ~ 0.23	17 ~ 21	U字状	緩斜	人為	縄文土器, 磁器	SI1, SK32・40 → 本跡 SD8・9と重複
7	B5f8 ～B5g7	N - 52° - E	直線	(7.14)	0.36 ~ 0.48	0.23 ~ 0.36	12	U字状	緩斜	人為	縄文土器	
8	B5g6 ～B5h6	N - 51° - E	直線	(2.88)	0.24 ~ 0.39	0.16 ~ 0.22	9	U字状	緩斜	人為		SD6と重複
9	B5g6 ～B5h6	N - 55° - E	直線	(2.76)	0.23 ~ 0.34	0.12 ~ 0.18	13	U字状	緩斜	人為		SD6と重複
10	B5j8 ～C5b9	N - 35° - W	直線	(6.75)	0.44 ~ 0.73	0.12 ~ 0.36	19 ~ 31	U字状	緩斜	人為	縄文土器, 土師質土器, 陶器	SK40・41 → 本跡
11	B5e9 ～C6a4	N - 35° - W	直線	(18.98)	0.25 ~ 0.72	0.09 ~ 0.28	18 ~ 32	U字状	外傾 緩斜	人為	縄文土器, 陶器, 石器, 鉄滓	SK28・46, SD12 → 本跡 SD16, 第1号堀跡と重複
12	B5e9 ～B6h1	N - 36° - W	直線	(12.04)	0.23 ~ 0.34	0.08 ~ 0.22	10	U字状	緩斜	人為	縄文土器, 石器	SD16 → 本跡 → SD11 SK57, 第1号堀跡と重複
14	B5e0 ～C6a5	N - 38° - W	直線	(28.65)	0.25 ~ 0.50	0.08 ~ 0.19	6 ~ 16	U字状	緩斜	人為	縄文土器, 陶器, 磁器	SD15・16 → 本跡
15	B6e1 ～B5e0	N - 63° - E	直線	(3.26)	0.42 ~ 0.50	0.18 ~ 0.24	6	U字状	緩斜	人為		SD16 → 本跡 → SD14
16	B6e1 ～B5f0	N - 53° - E	直線	(6.58)	0.86 ~ 1.20	0.35 ~ 0.73	14 ~ 26	U字状	緩斜	人為	縄文土器, 土師質土器	本跡 → SD12・14・15 SD11と重複
17	B6g2 ～B6i3	N - 41° - W	直線	(8.06)	0.88 ~ 0.97	0.43 ~ 0.58	13	U字状	緩斜	人為	縄文土器	本跡 → SD18
18	B6g4 ～B6h3	N - 49° - E	直線	6.36	0.23 ~ 0.33	0.07 ~ 0.18	7	U字状	緩斜	人為		SD17・19 → 本跡
19	B6g4 ～B6h3	N - 30° - E N - 83° - E	S字状	5.49	0.18 ~ 0.37	0.04 ~ 0.12	15	U字状	外傾	人為		本跡 → SD18
20	B6f1 ～C6a4	N - 43° - W	直線	21.46	0.23 ~ 0.87	0.12 ~ 0.28	6 ~ 17	U字状	緩斜	不明	縄文土器	
22	B4h9 ～B4h0	N - 56° - E N - 38° - W	L字状	(4.75)	0.64 ~ 0.82	0.50 ~ 0.66	22	U字状	外傾 緩斜	人為	縄文土器	SK1・4 → 本跡
23	B6g7 ～B6h8	N - 40° - W	直線	8.14	0.06 ~ 0.22	0.02 ~ 0.14	4	U字状	緩斜	人為		

(4) ピット群

今回の調査で5か所のピット群を確認した。東部に3か所、西部に2か所が分布している。各ピットの形状や規模は様々であるが、平面形は円形または楕円形を呈し、径17～58cmのものが多く、深さは6～79cmと様々である。これらのピットから出土した土器はいずれも細片で、遺物から時期を判断することはできない。以下、一覧表でそれぞれ掲載する。

第1号ピット群（第81図）

調査区東部のB 6 f1～B 6 h0 区、東西36m、南北13mの範囲から31か所のピットが検出された。標高10mほどの低台地平坦部に位置している。平面形は長径17～58cmの円形または楕円形で、深さは8～77cmである。縄文土器片1点（深鉢）が出土しているが、細片のため図示できない。時期は不明である。

表12 第1号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	× 短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	× 短軸 (径)	深さ		
1	B6f1	楕円形	29	×	16	14	17	B6i6	楕円形	32	×	25	11
2	B6f3	楕円形	32	×	20	11	18	B6i6	楕円形	50	×	35	51
3	B6f3	楕円形	32	×	20	48	19	B6h6	楕円形	20	×	18	18
4	B6f3	楕円形	28	×	23	23	20	B6i7	楕円形	36	×	32	17
5	B6g3	楕円形	36	×	25	14	21	B6g7	楕円形	23	×	20	22
6	B6f3	円形	25	×	24	13	22	B6g8	楕円形	24	×	16	13
7	B6i3	円形	25	×	24	18	23	B6g8	楕円形	21	×	18	23
8	B6i3	楕円形	43	×	30	20	24	B6g8	楕円形	58	×	35	14
9	B6i4	楕円形	26	×	23	8	25	B6i8	楕円形	24	×	20	9
10	B6g5	楕円形	32	×	28	21	26	B6g8	楕円形	42	×	27	15
11	B6g5	円形	28	×	26	11	27	B6g8	楕円形	27	×	24	28
12	B6g6	円形	34	×	31	15	28	B6g8	楕円形	43	×	32	18
13	B6h6	円形	24	×	22	21	29	B6h8	楕円形	28	×	24	18
14	B6i5	円形	17	×	17	13	30	B6g9	楕円形	30	×	25	25
15	B6i6	楕円形	37	×	32	77	31	B6h0	楕円形	29	×	25	18
16	B6i6	楕円形	29	×	25	25							

第2号ピット群（第81図）

調査区東部のB 5 i4～C 6 b1区、東西34m、南北21mの範囲から24か所のピットが検出された。標高10mほどの低台地平坦部に位置している。平面形は長径20～50cmの円形または楕円形で、深さは10～61cmである。縄文土器片8点（深鉢）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。時期は不明である。

表13 第2号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	× 短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	× 短軸 (径)	深さ		
1	B5i4	楕円形	30	×	25	26	13	B5j7	楕円形	25	×	22	36
2	B5i5	楕円形	40	×	30	15	14	B5j8	楕円形	34	×	28	12
3	B5i5	楕円形	40	×	30	26	15	B5h9	円形	28	×	27	14
4	B5i5	円形	31	×	29	19	16	B5h9	楕円形	22	×	18	15
5	B5i5	円形	37	×	35	24	17	B5h9	円形	22	×	22	24
6	B5i5	円形	50	×	46	33	18	B5g0	円形	24	×	23	17
7	B5j6	楕円形	20	×	16	11	19	B6h1	楕円形	41	×	33	13
8	B5i7	楕円形	33	×	30	43	20	B5i0	円形	22	×	21	12
9	B5i7	円形	22	×	22	10	21	B5j0	円形	22	×	21	30
10	B5i7	楕円形	35	×	27	29	22	C6a1	円形	27	×	25	14
11	B5j6	楕円形	25	×	20	20	23	C6a3	円形	49	×	46	61
12	C5a7	楕円形	38	×	26	41	24	C6b1	楕円形	41	×	30	26

第3号ピット群（第81図）

調査区東部のB 4 h0～B 5 d6区、東西23m、南北14mの範囲から25か所のピットが検出された。標高10mほどの低台地平坦部に位置している。平面形は長径21～54cmの円形または橢円形で、深さは6～56cmである。縄文土器片5点（深鉢）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。時期は不明である。

表14 第3号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規 模(cm)			ピット番号	位置	形状	規 模(cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	深さ					
1	B4h0	橢円形	30 × 20	36	14	B5e4	橢円形	54 × 30	44		
2	B5g1	橢円形	36 × 22	25	15	B5e4	橢円形	40 × 30	56		
3	B5i2	円形	37 × 35	44	16	B5e4	橢円形	29 × 26	19		
4	B5e3	円形	34 × 31	14	17	B5e4	橢円形	38 × 34	34		
5	B5e4	橢円形	48 × 20	44	18	B5e4	橢円形	42 × 33	34		
6	B5e4	橢円形	26 × 21	50	19	B5e4	橢円形	36 × 25	46		
7	B5d4	橢円形	22 × 19	10	20	B5e4	円形	32 × 31	45		
8	B5e4	橢円形	25 × 22	19	21	B5f4	円形	34 × 31	50		
9	B5e4	橢円形	24 × 21	28	22	B5e5	円形	38 × 36	27		
10	B5e4	円形	26 × 25	40	23	B5e5	橢円形	21 × 18	30		
11	B5e4	円形	25 × 24	24	24	B5d6	橢円形	24 × 20	9		
12	B5e4	円形	21 × 21	30	25	B5d6	橢円形	25 × 22	6		
13	B5e4	橢円形	35 × 26	35							

第4号ピット群（第81図）

調査区西部のB 3 a6～B 4 g2区、東西27m、南北23mの範囲から20か所のピットが検出された。標高10mほどの低台地平坦部に位置している。平面形は長径19～46cmの円形または橢円形で、深さは11～43cmである。縄文土器片5点（深鉢）、礫1点が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。時期は不明である。

表15 第4号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規 模(cm)			ピット番号	位置	形状	規 模(cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	深さ					
1	B3a6	円形	40 × 40	43	11	B3d0	橢円形	27 × 19	31		
2	B3b6	橢円形	46 × 40	18	12	B3f8	橢円形	43 × 26	28		
3	B3c6	橢円形	35 × 31	35	13	B3f8	橢円形	30 × 25	32		
4	B3c6	円形	31 × 30	40	14	B3f9	橢円形	19 × 16	15		
5	B3a8	橢円形	36 × 29	11	15	B3f0	橢円形	45 × 37	21		
6	B3c9	橢円形	40 × 30	36	16	B3f0	橢円形	39 × 33	37		
7	B3d9	橢円形	26 × 22	33	17	B4g1	橢円形	32 × 27	39		
8	B3d0	円形	24 × 23	23	18	B4g1	橢円形	38 × 25	39		
9	B3d0	円形	30 × 29	22	19	B4f2	橢円形	38 × 24	35		
10	B3d0	円形	24 × 23	40	20	B4g2	橢円形	33 × 29	42		

第5号ピット群（第81図）

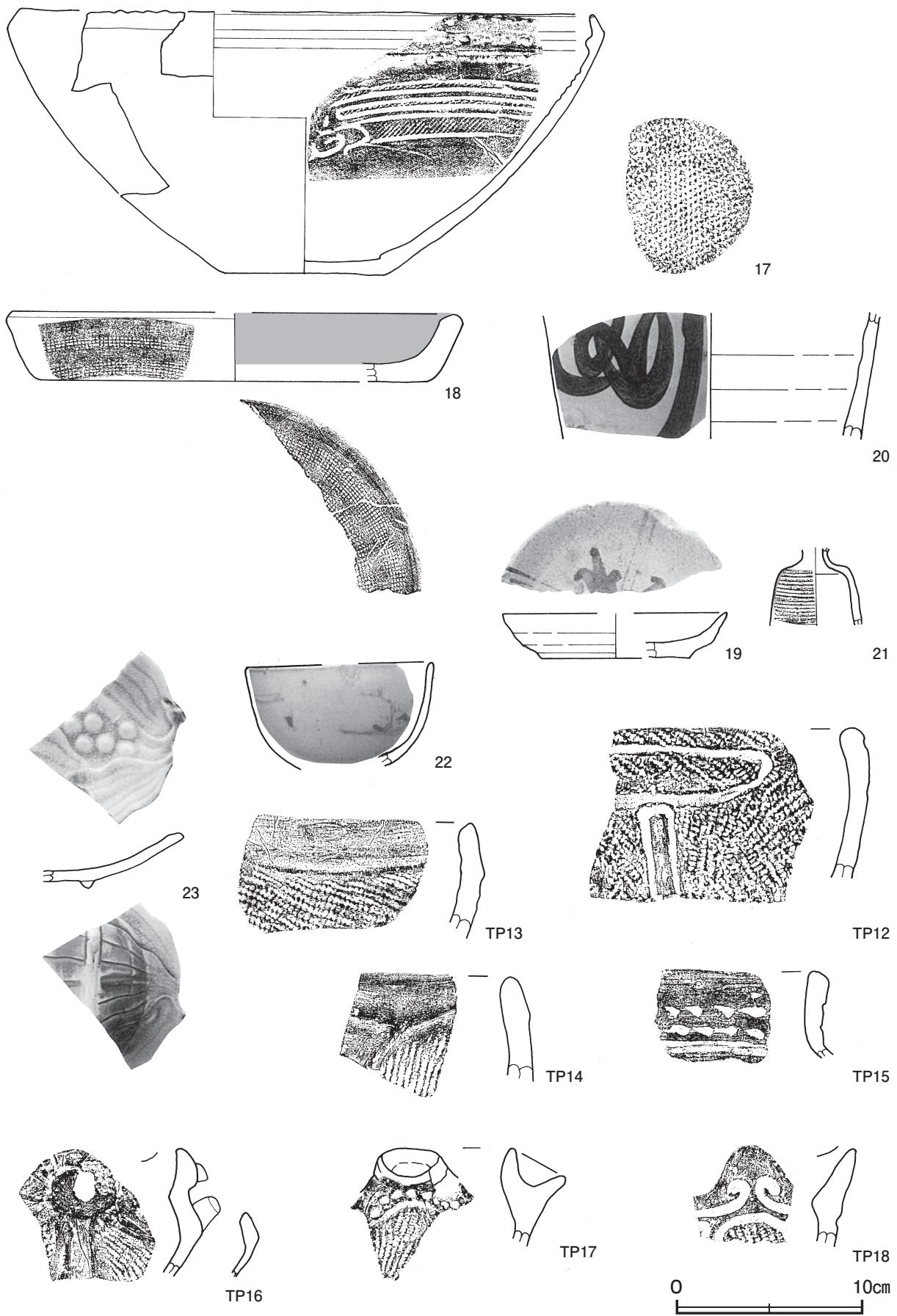
調査区西部のB 2d7～B 3e6区、東西37m、南北18mの範囲から62か所のピットが検出された。標高10mほどの低台地平坦部に位置している。平面形は長径18～51cmの円形または橢円形で、深さは9～79cmである。縄文土器片1点（深鉢）が出土しているが、細片のため図示できない。時期は不明である。

表16 第5号ピット群ピット一覧表

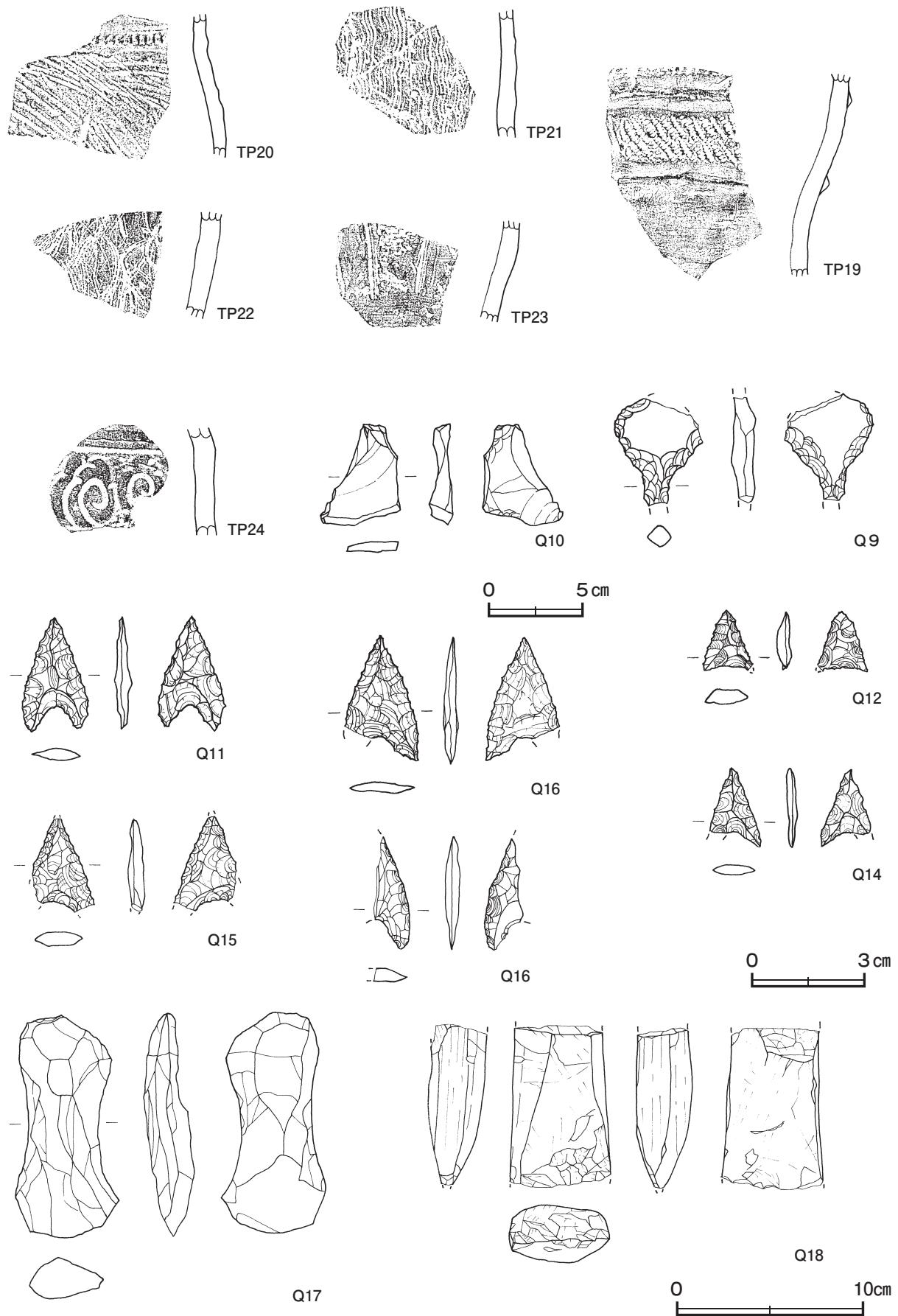
ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	深さ			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
1	B2d7	円形	31 × 29	35	32	B3e2	橢円形	40 × 33	12		
2	B2d7	橢円形	46 × 37	32	33	B3e3	円形	28 × 28	33		
3	B2d7	橢円形	35 × 28	35	34	B3e3	橢円形	30 × 26	29		
4	B2d8	橢円形	52 × 38	40	35	B3c3	円形	30 × 28	20		
5	B2d8	円形	48 × 48	40	36	B3c3	橢円形	29 × 24	13		
6	B2d8	円形	45 × 41	21	37	B3c4	橢円形	30 × 25	18		
7	B2d8	橢円形	50 × 43	40	38	B3c4	〔橢円形〕	31 × (25)	49		
8	B2d8	円形	29 × 25	15	39	B3c4	円形	29 × 28	24		
9	B2c8	円形	45 × 43	22	40	B3b5	円形	34 × 34	26		
10	B2c8	円形	40 × 38	47	41	B3c5	円形	35 × 35	18		
11	B2c8	円形	23 × 22	36	42	B3c5	円形	30 × 28	79		
12	B2c8	〔橢円形〕	32 × (26)	36	43	B3d5	橢円形	42 × 34	53		
13	B2c8	円形	46 × 44	35	44	B3d4	橢円形	31 × 27	20		
14	B2b0	〔円形〕	21 × (20)	21	45	B3d5	円形	27 × 26	20		
15	B2b0	円形	26 × 26	20	46	B3d5	橢円形	48 × 38	10		
16	B2b0	橢円形	29 × 24	40	47	B3d4	円形	30 × 30	18		
17	B2b0	橢円形	39 × 30	32	48	B3d5	橢円形	28 × 25	19		
18	B2b0	〔円形〕	(25) × 25	26	49	B3e5	橢円形	33 × 30	32		
19	B2b0	橢円形	37 × 28	28	50	B3e4	円形	29 × 29	65		
20	B2b0	円形	44 × 42	35	51	B3e5	橢円形	26 × 23	19		
21	B2b0	橢円形	29 × 26	36	52	B3e5	円形	28 × 27	16		
22	B2b0	円形	40 × 40	39	53	B3e5	円形	30 × 30	41		
23	B3c1	円形	25 × 24	25	54	B3e5	橢円形	51 × 33	20		
24	B3c1	円形	37 × 37	45	55	B3e5	円形	26 × 26	28		
25	B3c1	橢円形	34 × 30	36	56	B3f5	橢円形	30 × 23	25		
26	B3b2	橢円形	40 × 35	48	57	B3f5	橢円形	18 × 14	11		
27	B3c2	円形	35 × 32	17	58	B3f5	円形	23 × 21	9		
28	B3d1	円形	33 × 32	37	59	B3f5	円形	24 × 24	22		
29	B3d2	橢円形	40 × 33	12	60	B3e5	円形	42 × 39	48		
30	B3e2	橢円形	35 × 30	66	61	B3e6	橢円形	30 × 26	39		
31	B3e2	円形	32 × 30	38	62	B3e6	橢円形	45 × 34	32		

(5) 遺構外出土遺物（第78～80図）

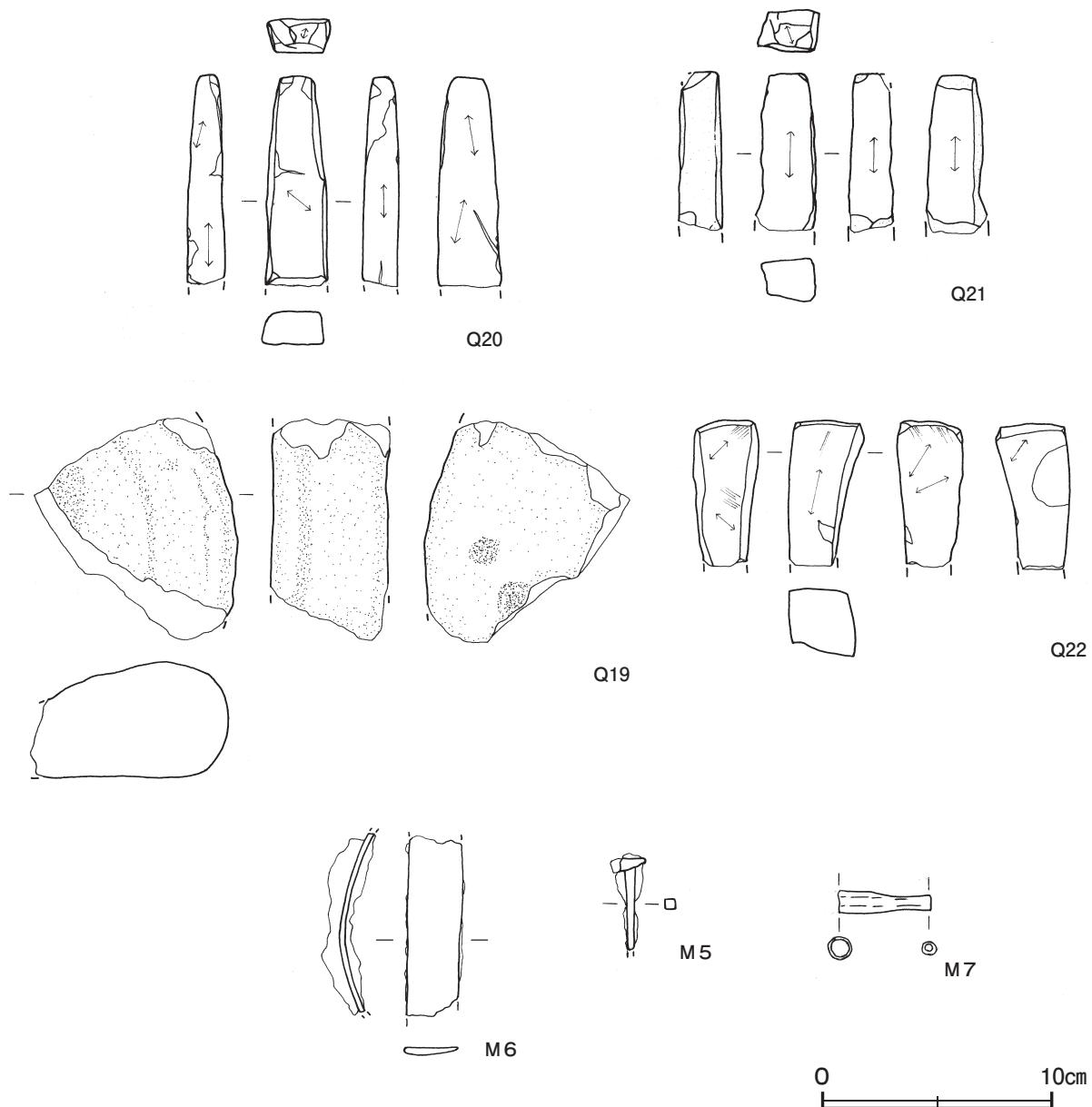
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第78図 遺構外出土遺物実測図（1）



第79図 遺構外出土遺物実測図（2）



第80図 遺構外出土遺物実測図（3）

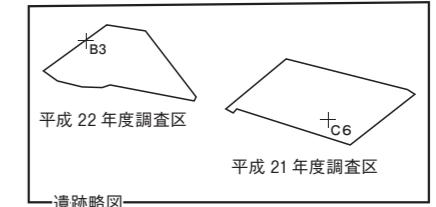
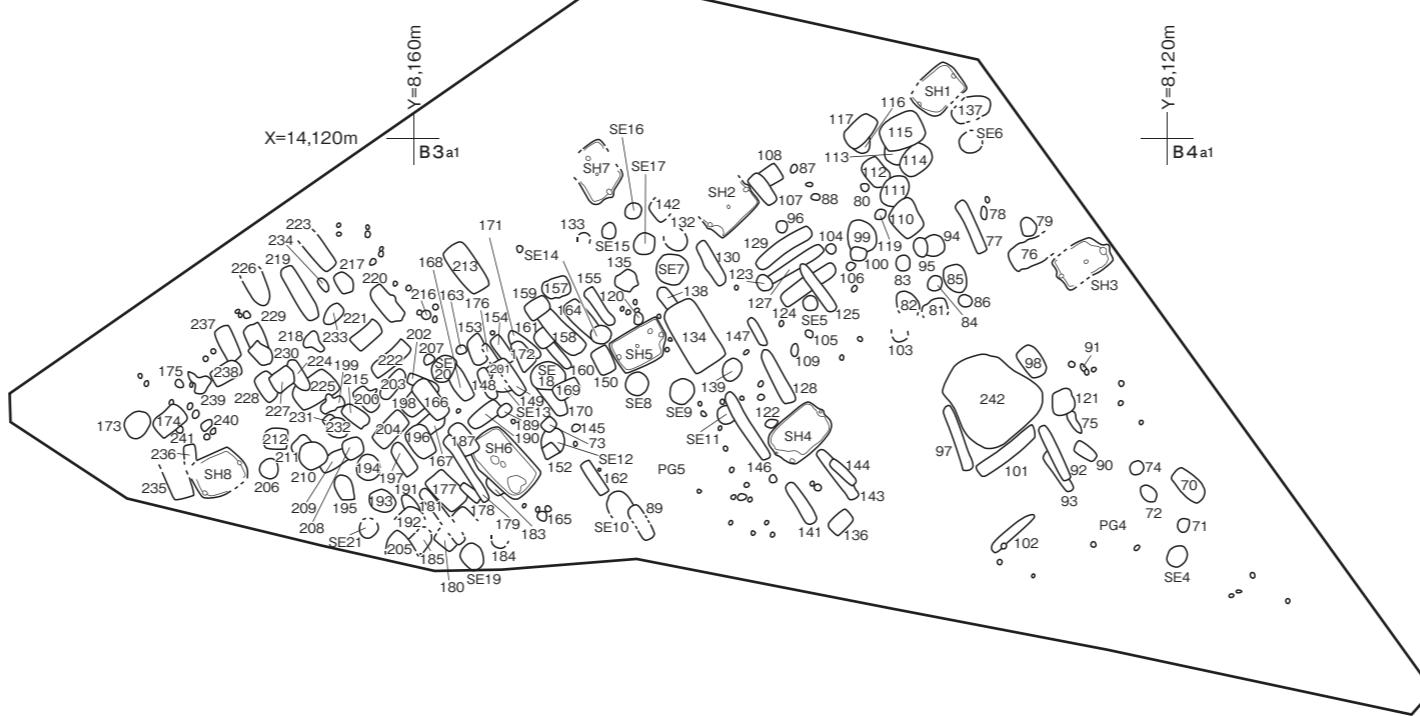
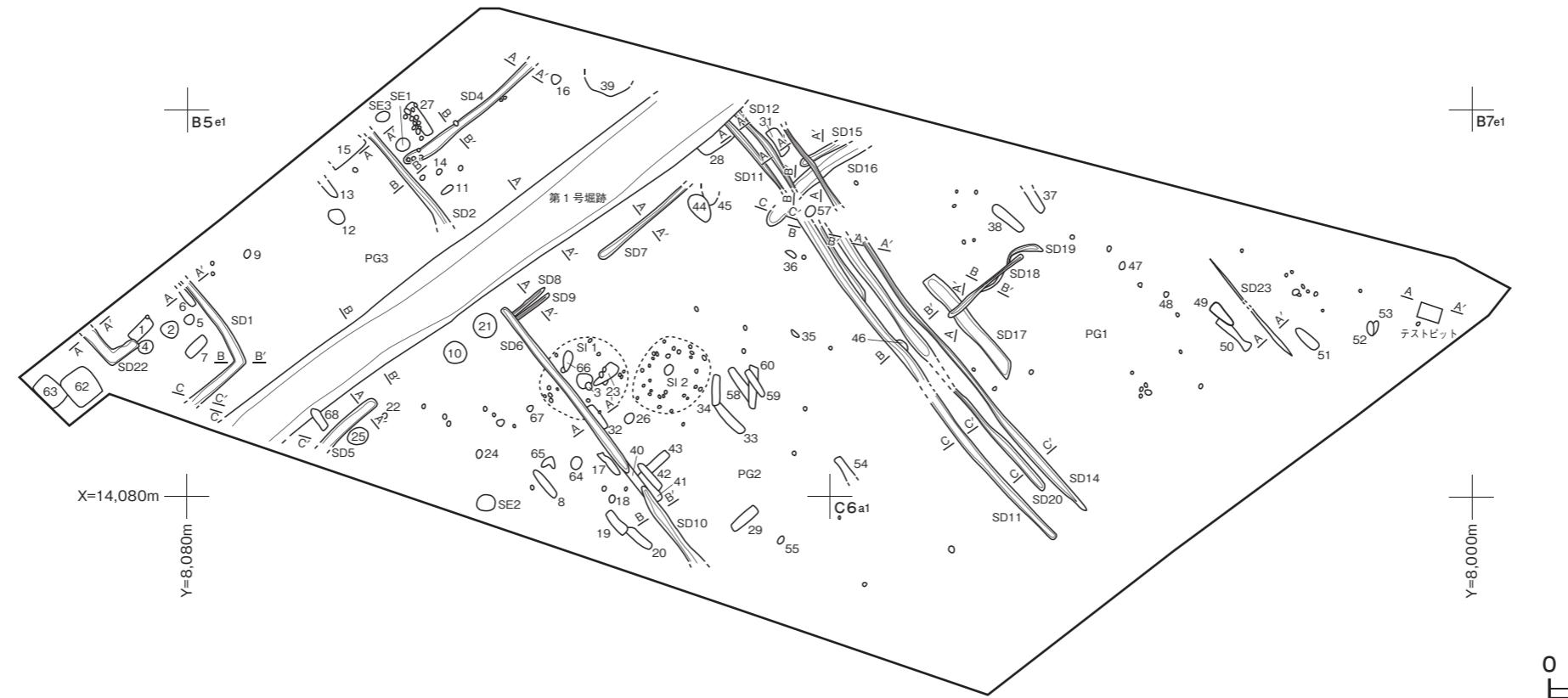
遺構外出土遺物観察表（第78～80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	浅鉢	[30.8]	14.2	8.5	長石・石英	灰褐	普通	外・内面磨き 口縁部内面刺突文 体部内面上位平行沈線と曲線の沈線 沈線間単節縄文L Rを充填 底部網代痕	表土	30% PL8
18	瓦質土器	焰焰	[24.0]	3.7	[20.6]	長石・雲母	褐灰	良好	クロナデ 体部外面・底部格子目状の押圧文	表採	10%
19	陶器	丸皿	[12.0]	2.4	[8.0]	長石・石英	淡黄	良好	外・内面施釉 内面鉄絵文様有り	SD10	瀬戸・美濃系 40% PL9
20	陶器	徳利	-	(7.9)	-	長石・石英	灰白	良好	長石釉 銘不明 通徳利カ	表採	瀬戸・美濃系 10% PL10
21	陶器	水滴	-	(4.2)	-	長石・雲母	暗灰黄	良好	外施釉 13条の沈線	表採	产地不明 20%
22	磁器	碗	[10.2]	(5.6)	-	緻密・灰白	灰白	良好	外面風景文 下部一重円 内面一重円	SD6	肥前系 40% PL10
23	磁器	皿	-	(3.0)	-	緻密・灰白	明綠灰	良好	青磁 仏手掛文皿カ	表採	肥前系カ 20% PL9

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	口縁部に楕円形沈線文を施文後、多方向の単節縄文RLを充填 沈線間磨消	表土	PL10
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文LRと口縁部隆帯による区画文 口縁部無文	表土	PL10
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	単節縄文RLと隆帯による区画文を施文 口縁部無文	表土	PL10
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部に横方向の刺突文	表採	PL10
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	暗灰黄	無節縄文L 口縁部にJ字状の突起貼付 波状口縁	表土	PL10
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	O段多条RL 沈線による区画に沿って刺突文施文 波状口縁	表土	PL10
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	O段多条RL 沈線による区画文内に縄文充填	表土	PL10
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	単節縄文LRを地文 隆帯による区画文内に単節縄文RLを充填	表土	PL11
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	斜行する条線施文後紐線貼付	表土	PL11
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	浅黄橙	櫛歯状工具による条線施文後刺突文	表土	PL11
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	半截竹管による条線文	表土	PL11
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	単節縄文RLを地文に沈線文施文 沈線間磨消	表土	PL11
TP24	瓦質土器	火鉢	長石・石英	橙	沈線による渦巻状の文様	表採	PL11

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	石錐	(2.9)	2.4	0.6	(3.85)	チャート	両面調整 錐部欠損	表土	PL12
Q 10	剥片	5.4	4.3	1.3	20.0	チャート	打面は单剥離面	表土	PL12
Q 11	石鎌	3.1	1.8	0.5	1.24	黒曜石	両面押圧剥離	表土	PL12
Q 12	石鎌	(1.3)	(1.6)	0.4	(0.48)	黒曜石	両面押圧剥離	表土	PL12
Q 13	石鎌	3.4	(2.0)	0.4	(1.52)	チャート	両面押圧剥離 片側脚部欠損	表土	PL12
Q 14	石鎌	2.1	(1.3)	0.3	(0.45)	チャート	両面押圧剥離 片側脚部欠損	表土	PL12
Q 15	石鎌	(2.5)	(2.7)	0.4	(1.58)	チャート	両面押圧剥離 先端部及び両側脚部欠損	表土	PL12
Q 16	石鎌	3.0	(0.9)	0.4	(0.89)	チャート	両面押圧剥離 左半部欠損	表土	PL12
Q 17	打製石斧	12.0	5.6	2.7	155	安山岩	両面調整	表土	PL12
Q 18	磨製石斧	(8.7)	5.5	3.0	(247)	緑色凝灰岩	両面及び側面を研磨 刃部に使用痕有り	SD11	PL12
Q 19	石皿	(9.8)	(8.9)	5.2	(430)	安山岩	片面石皿 一方が凹石として併用 欠損	SE12	PL12
Q 20	砥石	(9.1)	2.8	1.6	(58.9)	凝灰岩	砥面5面 他は破断面	SD11	PL13
Q 21	砥石	(6.9)	2.7	1.9	(47.9)	凝灰岩	砥面4面 他1面は破断面	SD12	PL13
Q 22	砥石	(6.4)	3.2	3.1	(69.0)	凝灰岩	砥面4面 他1面は破断面	表採	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	釘	(4.0)	(1.0)	0.5	(5.1)	鉄	先端部欠損 断面方形	PG3	PL13
M 6	不明鉄製品	(7.9)	2.3	0.4	(26.3)	鉄	板状で彎曲している	表採	
M 7	煙管	4.1	1.0	1.0	2.7	銅	吸口部 外面綠青	表土	PL13



第 81 図 穂迦新田遺跡遺構全体図

第4節 まとめ

1 はじめに

当遺跡は、平成21年度（平成22年1月～3月）と平成22年度（平成23年1月～3月）にかけて調査を行った。今回の調査で、竪穴住居跡2軒（縄文時代）、井戸跡21基（中世12・不明9）、火葬土坑4基（中世）、方形竪穴遺構8基（中世）、土坑224基（縄文時代2・中世47・近世55・不明120）、堀跡1条（近世）、溝跡20条（不明）、ピット群5か所（不明）を確認し、当遺跡が縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることを確認した。ここでは、確認された各時代の様相について概観するとともに、主に縄文時代と中世の遺構について若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 遺跡の様相

（1）縄文時代

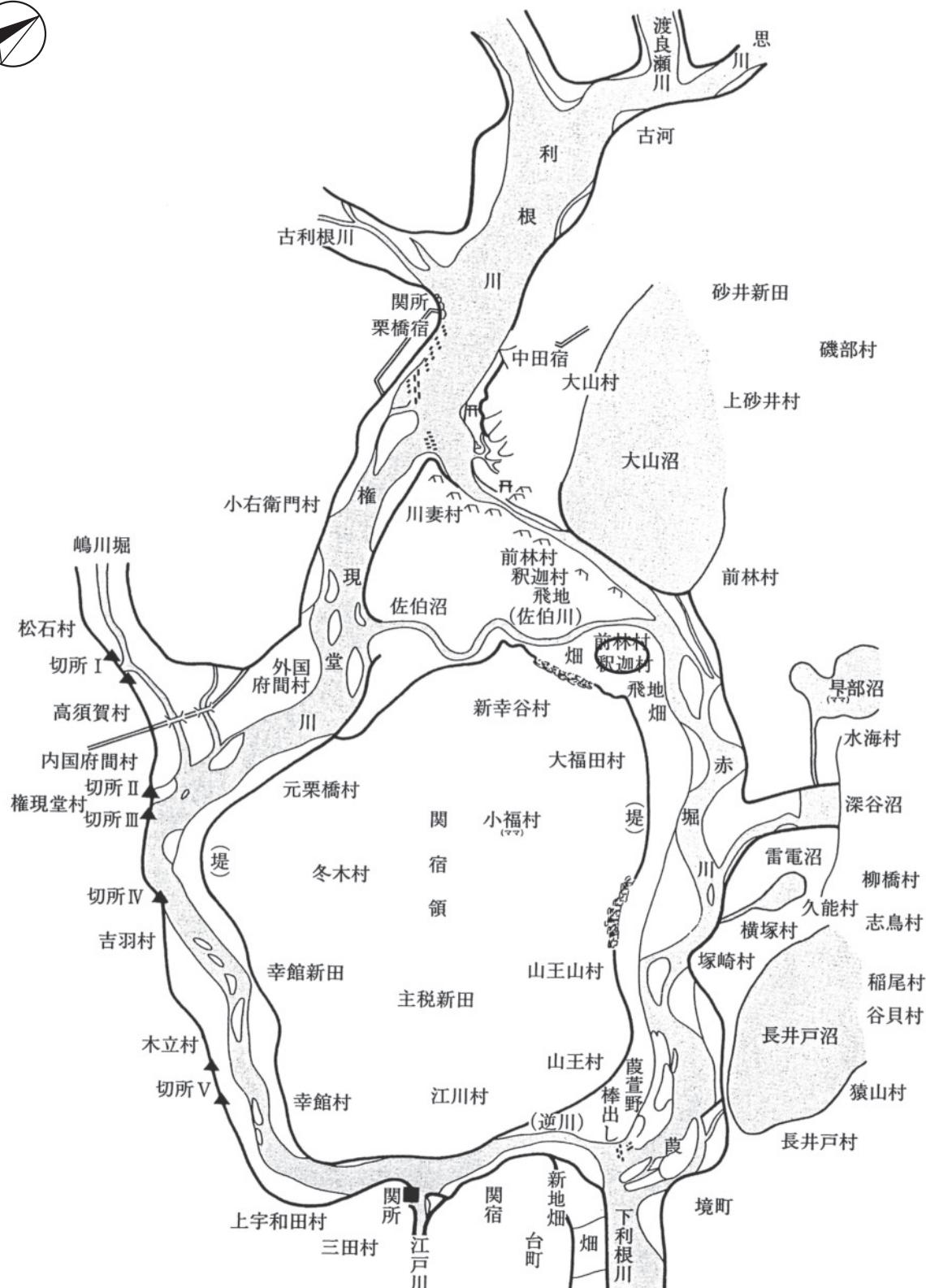
当時代の遺構として、竪穴住居跡2軒、土坑2基を確認した。いずれの遺構からも縄文土器片が出土しており、沈線間の磨消や口縁部の橢円形区画文など、加曽利EⅡ～EⅢ式期¹⁾に多く見られる特徴を有していることから、中期後葉の遺構であることが判明した。今回の調査で確認された当時代の遺構数は多くはないものの、耕作土中や中世・近世の遺構が構築された面から出土したものも含めると3,000点近くの縄文土器片が出土しており、調査区域外にも当時代の遺構が存在することをうかがわせる。当時代の海岸線は内陸部まで入り込み、現在の五霞町域は当時の奥東京湾と古鬼怒湾に挟まれ、半島状に残った陸地にあたる。当遺跡から南西約1kmの場所に中期の小手指貝塚が所在することから、内湾に面して集落が営まれていたと考えられる²⁾。これらのことから、当地域は主に中期後葉に居住域が形成されていた集落跡であったと想定することができる。

前期の遺跡は小手指貝塚から南東部に土塔貝塚³⁾などが確認されている。また、後期から晩期になると、同じく小手指貝塚から南部に冬木A貝塚、冬木B貝塚⁴⁾が所在している。こうした周辺遺跡の様相から、前期は、半島状に残った南東部の土塔貝塚、中期は北西部の小手指貝塚や当遺跡など、後・晩期は南部の冬木貝塚と、集落が時期によって水辺を回るように移動していると言える。

（2）中世

当時代の遺構として、井戸跡12基、火葬土坑4基、方形竪穴遺構8基、土坑47基を確認した。多少の時期差が見られるものの、大半の遺構から出土している遺物は常滑6a～6b型式の甕もしくは片口鉢片であり、それらは13世紀後半には機能していた遺構であると考えられる。

また、火葬土坑や銭貨が出土している土坑なども確認されている。火葬土坑については、当遺跡から南南東に約4kmの場所に所在する桜井前遺跡⁵⁾や、同じく南南東に約5kmの場所に所在する瀬沼遺跡⁶⁾などからも検出されている。また、明治18年測量の地形図によると、当遺跡の推定地から北北東に約200mの場所に寺院の所在が確認できている。斎藤忠氏は、中世の寺院と墓地との関係について「寺域内に墓地を営むよりも、寺辺に墓地または埋葬の施設を持つ場合が多い」と述べている⁷⁾。遺構の状況や当時の周辺の様相などから、当遺跡の中世の様相として茶毘所もしくは墓地である可能性が高いと考えられる。その一方で方形竪穴遺構、井戸跡も確認されていることから、墓地以外の機能も想定される。方形竪穴遺構については、後に若干の考察を加えるものとする。



※ ○印は、釧迦新田遺跡が所在すると考えられる場所である。

第82図 赤堀川切広場所並川筋絵図 文化6年（1809）一部加筆（『町史 五霞の生活史』より）

(3) 近世（第 82 図）

当時代の遺構として、土坑 55 基、堀跡 1 条を確認した。

平成 21 年度の調査区で確認した第 1 号堀跡は、上幅が 3 ~ 4 m 以上、深さは 1.5 m 前後で、調査区を北東・南西方向に 38 m 以上にわたって貫く大規模なものである。幅広く掘り直された様子もうかがえることや、周辺遺跡の類例などから、水運に利用された可能性が高い。それと同時に、低い土地に溜まった悪水を排水するため、水路としての用途も大きな役割であったと考えられる。

近世初頭の元和 7 年（1621），勘定頭伊奈忠治によって、現在の古河市と五霞町の間を流れる赤堀川が開削され、これが今日の利根川の流路となっている。この利根川東遷事業により、現古河市側にある釧路村・前林村の飛地が現五霞町域に所在し、当地周辺に釧路新田遺跡が所在すると推定される。この飛地は近世後期の絵図には畠地とあり、当時代には本村から飛地へ船で渡り、耕作を行っていたと考えられている⁸⁾。

近世初期のいわゆる利根川東遷事業で、五霞町域はそれ以前にも増して洪水の被害を被ることが多くなった。そのため五霞町域には『末代まで權現様（徳川家康）を御恨み申し上げる』といったことが語り継がれたという。五霞町域には数多くの水路が存在していたことが、こうした歴史的背景、また当時の古絵図などからも明らかになっており、第 1 号堀跡もその中の一つであると想定することができる。

当該期の平成 22 年度の調査区は、軸方向をほぼ同じくする土坑群が確認されている。第 82 図には畠地の西側に家屋を示す印も確認できる。調査段階でも本遺跡の西側に住宅が存在していることなどから、第 1 号堀跡の西側は、当時代には居住地と耕作地の間に位置しているとみられる。中世の火葬土坑が確認されており、墓域の可能性も拭いきれない。詳細については当時代に伴う遺物の量が少なく、今回の調査では明らかにできない部分もあり、周辺地域の今後の調査に期待したい。

3 繩文時代の土器埋設炉について（第 83 ~ 85 図）

前述のように、当時代の住居跡 2 軒のうち、第 2 号住居跡からは土器埋設炉が検出されている。その形態について若干の考察を加えたい。

縩文時代中期の土器埋設炉については、荒蒔克一郎氏が『茨城県宮後遺跡における縩文中期竪穴住居跡の形態について』の中で次のように分類している⁹⁾。

土器埋設炉 - M a 類：土器の口縁部と底部を欠き胴部を利用しているもの

1 種：炉床面が土器の周囲にあるもの

2 種：炉床面が土器の内部にあるもの

M b 類：土器の胴部下半を欠き口縁部から胴部を利用しているもの

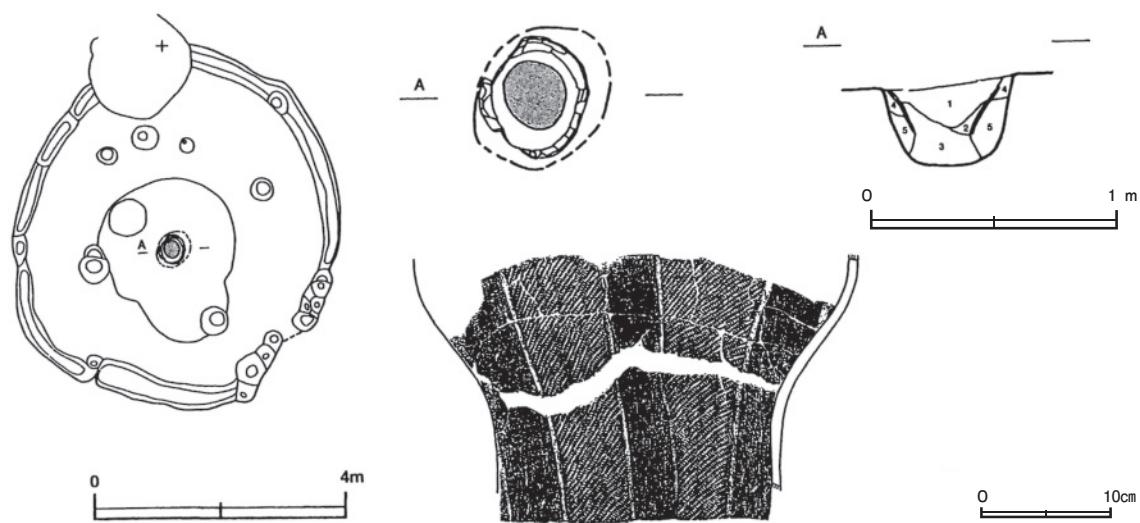
1 種：炉床面が土器の周囲にあるもの

2 種：炉床面が土器の内部にあるもの

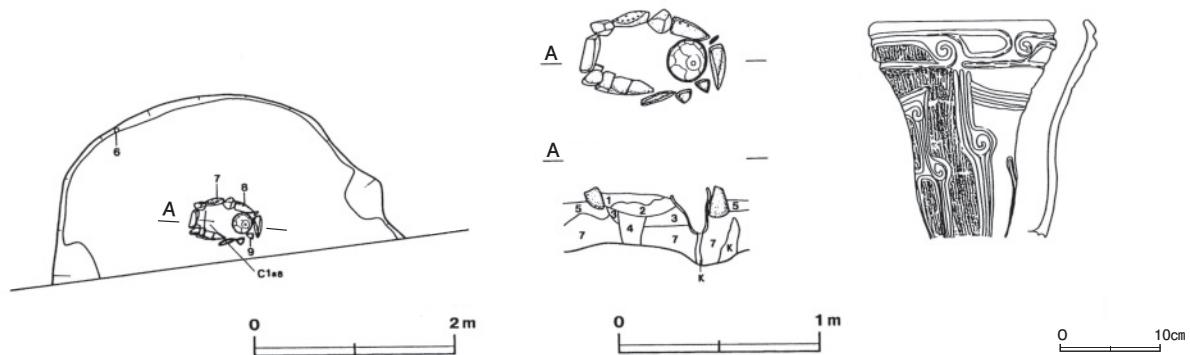
M c 類：その他の形態を示した土器を用いているもの

上記の分類に照らして、当遺跡の土器埋設炉と比較検討を行ってみることとする。なお、当遺跡の第 2 号住居跡土器埋設炉の詳細については 11 頁を参照されたい。埋設状況についてのみ下に述べることとする。

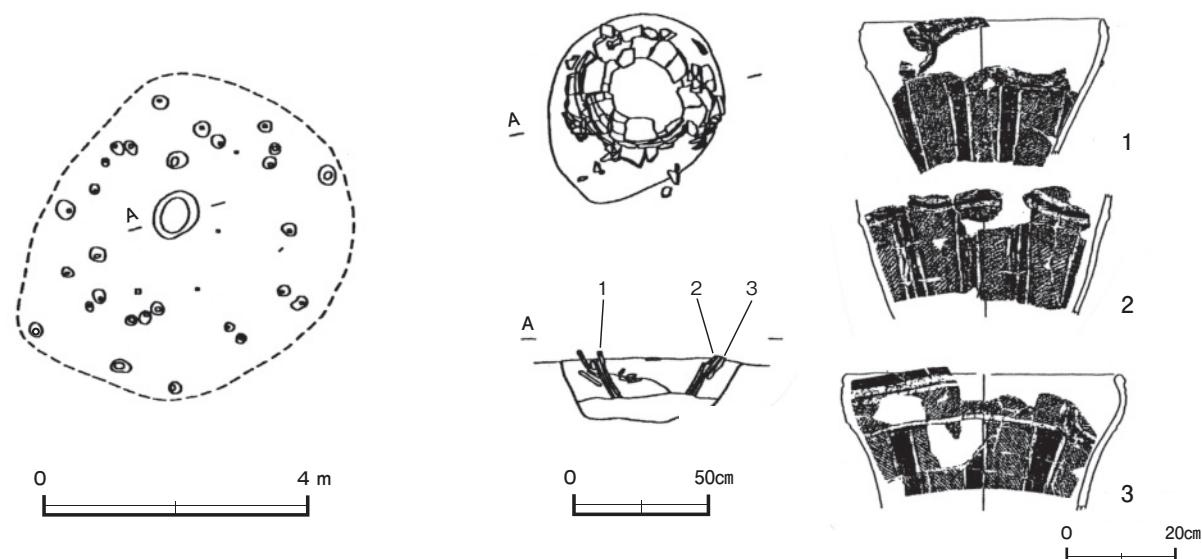
土器埋設炉は床面の中央部に付設されている。炉は深鉢を三重に埋設しており、内側と中側の土器は、隣接する土器片とそれぞれ接合関係にある。外側の土器片は、破片同士が隣接せずやや離れた位置で確認されているが、そのほとんどが一個体として接合できた破片である。内側の土器片には火を受けた痕跡が確認できている。



第83図 宮後遺跡第212号住居跡（加曾利EⅢ古段階期）（『研究ノート』11号より）



第84図 後側遺跡第8号住居跡（加曾利EⅡ期）（『茨城県教育財団文化財調査報告』第108集より）



第85図 釈迦新田遺跡第2号住居跡（加曾利EⅡ期）

第2号住居跡埋設土器の利用形態については、炉として使用されていた3個体のうち、1（内側の土器）と3（外側の土器）では口縁部の一部が確認されている。その一方で、2（中側の土器）については胴部のみで、M a類の可能性があるが、本跡は上部が後世の搅乱を受け床面を確認できなかったことから、その上部も削平されたものと想定できる。こうしたことから、本跡の土器埋設炉はM b類に当てはまると考えられる。次に炉床面については、前述の通り炉の上部が削平されていることを考えると、炉床面を確認することは極めて困難な状況である。しかしながら、埋設土器1の内部に若干の焼土が確認できた一方で、埋設土器3の外側では焼土が確認できていないこと、さらに1の内側に被熱痕が確認できていることなどから、本跡の土器埋設炉は2種に当てはまるものと考えられる。

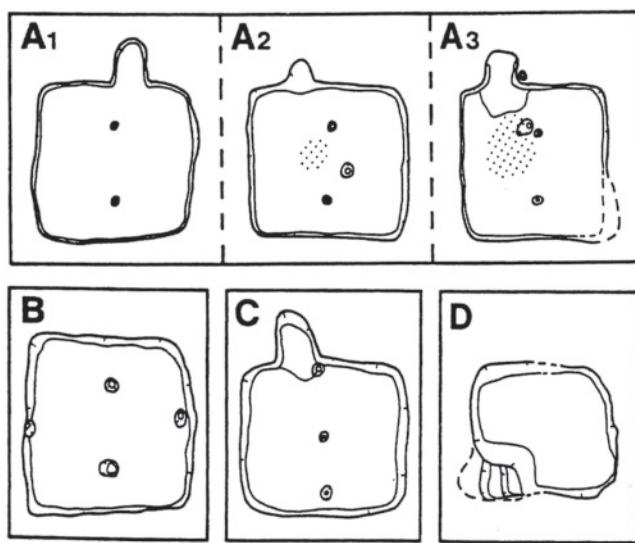
土器埋設炉の形態の変遷について、荒蒔氏は「加曾利E I式新段階以前が1種で加曾利E III式古段階（第83図）以降が2種という図式が看取できる。」と記述している¹⁰⁾。その中で補完材料として挙げている後側遺跡第8号住居跡の炉体土器（第84図）が加曾利E II式であり¹¹⁾、本跡の土器埋設炉（第85図）は加曾利E II式からE III式への移行期にあたる土器である。土器埋設炉の分類では先に述べたようにM b類の2種ということになり、時期的変化ともほぼ一致するものと考えることができる。なお、三重の土器埋設炉については十分な類例を確認することができず、今後の周辺地域の調査に期待するところである。

4 中世の方形堅穴遺構について（第86～88図）

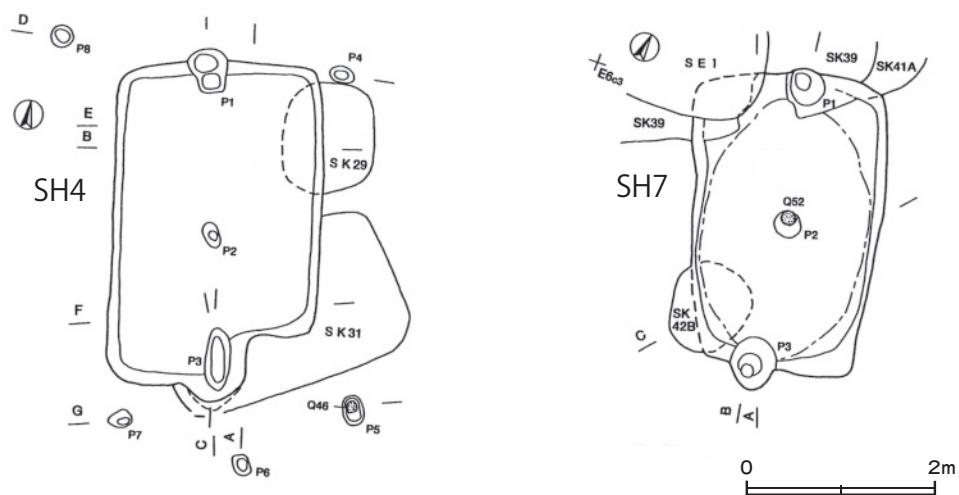
中世の方形堅穴遺構については、中・近世研究班が『中世の堅穴遺構について』¹²⁾の中で、柴崎遺跡の方形堅穴遺構を4群6類型に分類している。形態の違いや用途については、当遺跡から南に約1kmに所在する石畠遺跡¹³⁾において検出された遺構とも比較・検討してみたい。

柴崎遺跡では方形堅穴遺構約90基が確認されている。3時期程度の変遷がみられ、2か所の柱穴・出入口・囲い炉を有するものが中心で、住居と考えられている。石畠遺跡では14基が確認されている。平面形はすべて長方形（不整・隅丸を含む）で、出入口は全体の71%で確認されている。柱穴はほとんどが3か所で、遺構の周りにピットを伴うのが特徴である。炉状施設は確認されておらず、その一方で硬化面は全体の86%で確認されている。出土遺物は、土師質土器、常滑産陶器、硯、平瓦など、14世紀後半から15世紀後半にかけてのものである。当遺跡で確認された8基の平面形は、すべてが長方形である。出入口は全体の50%で確認され、柱穴が3か所確認できたのは全体の50%であるが、残り25%は中央部が搅乱を受けており、合計で75%が3か所の柱穴配置になる可能性がある。炉状施設は確認できず、硬化面はすべてで確認できている。出土遺物の量は少なく、常滑6a型式の片口鉢が出土したほかは、土師質土器や陶器の細片が確認できたのみである。13世紀後半が中心になるとを考えられる。

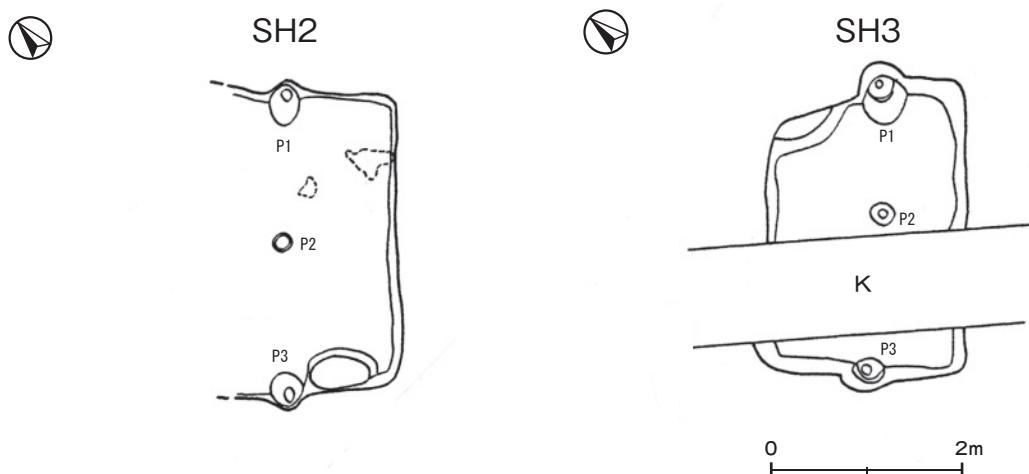
当遺跡の遺構の形状を第86図の分類と比較してみると、平面形や出入口の張り出しなどの違いはあるものの、3か所に柱穴を有するC類に当てはまるものが多い。形状がほぼ单一であることから、当遺跡の方形堅穴遺構は、ある一定の時期に機能していたと想定できる。また、当遺跡と石畠遺跡とを比較してみると、石畠遺跡の特徴である外周ピットや柱穴の礎石の存在や、出土遺物による年代のずれなどはあるものの、両遺跡における方形堅穴遺構の形状は酷似している。石畠遺跡における方形堅穴遺構の性格は、『住居の可能性が考えられるが、特定の職人層・身分層の仕事の場、「工房」の可能性も否定できない。』としている。当遺跡についても炉状施設はなく、周囲の遺構から鉄滓や羽口なども出土していることから、居住区域というよりも工房、倉庫といった用途が想定できる。



第86図 壇穴遺構の平面形（『研究ノート』創刊号より）



第87図 石畠遺跡第4・7号方形壇穴遺構（『茨城県教育財團文化財調査報告』第192集より）



第88図 釈迦新田遺跡第2・3号方形壇穴遺構

5 おわりに

以上、釧迦新田遺跡の様相及び遺構の性格について、近隣や県内各地の類例と比較しながら述べてきた。今回の調査で、当遺跡が縄文時代中期後葉には集落として、中世には茶毬所もしくは墓地など、近世には洪水対策として、また、水運の目的で水路が流れていたことが判明した。三重になった土器埋設炉や、方形堅穴遺構など、当遺跡の全容については今後の調査事例を含めたさらなる分析が必要であるが、今回の調査成果が当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。

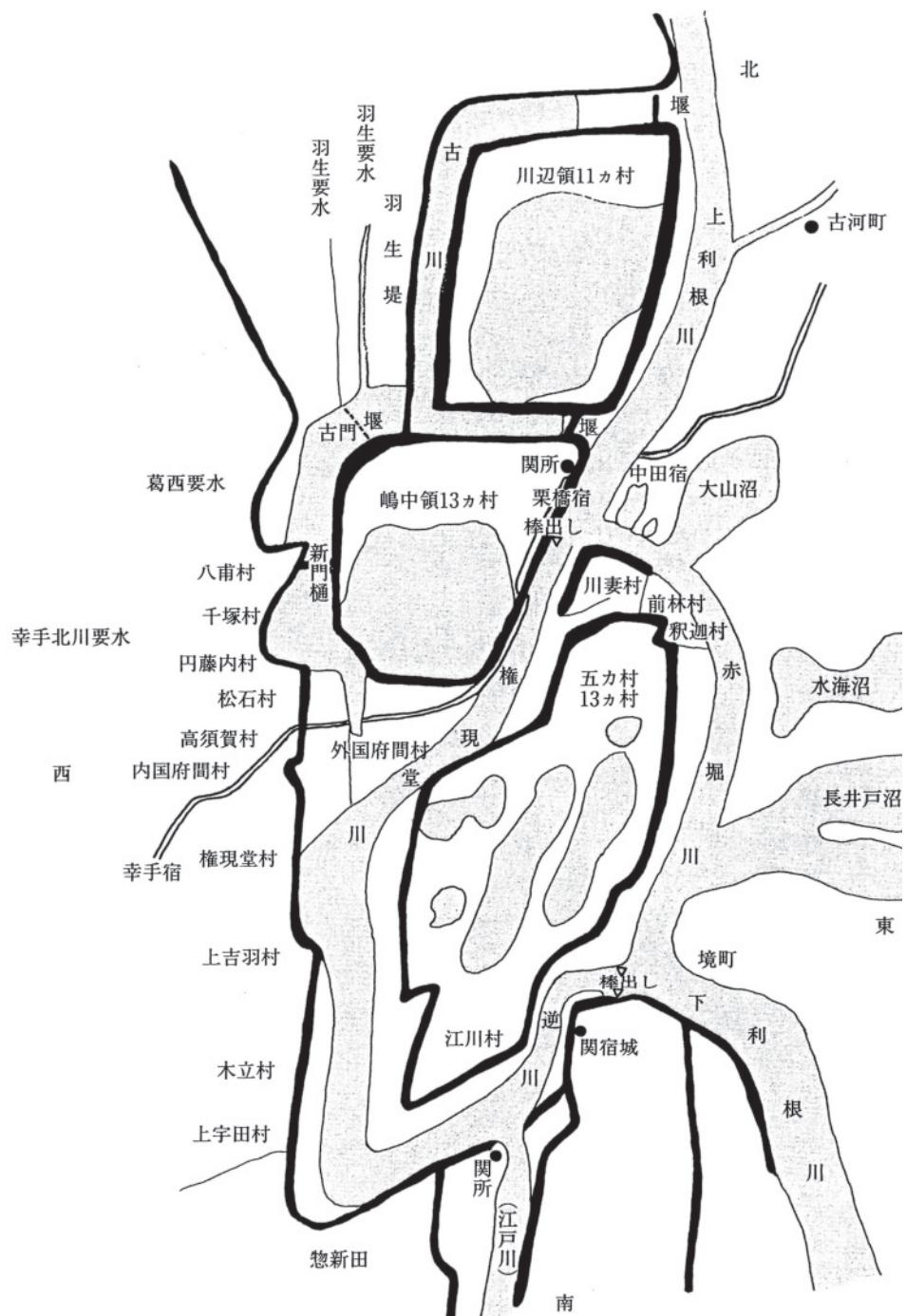
最後に、今回は堤防拡幅に伴う発掘調査であり、人と水との関わりが調査原因となり、当遺跡の様相が明らかになったと言える。その関わりが縄文時代から今日まで連綿と続いていることも今回明らかになったことである。水の恩恵にあずかることもあれば、それとは逆に思わぬ水の害を被ることもある。最後に掲載する第89図は、五霞町域の人々と水との関わりを象徴的に示した古絵図¹⁴⁾である。この地で水を利用し、水を治めながら日々の暮らしを営んできた先人たちに敬意を表して本稿を閉じたい。

註

- 1) 縄文土器の編年については以下の文献に依拠した。
大川清・鈴木公雄・工楽善通編『日本土器事典』雄山閣 1996年12月
- 2) 須藤正美「土塔貝塚 潛沼遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第289集 2008年3月
- 3) 註2)と同じ
- 4) 高村勇・根本康弘「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書 冬木A貝塚・冬木B貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告』IX 1981年3月
- 5) 桑村裕「桜井前遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第288集 2008年3月
- 6) 本橋弘巳「同所新田遺跡2 潜沼遺跡2 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第312集 2009年3月
- 7) 斎藤忠『墳墓の考古学 斎藤忠著作選集4』雄山閣 1996年12月
- 8) 第82・89図及び五霞町域の近世の様相については以下の文献に依拠した。
五霞町史編さん委員会『町史 五霞の生活史 水と五霞』五霞町 2010年3月
- 9) 荒岸克一郎「茨城県宮後遺跡における縄文中期堅穴住居跡の形態について－炉跡の形態を中心として－」『研究ノート』11号 財団法人茨城県教育財団 2002年6月
- 10) 註9)と同じ
- 11) 池田晃一「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書I 上入野遺跡 青木遺跡 後側遺跡 前側遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第108集 1996年3月
- 12) 中・近世研究班「中世の堅穴遺構について」『研究ノート』創刊号 財団法人茨城県教育財団 1992年7月
- 13) 成島一也「石畳遺跡 12県単道改第12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第192集 2002年3月
- 14) 註8)と同じ

参考文献

- ・総和町史編さん委員会『総和町史 資料編 原始・古代・中世』総和町 2002年3月
- ・総和町史編さん委員会『総和町史 通史編 原始・古代・中世』総和町 2005年7月
- ・小林達雄編『総覧 繩文土器』アム・プロポーション 2008年6月
- ・和田清典 吹野富美夫 浅野和久 荒藤克一郎 駒澤悦郎「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告書 第240集 2005年3月
- ・佐久間好雄監修『古河・岩井・水海道・猿島の歴史』郷土出版社 2005年11月
- ・茨城地方史研究会『茨城の歴史 県西編』茨城新聞社 2002年8月



第89図 川辺領・嶋中領・関宿領村々囲い堤絵図 17世紀前半（『町史 五霞の生活史』より）

写 真 図 版

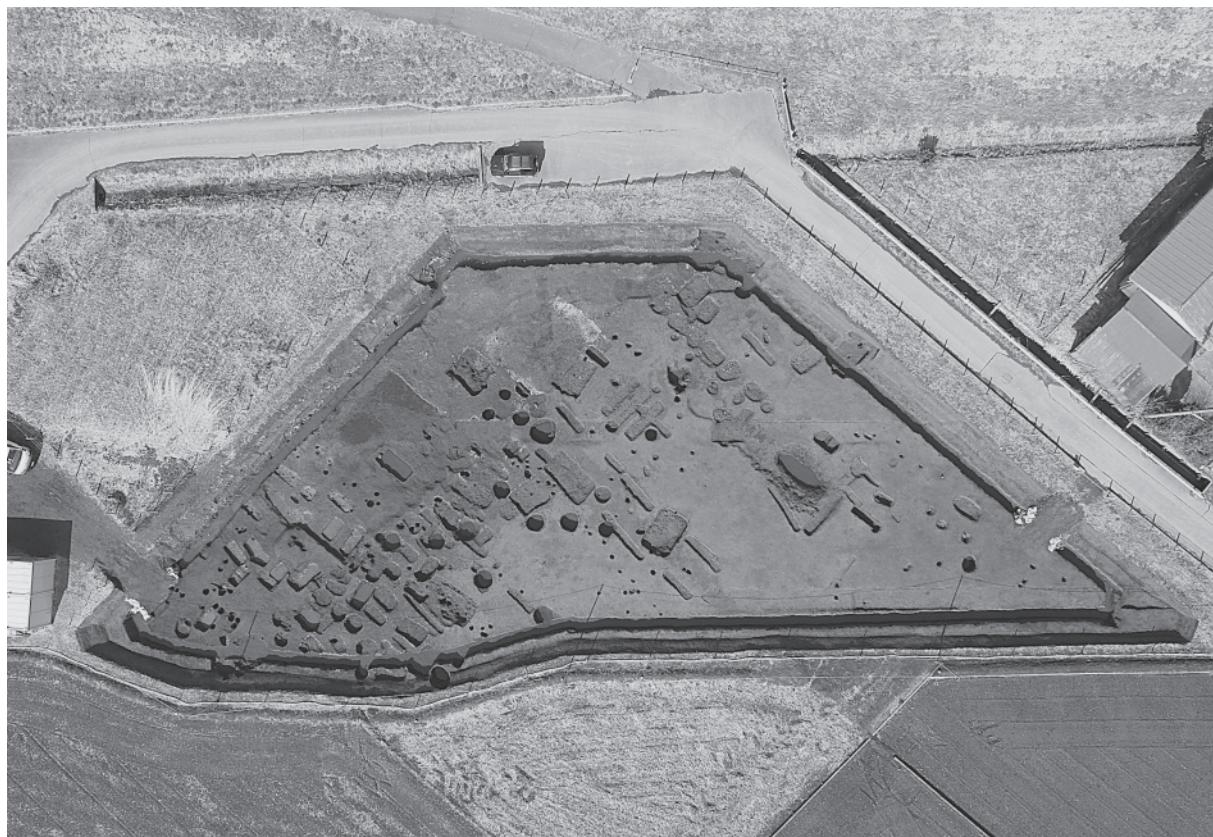


平成21年度調査区遠景 東上空から

PL1



平成21年度調査区全景



平成22年度調査区全景

PL2



平成21年度調査区 完掘状況



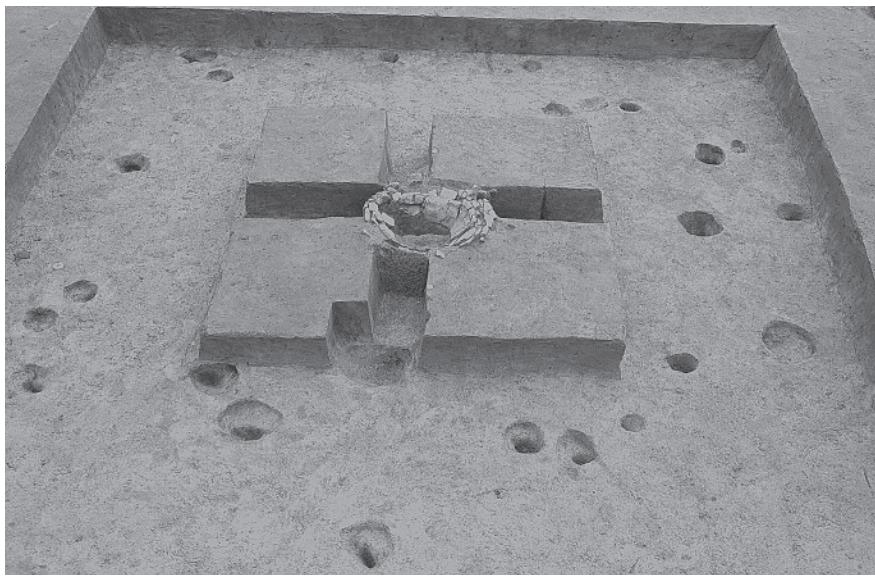
平成22年度調査区 完掘状況

第 1 号 住 居 跡
完 挖 状 況

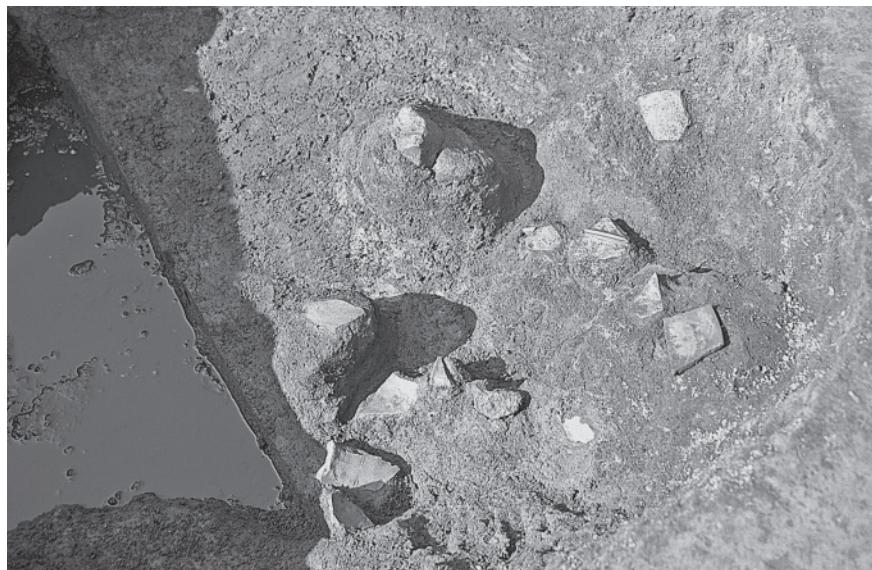


第 2 号 住 居 跡
炉 完 挖 状 況

第 2 号 住 居 跡
完 挖 状 況



PL4



第7号井戸跡
遺物出土状況



第12号井戸跡
完掘状況



第15号井戸跡
遺物出土状況

第21号井戸跡
遺物出土状況



第199号土坑(火葬土坑)
確認状況



第199号土坑(火葬土坑)
完掘状況



PL6



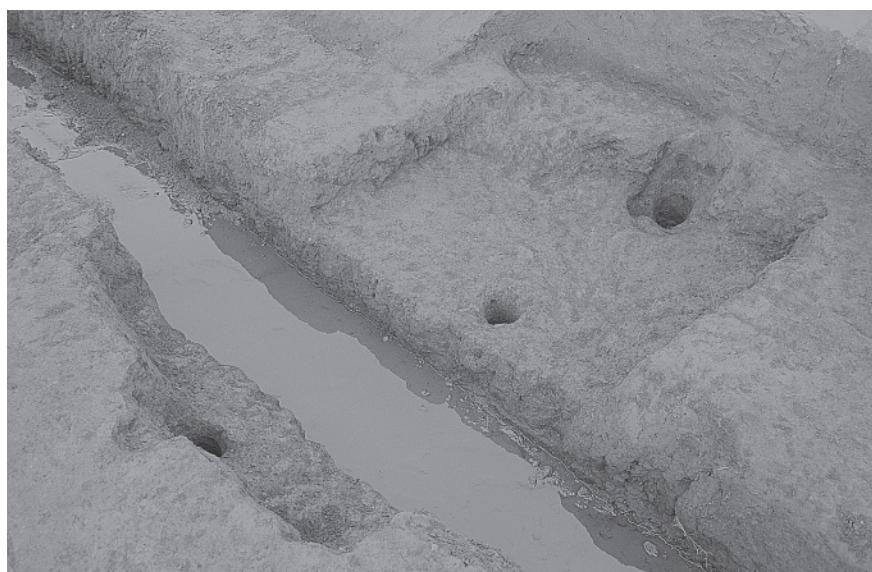
第218号土坑(火葬土坑)

遺物出土狀況



第239号土坑(火葬土坑)

遺物出土狀況



第3号方形竖穴遺構

完掘狀況

第5号方形竪穴遺構
完掘状況



第241号土坑
遺物出土状況



第242号土坑
遺物出土状況



PL8



第 242 号 土 坑
完 挖 状 況



第 1 号 堀 跡
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 堀 跡
完 挖 状 況



SI 2-1



遺構外-17



SI 2-2



SK241-15



SI 2-3



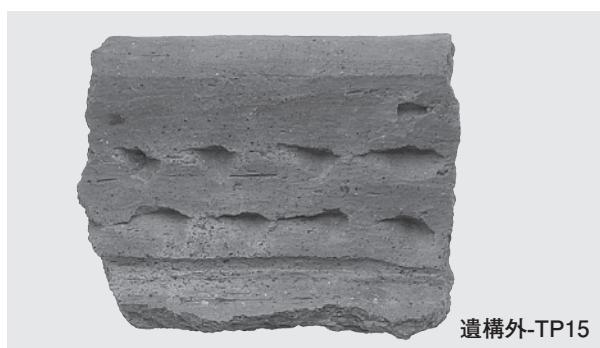
SE6-7

第2号住居跡、第6号井戸跡、第241号土坑、遺構外出土土器

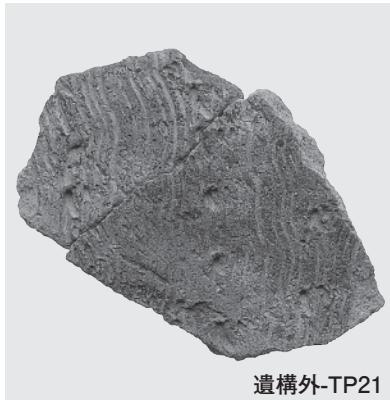
PL10



第6・7・15・18・19号井戸跡、第3号方形竪穴遺構、第161号土坑、遺構外出土土器



PL12



遺構外-TP21



遺構外-TP20



遺構外-TP22



遺構外-TP23



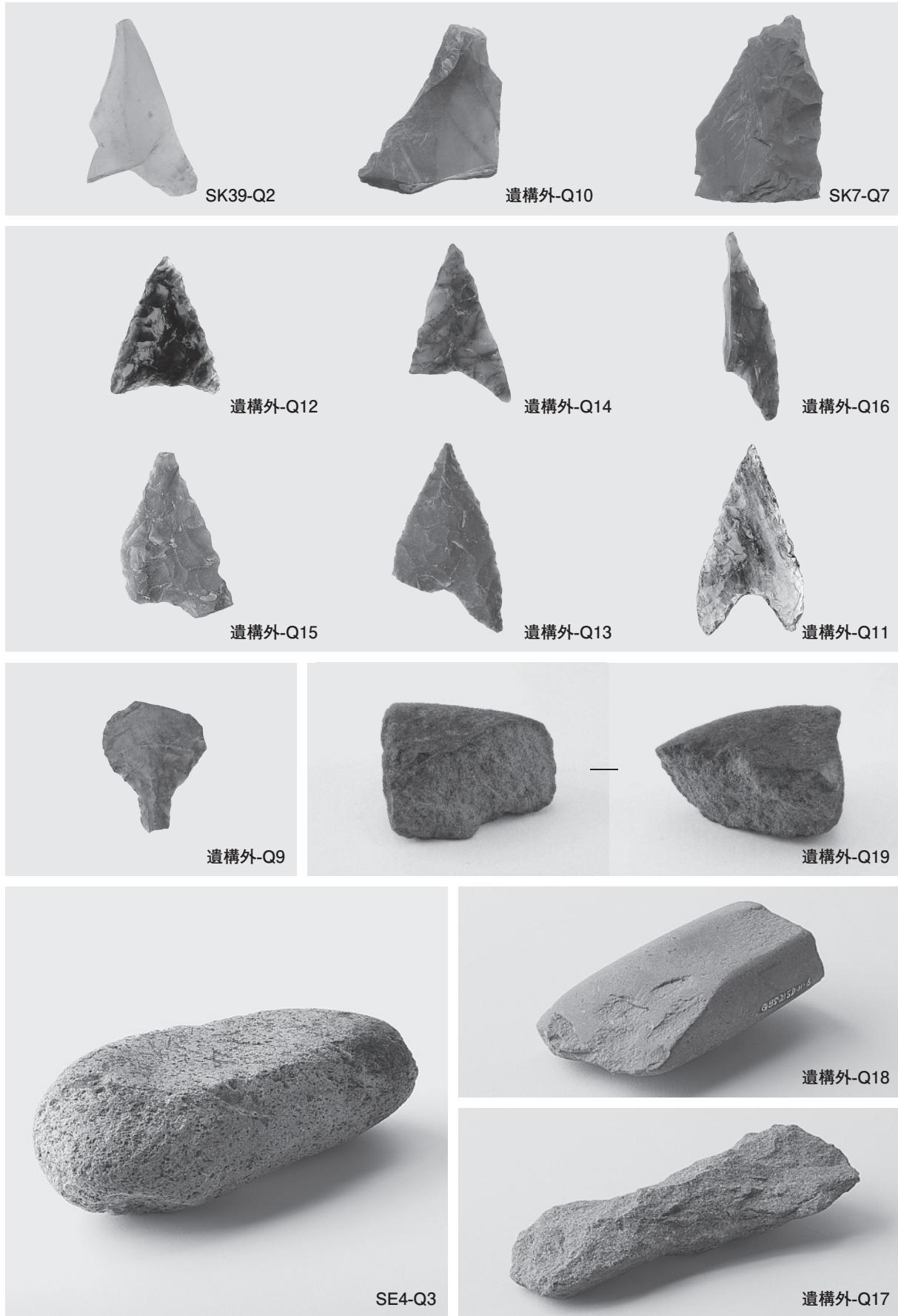
遺構外-TP24

遺構外-TP19



SE19-TP10

第19号井戸跡、遺構外出土土器



出土石器

PL14



SE19-Q4



遺構外-Q21



遺構外-Q22



遺構外-Q20



SE20-Q5



SK238-Q8



遺構外-M5



第1号堀跡-M4



遺構外-M7



第1号堀跡-M3



SK157-M1



SK242-M2



SK207-W1

出土石器，金属製品，木製品

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium Service Pack 1
編集 Adobe Indesign CS5
図版作成 Adobe Illustrator CS5
写真調整 Adobe Photoshop CS5
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
画面類 EPSON ES-10000G
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe Indesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第352集

釈迦新田遺跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書 1

平成24（2012）年 3月14日 印刷
平成24（2012）年 3月16日 発行

発行 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒311-4152 水戸市河和田1丁目1704番12号
TEL 0120-23-1473